



僕は 今 夢を見ています
長い長い時間^{とき}を
少しずつ越えながら
夢を見ています

この地球^{はし}が宝玉^{たまき}のように
青く澄んだ惑星^{はし}となることを
元の姿に戻^{もど}ることを 望み

僕は 今 夢を見ています

スプリング 30号 目次

巻頭言

1

行事紹介

4

大手前高校校内マップ

7

自治会

9

潜入ルポ

'89 自治会 Free Talk

各区紹介

15

スプリング 30号特別企画

現代を見つめる

21

スプリングのお話しましょ!

39

修学旅行

〜修学旅行の舞台裏〜

43

クラブ紹介

50

クラブアンケート

クラブ物語



新任先生紹介

62

しいはく

64

- ・旅の喜び
 - ・大切にしたいもの
 - ・さくら めいる
 - ・ひとこと
- 社会科 桜井洋先生
理科 半井庸子先生
英語科 岸田尚子先生
保健体育科 庭野孝夫先生

読み物

74

- ・伝統の敗北ーコンスタンティノポリスの陥落ー
- ・To the world for growin-ups
- ・埴輪からの大脱走
- ・魚
- ・小さなファンタジー
- ・CRAFT
- ・トワイライトゾーン
- ・大手前の自然

編集後記

86

編集委員の叫び
三十周年に寄せて

表紙デザイン 美術部

黒一点



学校行事紹介

(89年度を参考に
して製作しました。)

五十音順リスト

4月

(上旬)

始業式・入学式・対面式

オリエンテーション (一年)

クラブ紹介

宿題テスト

(下旬)

校外教授

5月

(上旬)

創立記念日 (1日)

第1回平常考査 (一、二年)

(中旬)

第1回実力考査 (三年)

健康診断

体力テスト (一、二年)

(下旬)

中間考査

バレーボール大会

6月

(中旬)

コーラス大会

文化祭

7月

(上旬)

期末考査

(中旬)

水泳訓練 (一年)

(下旬)

終業式

夏休み

補充授業 (三年)

8月

(下旬)

夏休み

(下旬)

補充授業 (三年)

課外学習 (一、二年)

ア行 アチーブテスト：二学期、三学期の初めにある。一、二年が

受けるテスト。

大阪城マラソン：毎年二月に行われ、大阪城の周りを走る。

オリエンテーション：新入生への学校紹介。

音楽発表会：音楽選択者全員による合唱、合奏を発表する。

カ行 課外学習：夏休みの後半、一、二年生対象に行われる。

期末考査：学期の最後に行われる定期テスト。

クラブ紹介：新入生を対象にクラブごとで紹介する。

健康診断：一学期にあり、身長、体重等を測る。

校外教授：春と秋にある、いわゆる遠足。

校内大会：毎学期、何か球技をクラス対抗で競う。

コーラス大会：クラス対抗で行う。本選は文化祭で。

サ行 始業式：学期の始まりを表す恒例の儀式。

実力考査：二年生は三学期に一度あり、三年生になると、幾

度か行われる。

修学旅行：二年の二学期に行く。最も心に残ると言われている行事。高校生活の振り返り地点でもある。

終業式：学期の終わりを表す恒例の儀式。

宿題テスト：休暇中の宿題チェック。

水泳訓練：一年生を対象に緑地公園プールで行われる。

水泳大会：クラス対抗で行われる、水泳による競技。

スキー教室：三学期の期末考査の後、信州で行われる。

9月	(上旬)	始業式 水泳大会
	(中旬)	アチーブテスト(一、二年) 第2回実力考査(三年)
10月	(下旬)	体育大会 中間考査 修学旅行(二年) 校外教授(一、三年)
11月	(中旬)	第3回実力考査(三年) 校内大会 文化系クラブ発表会
12月	(中旬)	期末考査 スケート教室 終業式 冬休み
1月	(上旬)	始業式 アチーブテスト(一年) 実力考査(二年)
2月	(上旬)	予餞会・離別式 音楽発表会 大阪城マラソン
	(下旬)	卒業式
3月	(上旬)	期末考査 スキー教室 終業式

スケート教室：二学期の期末考査の後、桜宮スケートリンクで行われる。

創立記念日：五月一日にあり、今年は3・4連休となる。

卒業式：二月下旬にあり、言うまでもなく大手前高校を卒業する時である。

タ行 体育大会：二学期に行われ、クラス対抗で競技する。また、

クラブ対抗リレー等も目を離せない。

対面式：在校生と新入生が顔を合わせる儀式。

体力テスト：一学期に行われ、50m走、ハンドボール投げ等を測る。

中間考査：一、二学期の中期に行われる定期テスト。

ナ行 夏休み：長期休暇だが、三年生はとても短くなる。

入学式：大手前高校入学を表す式。

ハ行 バレーボール大会：一学期の中間考査後に行われる。校内大会のうちの一つ。

冬休み：クリスマス、お正月を含んだ長期休暇。

文化系クラブ発表会：二学期に行われる、文化系クラブによる発表会。

文化祭：六月に二日間にかけてクラス・クラブ発表、コーラス大会本選などが行われる。

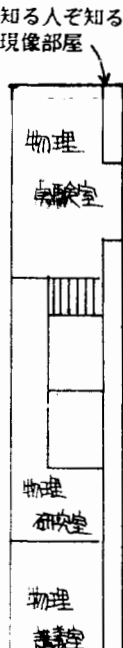
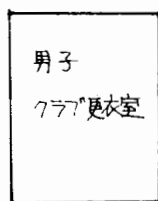
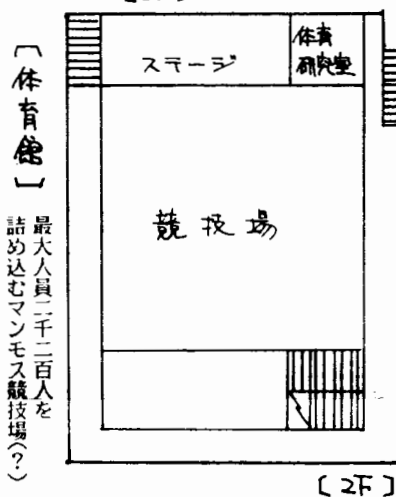
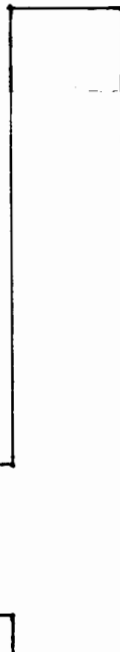
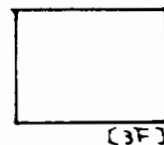
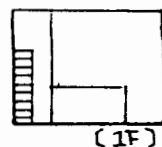
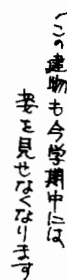
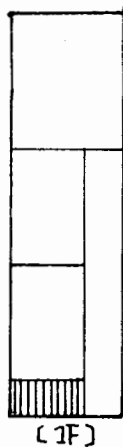
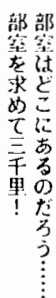
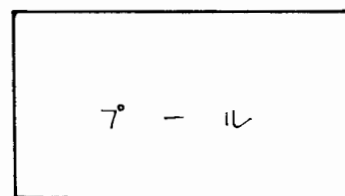
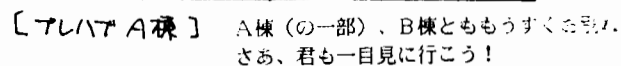
平常考査：定期テストとは別に、年に何回も行われるテスト。

補充授業：夏休み、三年生を対象に行われる。

ヤ行 予餞会：三年生の追い出し会と言われている。

ラ行 離別式：三年生と一、二年生とのお別れの儀式。

by: 地歴部

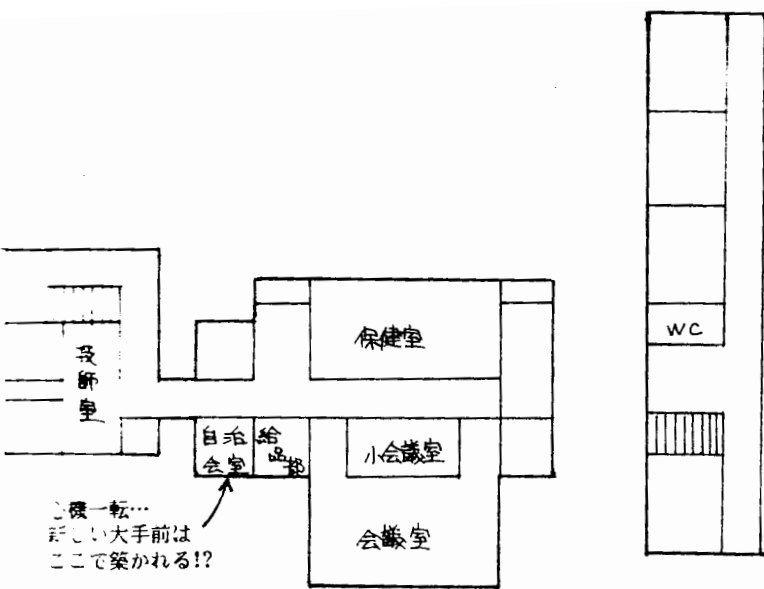


君は全メニユーを
達成できるか？

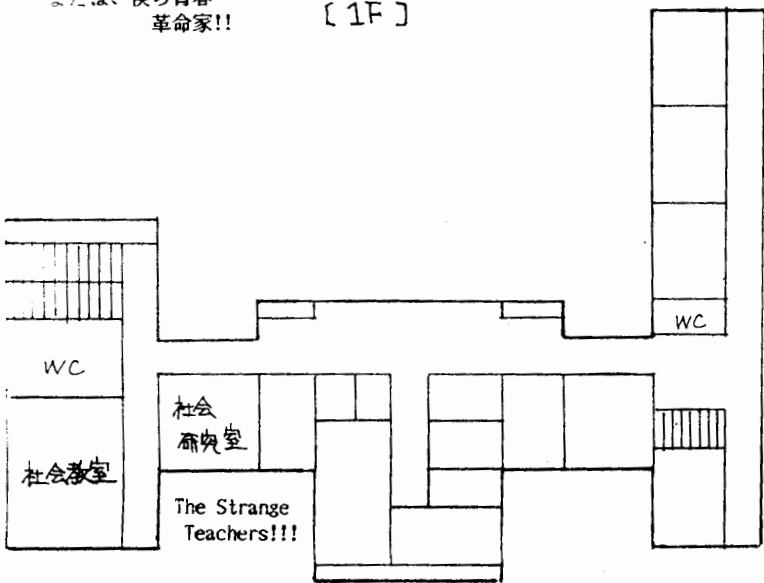
庭中

君のクラスはどこだろう？

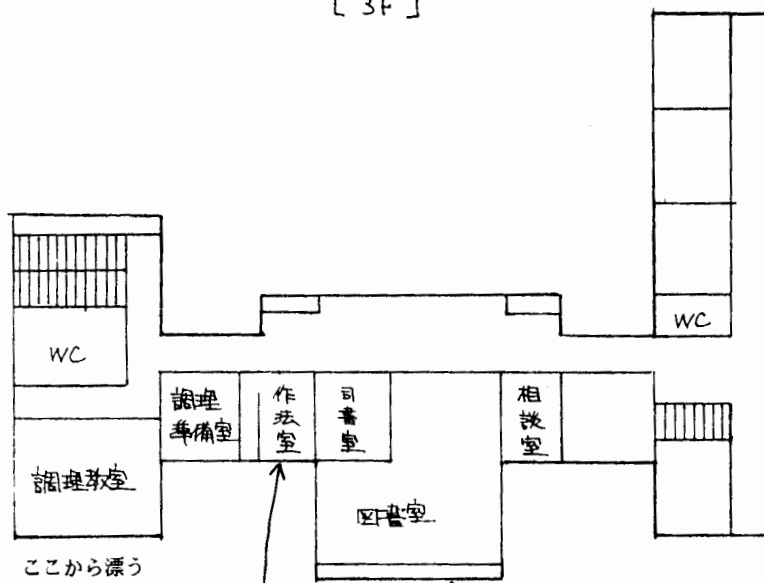
本館 (館内図は裏面に添付する)



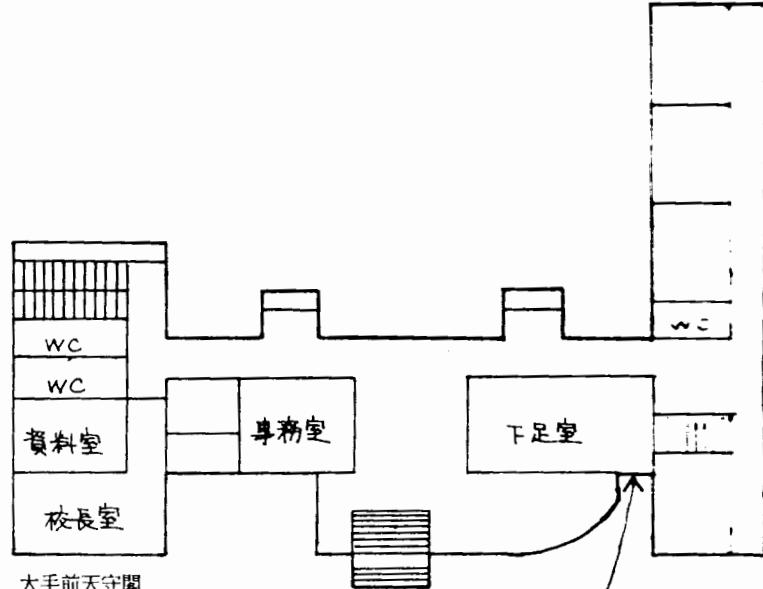
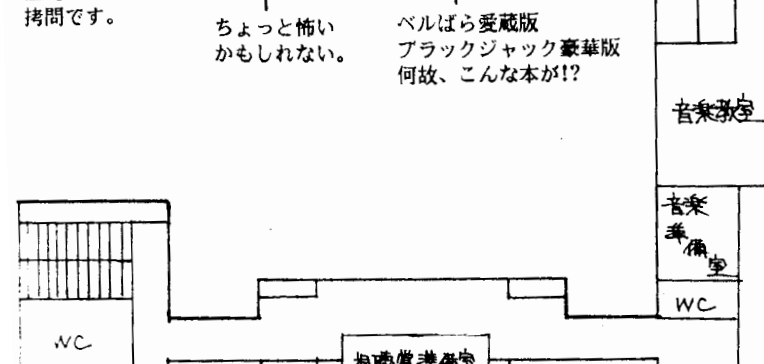
[1F]



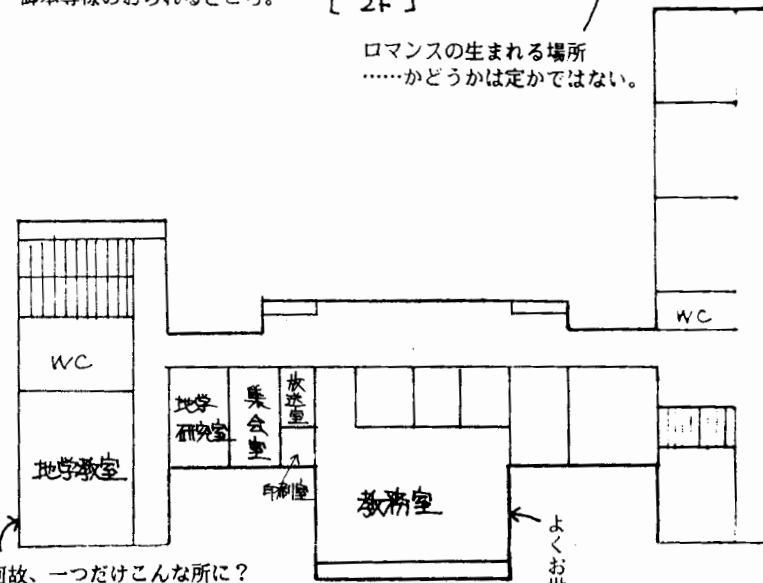
[3F]



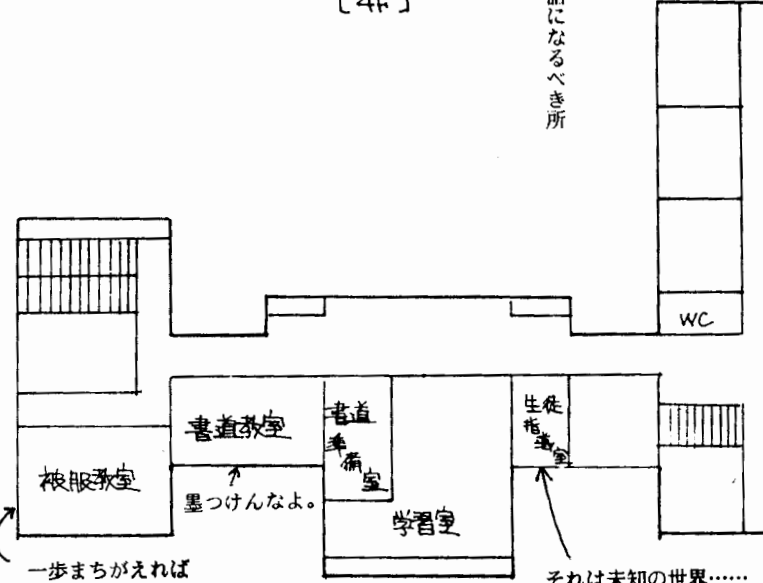
[5F]



[2F]



[4F]



[6F]



～本館見取図～

by: 地歴部

自治会

自治会役員心得

すべての役員は他人への奉仕を
自己の利益と考えねばならない
そしてこれは全くの真実である

昭和三十七年前期制定

初めから重々しい雰囲気ではじまりましたが、皆さんは心得をご存じでしたか？多分知らなかった人が多いかと思います。もしかして自治会自体も知らないとか；しかし、このページはそんな人の為にあります！どうぞ、自治会の世界をのぞいてみてください。

自治会潜入ルポ

―スプリング編集委員が見た自治会―

初冬のある日の放課後、私達三人はかねてからの企画「自治会」の取材をするため、自治会室前に集まっていた。

「んじゃ行こっか。」

と、企画長のI。その言葉を合図に、私達は開け放たれたガラスの扉から自治会室に足を踏み入れた。目の前にカウンターがあり、その上に乗っかっている大きな箱は我が文化部のスプリングボックスだ。

「わあ、トイレットペーパー！」

見ると、入って右側の棚にずらりとトイレットペーパーが並んでいる。左側のダンボールの中にも、どさっと入っていた。

「自治会室といえぱりトイレットペーパーやな。一番に目につくし。」とYが棚をちらつと見て言った。

「うん。入学して初めてここを見たとき、物置かと思ったもん。」

まあ、それはさておき、私達はカウンターの横をすり抜けて奥へ入った。大きな机が部屋のほとんどを占め、その四方を取り囲んで椅子が置いてある。机の上にはいろいろな物が散らばって、雑然と

している。しかし、聞くところによると、前期に比べるとかなり整理された方だとか。

その机に向かい、何やら仕事をしている人が一人。では、ここいらで質問をしてみましょう。

企画長 I 「仕事中すいません。スプリング編集委員なんですけど。ここっていつもこんなに静かなんですか？」

役員 A 「（一瞬驚いて）そんなことない。普段は各自自分の仕事をしてるんやけど、行事とかになったらみんな集まって来るし、常任委員会もあるし。そんなときはやかましいくらい活気づくで。」

I 「なるほど。で、それは何をしてはるんですか。」

A 「これ？これは召集用紙を書いてるねん。」

と言うと、また作業を続け始めた。召集用紙とは、部会や常任委員会のとき、集まらないといけない人を呼び出すためのもので、これをHRのときに渡されると、いやでも集まらないといけないという代物なのだ。（かくいう私もたくさんもらった。）

さてさてまっすぐ行くと、大きな黒板がある。いろいろなことが書き込まれ隙間がない。その上に絵が一枚。何でも某自治会役員が美術の時間に描いたとかで、奇妙な抽象画。美術の先生絶賛の作品だそうである。

次に私達は、黒板と椅子の間をすり抜けると、行事予定板に突きあたった。少し小さめの黒板に線が引かれて、十一月の予定がずらっと書き込まれている。すごいなあーと思いきや多くの意味不明の落書き。この書き込みはなんだろう？

首をひねりつつ私達は奥の部屋に入った。手前の部屋よりももっ

と雑然としていて、何やらいろんな物がそこらにころがっている。部屋にはやっぱり机があって、その上はさらに散らかっていた。

「あ、ワープロがあるでー。」と企画長 I。

そうそう、散らかった机の向こう側にクリーム色のワープロの機械があり、先程から誰かが熱心にそれを使っていた。

（何してんのかなあ、あの人）

（さあーわからん、とにかく見てみようや）

I と私は身振り手振りですりという感じの会話をし、その人に近づいた。そうすると後ろから覗き込むと、暗いモニターに明るい緑色の文字がピコピコと動いている。悪いかなあーと思いつつも、トントんと彼をつついて私は尋ねた。

編集委員 N 「えーと、これ何打ってんの？」

役員 B 「自治広報。」

熱心に仕事をしているところだったので、答は素気なかった。私達は彼から数歩離れて、もう一度彼の仕事ぶりを眺め、小声でささやきあった。

「ふーん、自治広報か。」

「ああ、このあいだ配られた。あれちゃんと活用させてもらてんで。教室の扉の隙間風入るとここに貼りつけてんねん。」

「何してんのよ、せっかく作ってくれてるのに。ちゃんと読んだやろうね!!」

「ちやーんと全部読みましたー。」

などと言いながら、私達は奥の部屋をうろついた。この部屋は本来放送部のものとかで、マイクやらコードやらカセットデッキやら、その他諸々の機材がひしめいていた。と、何だか手前の部屋が

騒がしくなり、人の気配がしてきた。

「ねえYは？」

そういえば、しばらく前から一緒にいたYがいない。私と企画長は顔を見合わせた。私達は奥の部屋の探検（単にあさっているだけという言い方もできるが……）を止め、好奇心のおもむくままに大きな机のある手前の部屋の方へ出て、何が始まるのか尋ねることにした。さっきは閑散としていた部屋に、ひい、ふう、みい……総勢七人もが座って、何かが始まるのを待っていた。そのなかには、もちろんYもいた。

「何これ。一体何が始まるん？」

私が驚いて尋ねると、Yは平然と答えた。

「自治会座談会。」

さらにこうも付け加えた。

「あんた編集委員やろ。それくらい覚えときや。」

それはそうだけど……それにしても、いきなり座談会とは……（なんて無理な設定）

「ほら座って。カセット用意してるから、みんなどんどん喋ってな。じゃあいくで。録音するよ、いい？……せーの！」

そして自治会座談会へ。

'89自治会 Free Talk

一九八九年十一月十七日（金） 於自治会室

出席者 前期会長 阪井 後期会長 森田

同 副会長 大橋 同 副会長 光井

同 議長 辻原 同 議長 小山

スプリング編集委員 長澤、石川、中嶋、山田

〈自治会への要望〉

長澤「今年もやってきました自治会座談会。今年は少し形式を変えて生徒からの要望に答えて頂きたいと思っています。みなさん活発に意見を言って下さい。まずはみなさんにお聞きしたいことですが、『自治会は何をやっているのかわからない』と言う質問がきていますが、前期の会長さんから、お願いします。」

阪井「えー、前期は文化祭や体育大会の運営で、後期は予餞会とスプリングの製作と予算の組み立てがある。他に例えば生徒の投書を取り入れて……」

（突如、自治会室の電話が鳴る。阪井くんにK先生から電話がかかってきたために一時中断）

長澤「いやー。気を取り直して副会長さんどうぞ。」

大橋「でも自治会がなにやってんのかからんと言うのは、自治会に関心がないからで、自分も一年の時はそうやったけど、興味を持ちさえすればもっとわかるんとちゃうやろか。」

長澤「どうすれば興味を持てると思いますか。」

大橋「それは個人の自覚。もっと自分らで学校を動かしてるという気持ちをもたんなあ。」(一同「様にうなずく」)

長澤「そういえば後期にもそんなプロジェクトがありましたね。説明して下さい。」

森田「だから、何ていうの。生徒の皆さんに自治会とはどういうことを目指しているのかということをもPRする。それをメインにしてがんばろうと思っています。」

阪井「(前期は)PRが足りなかった。申し訳ない。」

森田「いやいや、やっぱりJR……」

大橋「そら赤字やでー。」(一同爆笑)

森田「だからや、生徒会、いやもとい！自治会というのはやっぱりPRが大事やないかと最近痛感しております。」

阪井「でもなあ、PRだけで生徒が関心を持つかという、ちょっと考えるところがあるで。」

森田「そうやねんなあ、どんなPRしたらええか……」

辻原「でもな、朝礼のときのあれ、ほら自治会報告、あれだけでも結構PRになるんとかやうか。」

森田「うん、それはそうやけど。」

阪井「あれを聞いている生徒ひとりひとりがどう考えてるのか。」

大橋「あれを聞いているひとりひとりの生徒がもっと自治会室にきたらええねん。でもなあ、場所が悪いな。雨が降ったら来れない。離れ小島や。」

〈自治会の役員は真剣なんです！〉

阪井「あの、自治会っていっただけで『何や自治会か』っていうのもおるからな。そういうのちょっと勘弁してほしい。」

辻原「そういう奴もおるからええねん。」

阪井「あー、学校は確かに全員が揃ったら面白くないと思うけど。」

辻原「面白いやん、片手上げてハーツとか言ってる。」

長澤「ハイル・ヒットラーはやめて下さいね。」(笑)

森田「だから、まあ役員がどれくらい人数がおるとか、そういうことを知らん人が多いから、もっと関心を持ってほしいというのが自治会の要望、希望。」

長澤「自治会からの要望がきましたね。今日のテーマは『自治会への要望』ですよ。」

森田「みんなが動かんことには動かれへんわけや。俺らがいろいろやってもみんながついてこんとな。」

辻原「でも、動かすのがまた難しいねんな。」

森田「そう、そうやねん。」

辻原「悪く言えば人の気を引くと言うか何と言うか……。たまたまものがあるよなあー。」

森田「そうそう。」(妙に気の合う二人)

一同「うんうん」

〈生徒総会って何だ？〉

大橋「この要望で、『生徒総会の時、校門の前に先生が立つのはやめて欲しい。』っていうのはちょっと勝手やわ。」

辻原「何で？ええやん、これ。」

山田「帰りがかったら帰ったらええんちゃうの。」

大橋「でも、そんなことしたら二度と議決することなくなるんで。」

山田「無理やり参加させて生徒総会を開くから、うるさくなると思うけど。興味のある子だけ来るというわけにはいかないの？ そうしたら静かになるやん。」

阪井「でも予算だって1/3以上集まらな……」

大橋「3/5以上や。」

阪井「えっ。あっそうか。そうや3/5以上集まらな予算かって組まれへんし。」

山田「決まれへんのやったら公表するとか何とかして、まず先に他の子が興味を持てるように努力せんと。だって生徒総会は強制的に絶対行かなあかんと思ってる子が多いもん。」

長澤「『先生がおるから絶対にいかなあかん』と思ってる人が多いようですが……。」

阪井「だから先生が自治会を握ってると思われるねん。」

森田「そうや、だからここで一発議長さんにがんばってもらわんなあ。」

小山「それは関係ないで。」

辻原「そうや、関係ないで。」（一同笑）

〈自治会を外から見ると〉

中嶋「そういえば、自治会員の子との話し合いで聞いてんけど、なんか自治会は内輪だけで盛り上がりつつあるって。」

阪井「そうそう、外から見たらようわからんと。」

森田「そんな見ようとせんからわからんのとちゃうんか。」

辻原「いやー、でも言うてること一理あると思うで。」

一同「うんうん。」

大橋「でもな『自治会は暗い』とかあるけど、誰やそんな言うの。全然暗ないぞ。」

阪井「いや、なんか事務的やろ。」

山田「そう、『自治会室は事務的』って言う人もあった。何かあったら自治会室に遊びにきてくださいとかいう文面のことを書いて、自治会室に行ってみたら内輪でわいわいやって、ひとつも面白くないって。」

辻原「そういうところあるやろなあ。」（一同真剣に考える）

大橋「でも遊ぶところないやん。もともと。」

山田「あー、でもよく書くやん。自治会室にきて下さいって。やらそういう文面書きたがるって。」

辻原「なんとなく排他的な雰囲気は伝わるものあるで。」

大橋「そやけど自治会は事務的なことをするもんや。」

山田「うん、私もそう思ってる。それを言うてみたけど、だからみんなから冷たく見られるんやわ。それに事務的なことやってたら先生だけでもええねん。」

大橋「それやったら先生に言うてみたらええねん。」

山田「そんなことを言うてたら、完全に自治会は先生のものになつて、生徒をやってる値打ちがない！」

児島（遊びにきた放送委員）「それに関してスプリングに三年生の人から投書があつてん。今の自治会は考え違いをしていると。自治というのは一番大きいのは奉仕の精神であって、みんなに

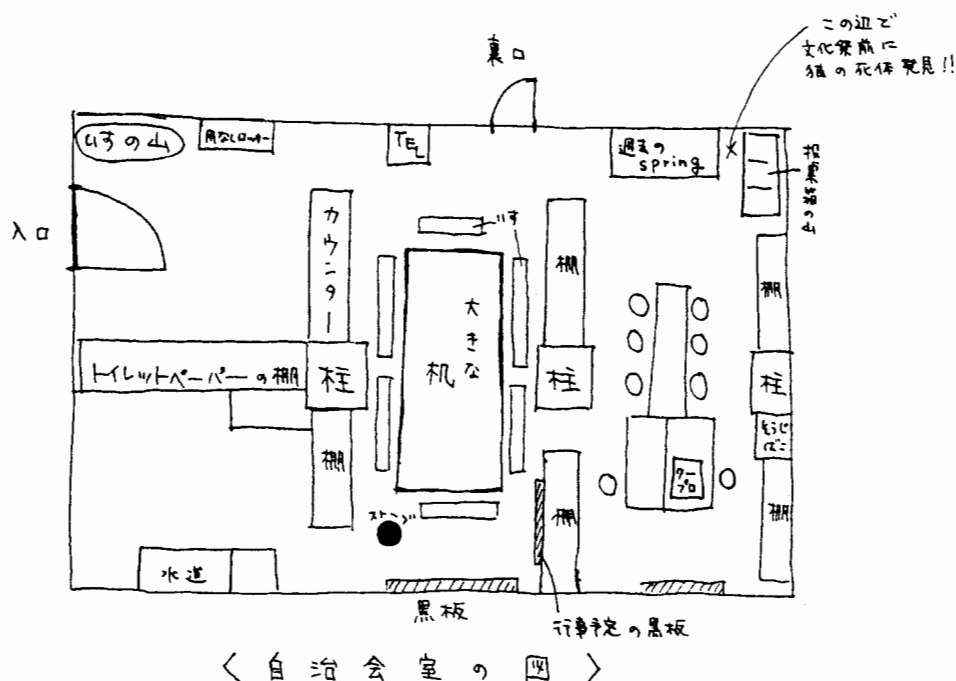
委任されてやらせてもらっているので、コケにされようともやらないかんって書いてあった。」

阪井「でも、やらせてもらってるといいうのと頑張ってるっていうのは必ずしも一致するとは思わん。」

大橋「そうや。」

この原稿を書かなければならないスプリング編集委員の気持ちを無視して、この話合いはのうのうと続きますが、ページの都合上カットさせていただきます。ごめんなさい。「続きが知りたい」という方、どうぞ自治会に入ってください。身をもって実感されることでしょう。そしてそのとき、「自治会とは何か」もう一度考えてみてください。自治会は大手前生全員によって動かされるのです。

長澤「皆さん、長い時間ご苦勞様でした。」



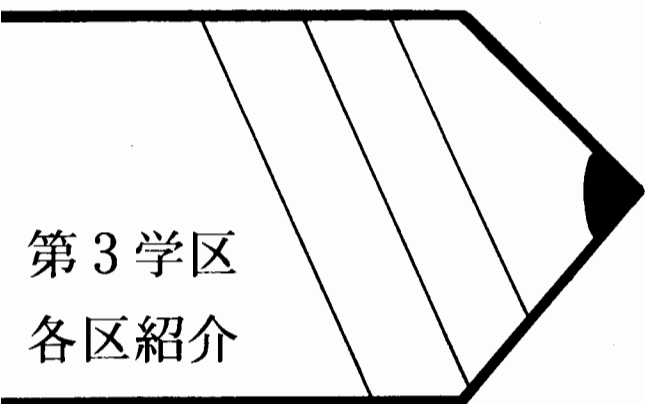
『だろだつでにだなら○』今から覚えておくと便利です。

あなたも

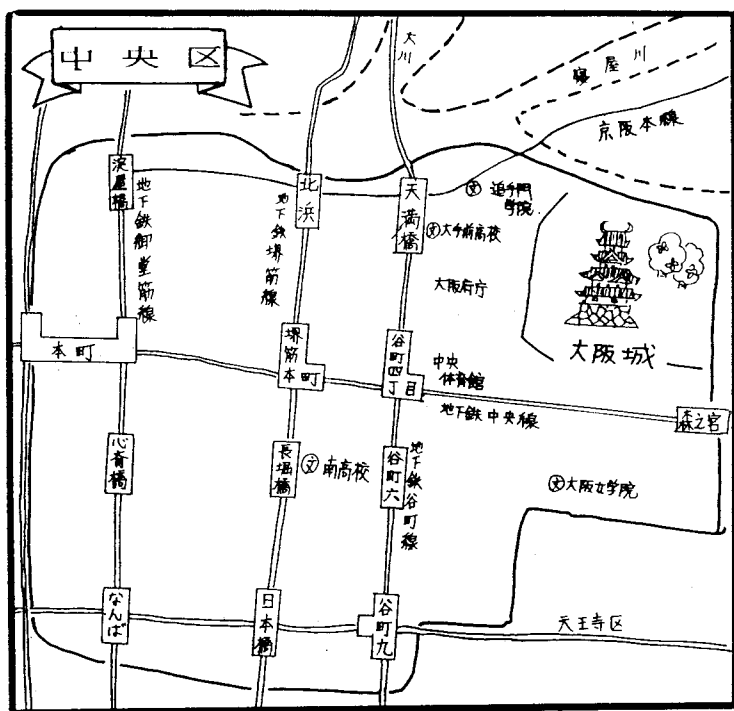
春の第3学区を

散歩しませんか？

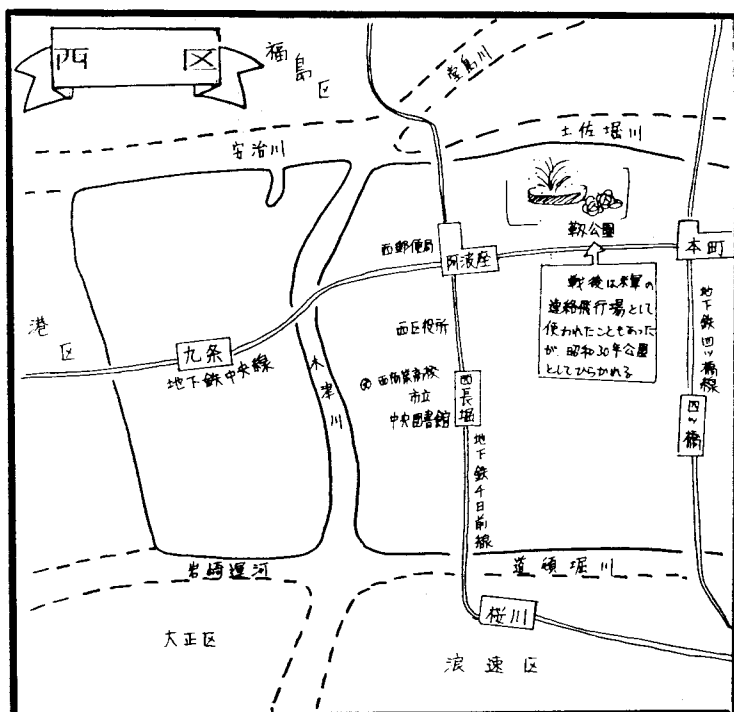
第3学区
各区紹介



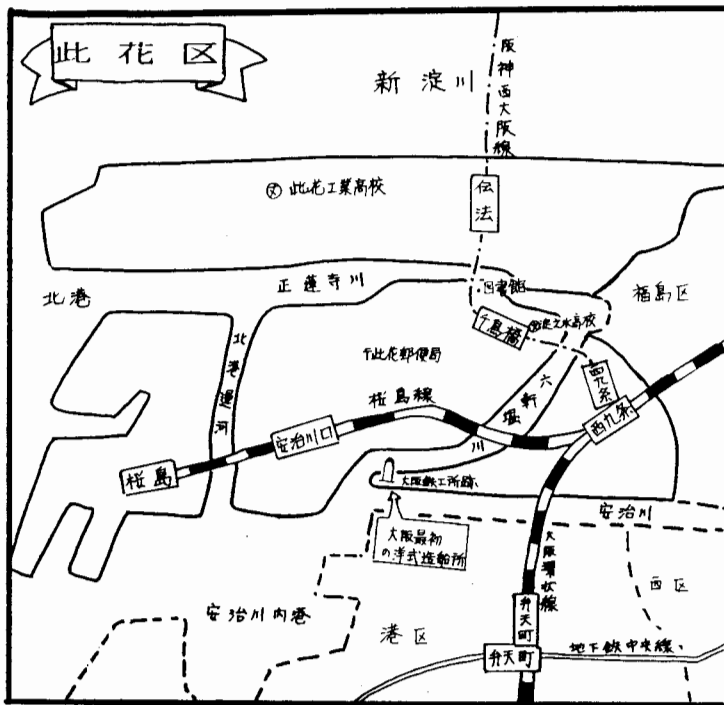
本校大手前高校のある中央区は、昨年東区と南区の合併によってできた区である。第三学区の区域に入るのはそのうちの元東区の所だけである。大手前高校の目の前には大阪のシンボルである大阪城がどっしりと構えている。大阪城の周りには大阪城公園が広がり、若いカップルや外人をよく見かける。大阪城の近くにやけに近代的なうりふたつの建物が目につく。それがツイン21である。最上階は展望台になっており、特に大阪百三万ドル（消費税込み）の夜景は二百円出して見る価値が十分あるだろう。



中央区の西側に隣接した西区は、地下鉄の駅を六駅持つ大変、交通の便が良い区で福島区や港区に行くときいつも通り抜けて行く。その途中、本町あるいは阿波座で下車し、少し北へ歩くと都会のオアシスといわれる観公館があり、中にバラ園、テニスコート、サッカー場などがある。その他、西区にはあちこちに大きな公園が見られる。つい昨年までは四つ橋に電気科学館があったが中之島へ移ってしまった。実際、西区に用があるのは、中央図書館に行くときと友達の家へ遊びに行くときぐらいではないだろうか。

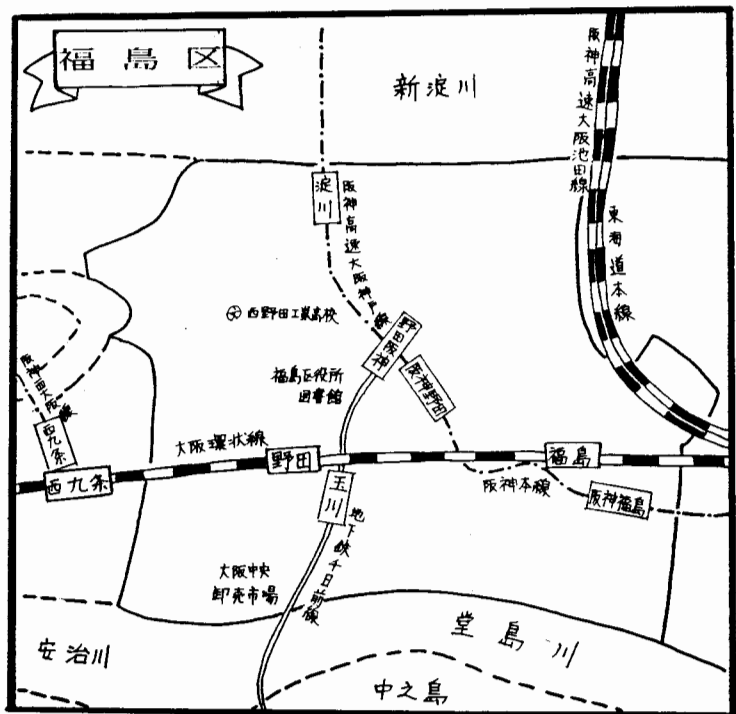


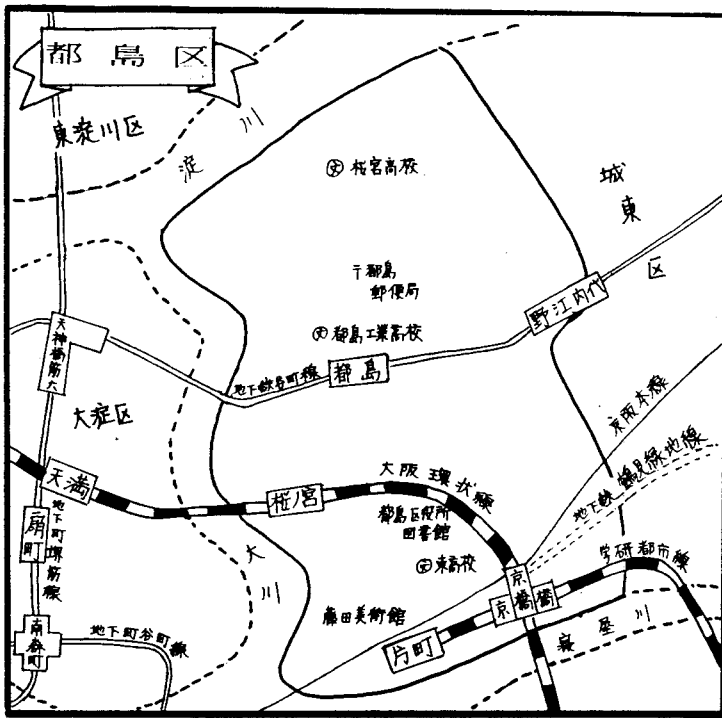
もーたまらん①——テスト中に消しゴムがなくなったとき



「此花区」と言われて、「どこそれ、行ったことないわ。」と言う人もいる。此花区は淀川の河口にあり、西は大阪湾に面している。区の東半分が住宅地、西半分が工業地帯というようにきっちり分かれている。此花区には地下鉄が走っていないため、此花区に住んでいる大手前生的小伙伴们が、西九条からJR環状線に乗り、京橋で京阪に乗り換え天満橋まで来るといふ通学経路をとっている。将来の此花区に目を向けると、大阪港北港の埋め立てにより、テクノポートができる予定である。

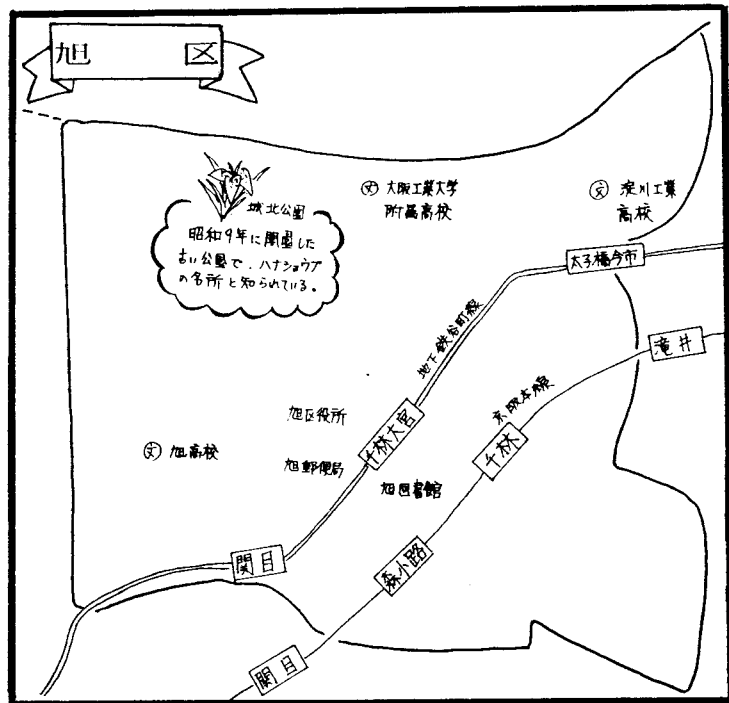
第三学区の中で、最も大阪梅田に近い福島区は、一見、大阪梅田の強い影響を受けた区のように見えるが、実際は、繁華街もあまりなく、家やマンションの多いベッドタウンである。区内には阪神電鉄、地下鉄千日前線、JR環状線が走っている。JR福島駅、野田駅には両方とも快速が停車しないため、京橋、桜の宮方面から環状線に乗る時「大阪行き」「大和路快速」と二本連続見送らなければならない場合もあるので、福島、野田で待ち合わせをするときは注意しましょう。



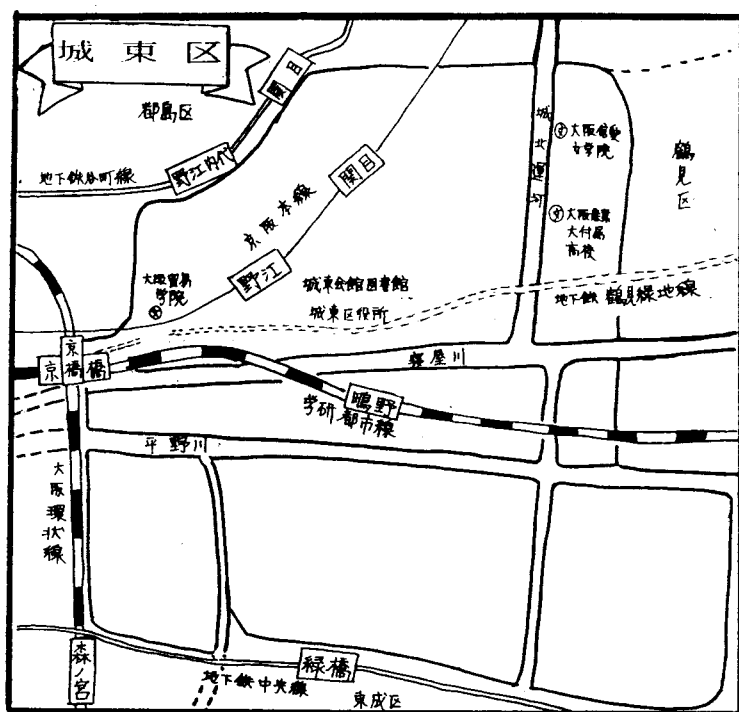


京橋から淀川まで南北に長い都島区は、北を淀川、南を寝屋川、西を大川（旧淀川）と三方を川で囲まれている。そしてその西を流れる大川に沿ってサイクリングロードができています。また国道一号線の橋、銀橋の周辺には桜の宮公園がある。名前の通り桜の木がたくさん植えられており、春になると大川に桜の花びらが流れていることもある。夏には天神祭があり、花火が打ち上げられ、大勢の人で賑わう。冬、スケート教室で利用する桜の宮スケートリンクも、この近辺にある。

大阪の北東部に位置する旭区の北側には淀川が流れ、それに沿って淀川河川公園がある。普段は少年野球が練習していたり、釣りをしている人がいたり、バイクに乗ったにいやんが走り回っていたりする。また、夏には太子橋周辺で水都祭があり、花火が打ち上げられ、大勢の見物客が川の周りを囲む。淀川沿いのやや西側には、城北公園があり、菖蒲園として有名である。京阪線、地下鉄谷町線の走る千林周辺は、大阪で指折りの大きな商店街があつて、今もお、たくさんの人で賑わっている。

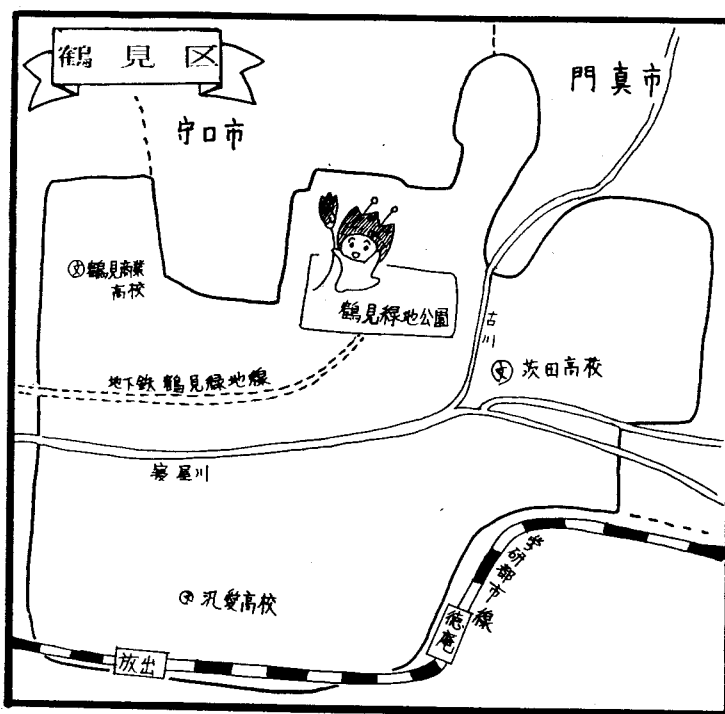


巣ヶ輪ぐ庭五時だ辻が多杉ます。もっ戸中胃して管サイ。



大阪城の東側に位置する城東区は、住宅街というイメージの強い区で、特に、城北運河沿いにはマンションが立ち並んでいる。城東区は交通の便がよく、地下鉄谷町線が北端を走り、京阪線がそれに平行して走っている。南端には地下鉄中央線が走り、その他、片町線も走っている。さらに中央部に地下鉄鶴見緑地線が花博の開催とともに誕生し、城東区はより一層発展してゆく。国道一号線も通っており、昼夜ともに交通量が多い。その一号線沿いの京橋寄りには大手前生がよく使うポウルメイトもある。

「緑の多い」と言われてきた鶴見区は、今年開催される「国際花と緑の博覧会」によって、飛躍的發展を狙っている。「花博」は三つのエリア（山のエリア、街のエリア、野原のエリア）に分かれており、各エリアを結ぶ乗り物も、楽しい物が用意されている。オープニング・ファイナルまでの一八三日間は、五つのテーマが用意されて、それに合わせて花の種類も移り変わる。この「花博」の開催と同時にリニアモーターの地下鉄が走る、地下鉄鶴見緑地線が開通し「花博」の来客を運ぶ。



担任の先生と同じ名前だったら気まずくありませんか？

SPRING 30号
特別企画

現代をみつめる

～なんで今こんなやねん～

（前文）

現代をみつめる―私達は現在を生きています。周りには物がみちあふれ、物質的にはとても豊かな生活をしています。そう、物質的には豊かです。では心は？ 自信を持って心も豊かだ、と言えるでしょうか。

記念すべきスプリング30号では―現代をみつめる―これをメインテーマに考えられることを、生徒の皆さんに一筆書いてもらいました。現代の青年観から、今話題のフロン問題、社会の風潮まで取り上げるテーマは様々です。また先生方に私達の悩みを答えていただくコーナーや、今の高校生観を述べていただくなど思案に思案を重ねてできたこの企画です。これを読んでいただく皆さんに少しでも現代（私達の心）をみつめるきっかけができれば幸いです。

- ・ N君はかく語りき
- ・ 現代おとな考？
- ・ 無題
- ・ ある楽天家の人間考
- ・ さがしもの
- ・ 昔も今も―やっぱり同じ高校生
- ・ 「現代の高校生に」
- ・ 悩みの相談室
- ・ 初心者のための大手前入門
- ・ 現代人
- ・ 群衆心理の一面を見て
- ・ 矛盾の多い今の現代
- ・ 原子の悟り
- ・ 現代をみつめる（後書き）

Nくんはかく語りき

中島良一

「呼びかけ」

土曜日の午後である。昨日の放課後に行われた生徒総会なるものために貴重な練習時間を侵害された某クラブ所属のX君はたいへん機嫌が悪い。

X君 何で生徒総会なんか放課後残らなあかんねん？オレ明日試合やのに！

Yさん そうやな、でもしゃあないんちゃうの？

X君 誰もやりたないのに生徒総会だけあんのも変な話やで。

Yさん 本当に誰もしたないんかなー。自治会で役員やっとなるような人らはやりたいと思ってるんちゃうの？

X君 そやな。オレの知り合いでNってのが自治会でなんかやってんねんけど、アイツ昨日「生徒総会や」ってはいしゃいどったで。ああいうのんがおるから生徒総会がいつまでも続行するねんや！（全くその通りや！）

「生徒総会について」

X君とYさんは恋人同士ということになっている。そこへ、なぜかN君が通りかかる。

X君 おおい、N！

N君 いやあ、X君、どうもどうも。

Yさん N君？自治会で書記やってるんやって？

N君 いや、いや！会計やねん。

X君 突然やけど、生徒総会ってなくすことでけへんの？

N君 無理やと思うで。それに自治会の役員がどんな奴で、なに考えてんのか、とられた自治会費が何に使われとんのんか、分からんかったら不安とちゃう？

X君 別に。（クールに答える）

N君 でも、こんなこと、ちゃんとせえへんと文化祭とか体育大会とかでけへんようになんねんで。

X君 そんなもんなんかなあ。（そんなもんやで）

N君 文化祭かて体育大会かて生徒が中心になって全員で盛り上げていったほうがおもしろいやろ、その基礎にんのが生徒総会やと思うで。

「自治会について」

Yさん ところで、N君はなんで会計なんかやってんの？そんなことやってておもしろいん？

N君 うん、おもしろいで。（なかなか変わっとる）何か行事やって、みんな喜んでくれたら楽しくなるもんやで。

X君 変わった奴ぢゃな。（全く）

N君 例えばな、好きな子がおるとするやろ。そんでな、その子のために何かしたげて、その子が喜んでくれたらうれしいやんか。

X君 まあ そやなあ。（スケベ）

水はけのいいグラウンドがほしい〜。

N君

それとおんなじや。ボクは学校が好きだけやねん。そんなそこにおる人間が好きなんや。他人って自分と全く違うこと考えてるみたいやけど、実はおんなじようなこと考えてるんちゃうかなあ。これから先の進路のこととか、友達のこととか、好きな子のこととか……。そんなこと考えてる人が喜んでくれたら、ボク自身も楽しくなってくるねん。いま自治会にみんな関心持ってくれへんって面白いわれてんなあ。受験なんかもあって自分のことで精一杯やら自治会なんてやってられるか！ってことやけど、他人のために何かやってる時の楽しさを知ってる人間がもうちょっと増えたら、自治会なんか自然に盛り上がっていくと思うで！

「青春について」

N君は用事を思い出して、どたばた立ち去り、また二人だけになる。(やっと二人つきりになれたね)

X君

アイツのいうことは理解に苦しむなあ、Nってのは変わった奴ちゃろ。

Yさん

そやねえ、でもN君みたいに考えてたら生きてて楽しいやろうねえ。そやし、誰とおうても楽しいんとちゃう。

X君

ははは、そういうことやな。しかしNってのは単純な奴やなあ！けどああいうのがおるからけっこう世の中もうまくいってんのかも知れへんなあ。

Yさん

ウチはともああいふうなられへんけれど、N君みたい

な子って好きやで。(あららっ)

X君

おい、おい、オレはどないなんねん！

Yさん

ウソよ！

X君は、さっきまで機嫌が悪かったのが嘘のように不思議といい気分である。Yさんと別れると、まだ人影もまばらな午後のグラウンドへ駆け出した。

現代おとな考？

青紫

現代の大人って……いつも自分のことしか考えていないのに、急にそんなこと言われても困るし、偉そうにいろいろ言うのも悪いように思う。

でも敢えて言うと、今の大人って「無関心」すぎるんじゃないかなと思う。以前はそんなことは感じなかったけれど、今の家に引越してから、たまに考えるようになった。

引越してもう一年以上たつ。なのに私は隣の家の人の顔を知らない。わずらわしい近所づき合いがなくて楽だと言ってしまうがそれまでだが、幼い頃から近所の人達のお世話になって(時にはお世かいをやかれて)育ってきただけに、何か少し寂しい気がするものも否めないのだ。

そのことに関係するかどうかわからないが、最近「尊敬できる大人」が減ったような気がする。マスコミをうのみにしてはいけないと思いつつも、そこに現れるのは「何、大人のくせに」という人のおおいこと……。

しかし、このような時代だからこそ、本当に尊敬できる人が現れたとき、心からその人に傾倒（というと極端かもしれないが）できるのではないだろうか。というより、私はそうあってほしいと思っている。

こう書いている私自身、一歩ずつ「大人」に近づいているのだ。何年か後には、私自身がこう書かれるのだろうか。ちょっと恐いような気もする。

無題

三和銀行市岡支店

「今日の放課後にLHRにすることを決めるので残って」と言う
と「なんで残らなあかんねん」「しょうもないから帰ろう」と言う声
が聞こえた。自治会が全校集会を開くと「さっさと終われ」「集会な
んか、してもせんでもいっしょ」と口々に言う。しかし、果たして
それでいいのだろうか。

昔の大手前の生徒は「何かやらかしてやろう」という気持ちを持
っていたようで、HR活動や自治会活動にも積極的に参加してい

たようだ。ところが今は、そのかけらがわずかに残っているに過ぎ
ないように思える。

今の大手前は「無」という字で代表されるという。無関心、無責
任、無気力……。他人より目立たないように、他人より考え方が
はずれないように、ひたすら努力している。自治会活動、学級活動
などのややこしい、めんどくさいことは、「誰かがやってくれるや
ろう」ですませる。友達をつくるにしても「修学旅行であぶれない
程度の」「休み時間や教室移動の時、しゃべる程度の」としか考えて
いない。だから、自分と話をしない人には外見だけを見ただけで
「あいついややわ」「あいつうっとうしいわ」となる。

しかし、そんなことをしていれば、百年たっても進歩がない。「誰
かがやってくれる」という考えにある、その「誰か」に自分がなれ
ばいいのである。

というようにみんな思っているだろう。今までにスプリングにも
そう書いてある。だがそれだけではないだろう。

今の大手前には、客観的見解をもつ人が少ない。わかりやすく言
えば「他人を思いやる」心がないのだ。だから、自治会やHR役員
がどれだけ苦労しているかわからない。一度何か役職をしてみれば
いいのだ。次からはたぶん協力しようという気がおこるだろう。
（と言っても自治会にも欠陥があるが……）

もっとも、非協力的な人はこの文章を読まないのかも知れない。



ある楽天家の人間考

草千里のシンデレラ

現代を見つめる——なんて書くといふん堅苦しいけれど、楽にして読んでください。私、そんなたいしたもの書けませんから。

まず高校に入って悩んだことから——一年生のとき、私あんまり何も考えてなかった。私は人より考えること・感じる事が一年遅いらしくって、真面目なこと考え出したのは、二年生になってからだった。一番最初に思ったのは「私って何て駄目な人間なんだろう」ってこと。そのころの私は、自分のことが一番嫌いだった。周りの友達もものすごく偉い人間に見えて、それに比べて自分は『価値なし』だって思ってた。そりゃ私にも理想像ってのが一応あるわけ、それにあまり程遠い自分にほとんど愛想を尽かしていたのであった。

今は開き直っているというのか……。そんなことに悩んでるのがバカらしいって思ってる。それはその時点では、とても切実な苦しみなんだけど……。私を救ったのはある発想の転換であり、どうしようもない事実、だった。すなわち、何をどうしようと結局、私は私以外の何ものにもなれないってこと。

当たり前のことなんだけど、何かが変わったような気がした。価値。人間の価値なんて相対的なものなんだ。他人から見たら、私は『価値なし』かもしれないけど、でもそんなものに惑わされて生きたくはないって思った。私は私の信じることを精一杯やるんだ。だって、そうじゃなきゃ、私が私でいる意味がない。それに誰から

も好かれるような私じゃないから、せめて、私くらい自分を好きでいてやらないと、私がいかにみじめだ。

なんて Case Of Me だけ。みんなこんな気持ちあるんじゃないだろうか？

“新人類”とかいわれて、何か怪物のように思われている私たち。考え方も年輩の方とはずいぶん違うけど、でも根本的なもの、私たちが“人間”になった遠い昔から脈々と、この血の中に息づいているものは（確かに薄れてはいるが）、まだ失われていないと思う。例えばそれは愛だとか友情だとか、そんな口に出したら気恥ずかしいものなんだ。

“現代を見つめる”——見つめるにはあまりにもひどいことが多いすぎる、かなり悲観的な状況。人類はたして二十一世紀をむかえられるかと取沙汰されているけど、私はきつと大丈夫だと思っただって人間ってかわいいと思いませんか？かわいくて、恐ろしい。私の見た映画でこんなシーンがあった。ある女性が主人公を「けだもの！」とののしるのだ。すると主人公はこう答える。「もっと悪いさ、俺は人間だ！」——『山月記』の中で中島敦が書いた“人間の猛獣”。人間は猛獣をその内に潜ませているもので、その猛獣を制御していられるなら、人間の心を忘れないでいられるなら、きつと大丈夫だろう。自然を愛し、自分以外のものを愛す……。

だからと長いうえ脈絡がない話だけど、以上（異常？）私の人間考でした。また読み返していただらずいぶん『お気楽』な思考をしている。しかし、私だって行動なしに現代の諸問題は解決できないと把握しているし、そのための努力を怠ってはいけないと思う。だけど、私は人間を信じていたいのだ。人間は駄目だとあきらめてし

あなたは別館を足音たてずに歩くことができますか。

まいたくないのだ。この文章を読んでくれた人、どうか人間とその未来について考えて下さい。ああ、また長くなってしまった。それにしても、周りの皆さんがいうように私ってやっぱり少し（かなり!?）楽天家してるのかも知れない……。

さがしもの

須磨は和歌山

数限りない偶然の中から人間として日本に生まれ、まもなく二十一世紀になろうとする今を生きている私たち。山ほどの現実——飢餓、戦争、公害など——に囲まれている、今この時に存在する私たちの意味とは何なのだろう。誰もが「自分は一体何なんだろう」と悩んだことがあると思う。宇宙的規模で考えれば、広大な宇宙の小さな惑星の中のたったひとつの生物にすぎないちっぽけな自分。なぜ、生まれてきたのだろう。

なぜ、生まれなければならなかったのだろう。

人は自分の生への幾重にも重なった偶然の中から、自分だけに對する必然性を求めるものなのだろう。だからこんな疑問をもつ。だが、それは特別必要なものではない。見つけることなく過ぎていった人も多いに違いない。しかし、見つけられた人はそれからの人生を、より一層深く深く意味のあるものにできたはずだ。

ここまで読んでこれを見つけたくなった人たちへ——それはどう

したら見つけることができるのか？

まず自分のまわりを見渡す。今の私たちの周囲には様々なものがあふれるほどある。その中には、自分にとって大切なもの、何かにとつて必要な自分もあるだろう。きつとそんな、自分に関わっているものたちが導いてくれる。気づかない人もいるが、気づかずに果てるには余りに惜しいものが、その先にはあるのではないか。

まだ、始まったばかりの人生なのだから、そんなに急ぐ必要もない。その間に、一人一人の違った答えを自分の中に見つけ出せればいいのだから。



「今の高校生に」

ここでは、「先生から見た今の高校生」というテーマで、今西先生と角崎先生に原稿を依頼し、また、皆さんから募集した「なやみ」に、小野先生、近藤先生、鈴木先生、藤井先生、南先生に答えてもらいました。普段、改まって質問するのには照れくさい内容ですが、一人一人先生方が人生の先輩として、少ない字数の中で答えてくださいました。誰もが一度は考えたことがあると思います。今、悩んでいる人はもちろん、そうでない人も、読んでみて下さい。

「昔も今も——やっぱり同じ高校生」

社会科 今西 保雄先生

「新人類」という言い方が現われたのがいつ頃だったか覚えてはいませんが、直感的に「何？ いったいどんな人類なんだろう？」って関心を持ったことは確かです。やはり仕事柄(19)、何となく気になるものですから。新聞などのニュアンスでは、これまでの常識では判断できない、まったく異なった価値感を持った新しい世代という感じですが、本当にそうなんでしょうか。いつの世でも大人から見れば、「今の若い者……」ということになるそうですから。

先日、二年生の担任ということで「修学旅行」に付き添いで行って来ました。実は、その時に二年生のみなさんの行動に接してい

感じたことは「やっぱり高校生やなア……」という事でした。そういうと「何が高校生らしいんや？」と聞かれそうですが、とにかくそう感じたんです。その「高校生らしさ」とは何か、よくはわかりませんが、私なりに思っていることをいいますと、「普段は社会や身の周りのことを気にしていながらも、場合によると、よくいえば自分の世界に没頭できる程物事に熱中し無我夢中になれる、悪くいえば周りのことに気を配ることができず自分勝手に傍若無人な態度をとる、それほど感受性に富み感情の起伏が大きい時期の行動」だと言えるのではないのでしょうか。こんどのコースでは、長崎市内では国際文化会館や平和公園を見学し、そして被爆者の方のお話を聞く機会がありました。そこでは原爆の恐ろしさと平和の大切さを痛感しているみなさんの姿を見たように思いました。そして噴煙をあげている阿蘇山を間近に見て自然の雄大さに感動し、久住山登山では途中で「しんどい」などと言いながらも頂上に登り着いた満足感を味わっているように感じましたし、キャンプファイヤーでのフォークダンスでは少し照れながら手を繋ぎつつそれはそれで結構楽しんでいる様子でした。帰りのフェリーでは、もうこれで修学旅行も終わりのいうことで少し感傷的になっているように見受けました。このように、それぞれの場面で感じたこと、それは文字通り「高校生らしい」ということでした。つまり、昔も今も変わらない、同じ世代の姿をみたわけです。そりゃ昔と違うという点を探そうとすれば、次々とさまざまな角度から指摘できると思います。団体生活に慣れないなどということを強調しようとするればできないわけではありません。しかし、そういうことは、単にこれまでの学校での体験がいろんな意味で貧しかったということを表わしているだけで、高

横断歩道を渡りましょう。

校生が変わってしまったということにはなりません。むしろ高校生という世代にふさわしい経験を積むことの重要さを感じますし、そういう点では、クラブ活動はもちろんのこと、バレーボールなどのクラス対抗のスポーツ大会や文化祭を含む日常の自治会活動の中で身につけて欲しいことがたくさんあります。また、教科の学習の中で体得して欲しいこともたくさんあります。つまり、昔も今も、高校生という世代は急速な勢いで上昇しつつある「発展途上人」という点で全く変わらないと言えるでしょう。

「現代の高校生に」

英語科 角崎 篤弘先生

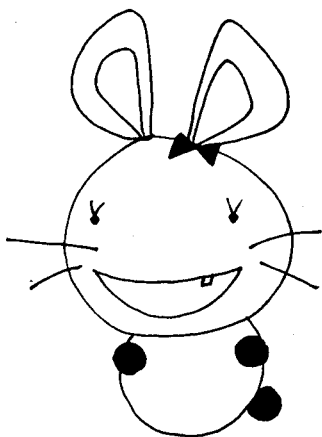
十数年前、発刊されるや爆発的なセーブルスをあげ多くの話題を巻き起した『第三の波』の著者アルビン・トフラーはその中で、現代という時代は人類がこれまでに経験したことのない全く新しい文明に突入しつつあり、その文明は決して悲観的な物でないことを強調している。確かに、我々の社会が情報化社会と呼ばれるようになって数十年を経た今日、複雑多岐にわたるその情報網はマス・メディアの日進月歩の進歩と共にさらにその複雑さを増しながら効率を高め、日夜、我々のもとに多くの情報を提供してくれている。その様な状況の下で我々にとって必要なものは、氾濫するそれらの情報に惑わされることなく、それらの中から真実を伝えている情報のみを

選り出し、それを冷静に判断し、そこから自分なりの考えを確立し、これからの自分が進むべき人生における航路を決定するための心の羅針盤とも言わなければならない。そう考えれば、これ程までに物質面で充分すぎる程満たされた時代なのに、これ程までに自分を見失うことなく生きて行くことが難しい時代がこれまでにあっただろうか。朝起きてテレビをつけるやいなや、まさに情報のモーニング・シャワーを浴びることになる。それからの情報の合間に流されるCFでは、まるでこの世の中の全ての人間が持っていたり、身に着けているかのように様々な商品が紹介され、それを持っていない者はあたかも時代の波に乗り遅れた存在であるかのような惨めな気持ち・不安な気持ちにさせられてしまう。気を取り直して街に出て見ればつい今しがたテレビで映っていたような服装や品物を身につけて歩いている人がいかに多いかということを知り、マス・コミの力の偉大さというか強大さに感心すると同時に寒心もしてしまう。

この様な画一化された社会の中で、これからの世界を背負って立つべき高校生をはじめとする若者諸君は、ある特定の目的のために流された情報に惑わされることなく自分自身の考えを持つことこそ大切な事であろう。前述したアルビン・トフラーの『第三の波』では、この情報化社会におけるマス・メディアがさらにその発展段階を追うと脱画一化されたマス・メディアに変貌すると予測されているし、実際その傾向は米国においてすでに現われている。一方、集団意識の強い日本はその点においては、米国に比べて十年から十五年は確実に遅れている。さらに言えば、文化的背景も思考様態も異なる日本ではたとえトフラーの予言したような新しい文明が形成されてもそれは所詮、他者の模倣にすぎないのではないかという懸念を持た

ずにはいられない。

世界情勢が歴史上においても特筆されるべき時代を迎えている今日、国際関係という問題は日本にとってますます大きな意味を持ってきている。経済大国の名を振りかざし、発展途上国に資金援助をしているだけで自国の義務を果たしたような顔をしてすませておれなくなってきた。そして、日本が第二次世界大戦以後の世界史という檯舞台でよい意味での活躍を期待される時の主役こそ今日の高校生をはじめとする若者達に他ならない。今の日本に住む若者の中で、いったいどれ程の者が世界のそういった流れを意識しているだろうか。幸か不幸か自分達の周囲で友人が殺されたりするのを目の当たりにしている中国や東欧の若者達は少なくとも毎日を平穏に暮している我々よりも世界史のうねりを肌で感じているに違いない。彼らに負けない国際感覚を常日頃から高校生諸君にも養っておいってもらいたいものである。



悩みの相談室



Q 何のために勉強するのか教えて下さい。

A 近ごろ、私は人の生き方について思いをめぐらすことがよくある。そうした時に、一つの契機を作ってくれたり、様々な広がりを与えてくれたりするのは、昔、学んだ事柄や言葉、又、ふと心に止めた先人の生き様などである。人は、真剣に何かを求める時に、力強い支えになるものを、日頃の勉強によって蓄えているのだと思う。

(小野 昭平先生)

Q 自分の将来になりたいものがわからず、進む道、したいことがわかりません。

A なにもしないで一人で悩むのではなく、人の話をよく聞き、自分でも自主的にいろいろなやってみるなかで、自分の興味がどこにあるかを確かめていくことができます。例えば、図書館や本屋へ行っても、こうした疑問に答えてくれそうな本が沢山あります。その中の二・三冊を選んで読んでいくだけでも、自分の将来したいことが頭に幾つか浮かんで来ます。そのうちどれを選ぶかと誰かに相談したくなってくるようになれば、こうした悩みからもう抜け出すのも間近です。要はチャレンジ精神です。

(近藤 美都先生)

悩みの相談室って何棟の何階にあるのですか

Q 自分で自分の性格に自信が持てないのですが。

A 性格に自信が持てないという人は、こう言えば嫌われる、こうすれば相手にされない、と決めつけてしまい、相手に言うまえに自らの心を閉ざしていつてしまうのだろうと思います。しかし勇気を出して自分というものをさらけ出せば、相手も自分のことをわかろうとしてくれるでしょう。その為には明るく、時々おり笑顔を見せること、相手の話もしっかり聞くことも大切だと思います。

(鈴木 孝彦先生)

Q 失恋のたちなおり方を教えて下さい。

A 人に思いが届かないことは悲しいことはありません。聞けども聞けども聞こえず、見れども見えず、自分ひとりまわりの世界からとり残され、閉ざされた気持になるでしょう。気を紛らそうとしてもたやすく紛らせるものではありません。でも、自暴自棄になってはいけません。日を経るにつれて、心の傷は癒え、ものごとを深く感じとれる自分に気づくことでしょう。人を思うことは切なくも尊いものです。たとえ、報われることがなくても。

(藤井 慶子先生)

Q 英語の勉強のしかたをおしえて下さい。

A "SLOW AND STEADY WINS THE RACE!"
英語がなかなか伸びなくて……と悩んでいるあなた。次の点をチェックをしましょう。

① 授業の予習はできていますか？

自分の知らない単語を辞書でチラッと見るだけで終わっていませんか。英文の内容、文法事項等、授業で何を質問されても答えられる準備ができていますか？

② 授業の復習はできていますか？

授業を受けていない人に授業内容を全て説明できるくらい、理解できていますか？

③ 『総解英文法』(その他授業で使う参考書)を、納得がいくまで読んでいますか？

その際、文法事項を例文で確認していますか。例文を見るだけで、大事な文法の要点を説明できますか？

④ 辞書を読んでいますか？

辞書で、have, get, make など基本的な語の頁を何回読んだことがありますか。単語は、いくらたくさん知っていても使えなければ役に立ちません。例文で用法を確認していますか？

⑤ 日本語をしっかり読み書きできますか？

母国語を使えない人が、外国語を使えるはずはありません。日頃から新聞や本を読む、きちんとした日本語を話す、まとまりのある文を書く、習慣がついていますか？

以上、当たり前のことばかり書きました。

手っ取り早い英語上達法なるものがあるなら私も教えて欲しいくらいですが、

"There is no royal road to learning."

"Slow and steady wins the race."

と申します。結局は、回り道にしても、着実に進んでいくこと

こそ、いちばんの「近道」です。基礎の土台がしっかりできていてこそ、その上に素晴らしいものが積み上げられていくものです。がんばって下さい。いちばんいけないのは、「勉強方法がわからない」とかなんとか言って、何もしないでいることです。

(南 美佐江先生)

Q テレビと縁を切りたいのですが。

A 近頃のテレビ番組は概して低調です。それに我々も何かテレビ文化に毒されているようです。しかし、テレビのない生活など考えられないくらいですから、テレビと縁を切れるわけがありません。そこで、テレビの効用を各自が真面目に考え、テレビを管理しましょう。そのすすめとして、①極力見ない(禁欲!)——帰ったらすぐつける、つけないがら何か(勉強?)するは最悪です。②番組を選んで見る——ニュースステーション、NHK特集、地球発…などの報道番組はがんばってるようです。③それでも娯楽としてのテレビを否定できない人は、見る時間を減らす——そのためには、④(いつも同じ顔ぶれの)歌謡番組(田村、W浅野などの)連続ドラマ、(やたらと長い)スペシャルもの、(無意味な)深夜番組などとは見ない。⑤視聴者参加番組にのめりこまない。——などの努力が必要です。道具は役に立つから使うものです。

(黒田 昭二先生)

初心者のための大手前入門

——食堂編——

とっても安くておいしい食堂、その辺の喫茶店でコーヒー一杯飲むより食堂でカレーライスの方がずっといいですよ、ね?というわけで、一度行くとクセになる食堂の謎を、いつもお世話になっているマスターに質問しました。

1 まず食堂のメニューについてですが。

Q. 今はなきメニューを教えてください。

A. 天津飯・オムライス・おでん……。

Q. なぜそのメニューがなくなったんですか?

A. 食堂(調理場)が狭くてメニューを色々増やすことができなかったからです。

2 色々なことについてお聞きします。

Q. 料理を作る際に気をつけていることは?

A. いい材料の仕入れ、献立。

Q. いつから食堂はあったのですか?

A. 昭和二十五年以来ずっと。

Q. 今の食堂に移ったのはいつですか?

A. 昭和五十三年六月です。

Q. それまではどこにあったんですか?

A. 現在の西側・トイレ付近。

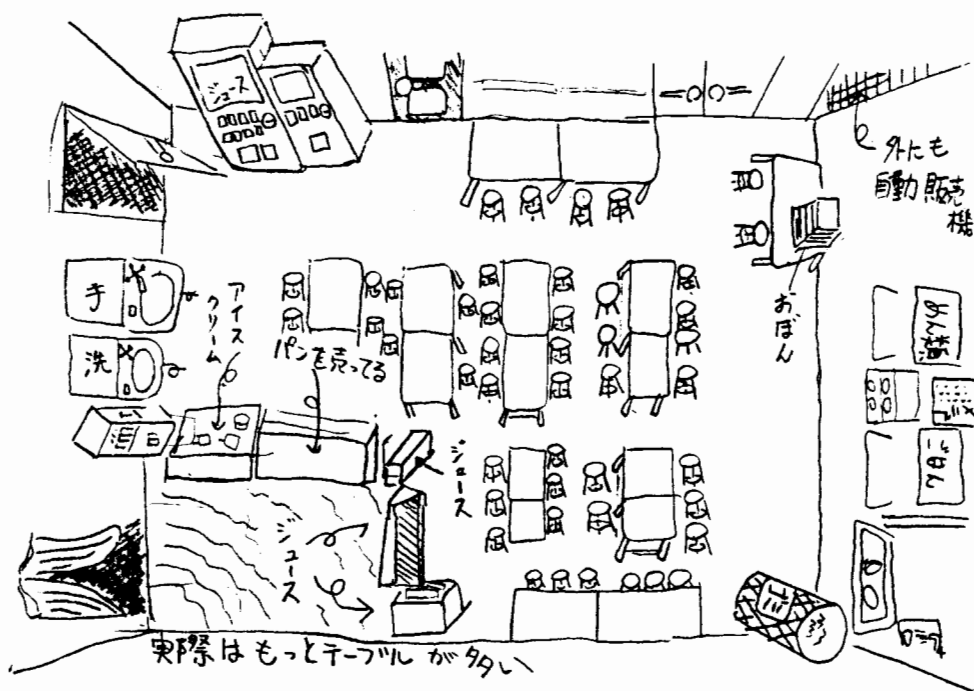
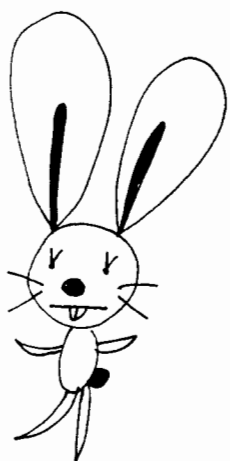
Q. 最後におじさんの本名を聞かせて下さい。

A. ……二代目です。

ると、まわりが藤色になったくらいです。

校舎の方は、今年が大手前始まって以来最大の四十五クラスということもあって、空き教室はないものの、まだまだよくわからないところがたくさんあります。例えば別館の二階から上

へつながっているはしご。一階には男子トイレが二つ並んでいます。(一年の時私は知らずに、一度入ったことがある)。金蘭会館の二階にあるベンチ、新館の前にある元自転車置き場だったような屋根など……、また四月には新しい校舎も完成します。大手前を卒業するまでに、ただ見すごしていた校内を探検してみてもおもしろいのではないでしょうか？



大手前食堂見取図

現代人

「タマネギボーイと呼ばれる青年達」

Y・O

タマネギボーイとは何だろう？あなたは知っていますか。私は数日前にテレビを見ていた。その時に出てきた『タマネギボーイ』これはむいてもむいても芯の見つけることのできない、つまり、自身をしっかりとした考えの無い人のことを言う。でも、いまの世の中、タマネギボーイの存在は決して珍しいものではないのだ。私も、テレビを見ていて「こんなものなんだ」と思っていた。物事は損得という観点だけで見ると、流れに逆らわず、周りの言うままに生きる。そのくせ外見だけにはとても気を配る。しかし肝心の内面は泥沼！自分のことしか考えず「まあ、いいわ！」で物事を済ませてしまう。

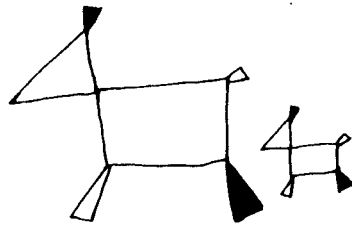
私にも、こんな側面が沢山ある。「自分さえよければ……」などよく思う。心の中では「いけない」と思っているけど、意志の弱さが、そうしてしまう。でも、このテレビを見たことによって、タマネギボーイを私自身の姿を見るように見ることができた。そして、タマネギボーイに対して「さめているな」と憤りを感じた。人間が機械になったようなものだ。格好が悪いからといって、本当の自分の気持ちを抑え込んでまでも、自分（の外見）だけは傷つけないように生きている。

私は『傷つく』ということは、自分にとって大切なことであると思っている。自分が傷ついた分だけ、他人の気持ちもそれだけ理解できるものであると信じているし、今までの自分よりもっと大き

な自分を見つめることもできる。だからタマネギボーイ。私はあなたのようにほなりたくない。

群衆心理（？）の一面を見て

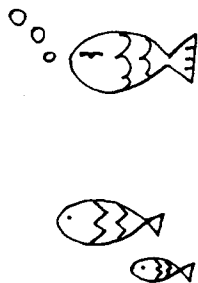
いるか座を仰ぎ見て



この頃、群衆になって行動する人が多い。人と一緒にいると安心するらしい。たかがトイレに行くぐらいで、「トイレに行けへん？」と言って友達を誘う。自分一人の用事なのに「ちょっとついていて」と言って友達をつきあわせる、などというのはよく見かける。ついこのあいだまで私もその一人だったので、その気持ちはわかるが、「やっぱりそんなこと一人でしたらいいのに」と思ってしまう。いつも誰かと一緒にいたい。誰かと一緒にいたら安心する。こう思う人が多い。休み時間でも、友達のところに行きやべりにいって、愛想笑いをしていううちに貴重な休み時間を終わらせてしまう。きつと群から外れたくないから、外されたくないから。あんまり面白く

もないのに無理して笑っているという人も少なくないと思う。

でも、そんなにしてまで誰かと一緒にいたいのか。私にはわからない。日本人特有のジャパニーズスマイルをしながら、人に対応していく……これは高校生に限らないのかもしれない。群から外れるというのでもいいものだと思う。いつも群がっていると、言わなければならぬことを、その雰囲気に向けて、「まあいいか」と思って言えなくなるような気がする。今まで別に気にならなかった人は、ずっと気がつかないのかも知れない。けれども、こんなことを一度ぐらいは考えてみてもいいのではないだろうか。



矛盾の多い今の現代

スプリング編集委員会編

この論文ははっきり言って支離滅裂です。なぜならボツ寸前のある五名の論文を強引に編集委員長がつなげたからです。ボツにしてゴミ箱に捨てるのが辛いので、優しい(?) 委員長の救いの手がここに伸びました。五名の氏名はあえて書かないことにします。

環境破壊、思い浮かぶことが沢山ある。自然を無視した乱開発、

酸性雨、オゾン層の破壊、森林伐採等々。誰かが言った、『宇宙船地球号』の壊滅も近い。人間が目先の利益ばかりを追求した結果である。私たちが毎日使用しているスプレーもそうである。オゾン層を破壊する。「少しくらいなら大丈夫……」という気持を皆が捨てて、この『宇宙船地球号』の再建に努めなければいけない。極端な話、多少の不便さと人類滅亡との選択なのだから。

こういう国際社会の中で、日本の担っていかなければならない側面は大きい。日本も国際社会の仲間入りをするためには、英語の普及を推し進めなければならないだろう。ところが、今の学校教育での英語は、米国、英国の人々が日常にはあまり使いもしないような言葉ばかりを授業ではよく扱う。私たちも、期末試験で点数を取るため、大学入試のためにしか英語の重要性を感じない……。これではいけないと思っていますが。

英語の重要さもさることながら、日本語も十分に使いこなせない日本人にはあきれてしまいます。特に敬語の使い方がなっています。敬語を使いこなすことは、人間社会の縦の関係は勿論、横の関係も円滑なものにしてくれます。授業の現代国語、これが敬語の教育にも力を入れてくれることを、私は強く望みます。

ところで、授業への望みを言ったので、今の義務教育についても一つ書いてみようと思います。この『義務』という言葉は大人が子供に学校へ行かせる義務のことであるはずなのに、いつの間にか、私も、いや皆も、子供は学校に行かなければならないという義務のことであると思ってしまうでしょう。誤って認識している子供達がこのような学校で学ぶことは、学力を競い合わせる精神にはかなりません。人間形成の最も土台にある義務教育、もう少し皆で

考えて、個性あふれる児童・生徒を尊重していくように、努めなければならぬはずです。

個性的な人間であると、私が断言している人に、宮沢りえちゃんがあります。彼女の歌に『ドリーム・ラッシュ』というのがあり、その歌詞の中にある、「今だけの為に生まれてきた」という箇所のことですが、たとえ人気商売であるアイドルの世界の歌であるとしても人間の積み重ねてきた長い歴史に対して恥ずかしいとは思わないのでしょうか？（本当は作詞家が悪いのであるが……）それに、もう少し上手に歌を唄っていただけではないでしょうか。

皆さん誤字・脱字・文法間違いの多発でした。でも、言いたいことが真に迫っていたので、ボツ直行便を免れることができました。そんな皆さんのスプリングです。今度はあなたも投稿してくださいネ。

原作 は せ べ ち ゃ ん

アライグマくんいぢめる？

他 三 名



原子の悟り

an ice house

電車の座席に座っている。車内は混雑はしていないものの、空いている席はなく吊革につかまっている人がチラホラいる状態。そこへ重そうな荷物を持った七十歳前後の老人が自分の前に来てしまった……。こんな時、何の抵抗もなしに席を譲ることができだろうか？ ハラリと自分のポケットから落ちてしまったゴミ、何気無しにすぐ拾って再びポケットへ、いやゴミ箱へ持っていくことができるであろうか？ 目の不自由な人が道で困っている時、とっさに自分の手を差し伸べることができるであろうか。おそらく、どれ一つとしてなかなかできることではないだろう。なぜ、共感といった心の動きに抵抗があるのであろう。私も、いつも気をつけているが、やはり座席を譲ることをなかなか言いだせないし、譲った後も、周囲に対して少し恥ずかしいような感じがする。ゴミを拾おうとする時もある。目の不自由な人に対しては、未だ出会ったことはないが、もし出会ったとしても、何もできないであろう。不思議なことである。感情を抑え込んでいくわけなのだ……。変な現代の世の中だ。ここまで読んで、ただのお説教として受け取る人間も多いことだろう。私を含めて、現代人は、競争社会の中で出世したり、有能さを世間に表したりするために、『共感』といった自分の心の動きを邪魔に思ってしまったたり、人間自身の素朴な心や本当の心を表面に浮かべることを恥ずかしい物にしてしまい、そう思い込んでしまっている。それが普通になっている世の中である。だから、座席を譲る

ことに對しても『善人のふりをしてると周りの人に思われている』などと勘違いをしてしまうのである。よく考えれば席を譲ること自体、当然のことであるのに……。何かいかにも善人の代表であるような気になってしまふのだ。実に変なことにしか思えない。

共感といった心の動きでなく、他にも優しさや感動の場合も同じことが言える。言葉では言い表し難いし、心からの優しい気持ちもどれであるのか理解し難い。何か優しい行為という典型的なパターンがあり、そのパターンに沿った行為をすれば、『優しい人』であると言われる。しかし、そのように言う人の方は本当にそう思っていない。周囲の人が褒めることまでも、一つのパターンに収まっているからだ。その優しさのパターンは皆が知っていることであるからだ。そのような形式的な優しさのやり取りが多いことは事実である。そして心からの優しい気持ちは、共感と同じく外に出し難い。感動の場合も、心から『よかったわね、おめでとう』と思っている場合もあるが、その時の状況によって、いわゆる口先だけでそう言っている場合も決して少なくはない。「オオカミが来た！助けてくれ！」と少年が叫んだあの童話の場合と同じで、本当に心から思っている時に、『果たして、分かってもらえているのだろうか？』と疑心暗鬼になりがちなものである。

共感・優しさ・感動……この三つに共通して言えることは、これらはすべて人間を表しているということである。そして、乱れ、汚くなった現在に、再び私たちが、取り入れなければならないものである。人間とは醜いエゴイストなのである。が、誰でも感情というものを持っているはずだ。より良い世の中を作るためには、この感情でエゴイズムを排除しなければならない。科学が進化していくに

つれて人間性が薄れていく。私たちが失いつつあるもの、人間として一番大切なものについて考えなければならない。この世の中のことすべてについて、見直さなければならない。自分と他人、他人と自分を区別していた仕切りが完全に消え去った時、自分と他人、他人と自分は同じものであり、ただ外見だけが違うように見える同じ原子の塊であると気付いた時に初めてすべてを知ることができるのだ。



心の隙間お埋めいたします……

「現代を見つめる——後書き」

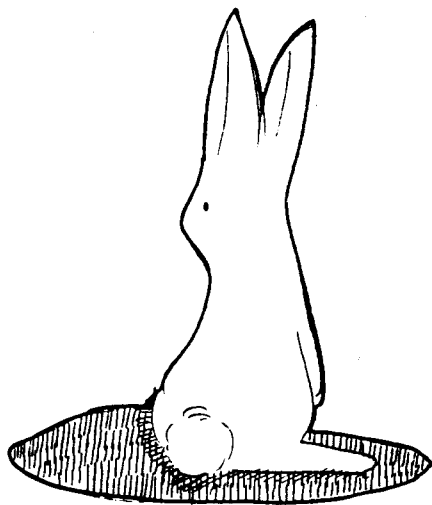
現代のこの地球には、様々な問題があふれています。環境破壊による人類滅亡がささやかれてから、もう長い時間が過ぎています。

急速に好転していく東西問題にしても、新たな体制を求め模索段階に入っています。南北問題はまだまだ大きな問題だろうし、核兵器などの脅威や、いつも世界のどこかで起こっている内戦内乱の類のことも忘れてはなりません。ああ、異常気象による食糧危機なんてのもありました。人種差別や男女差別、これも忘れるわけにはいかないでしょう。思いつくかぎり並べてみましたが、きっとこのほかにもダース単位の問題がころがっているに違いありません。

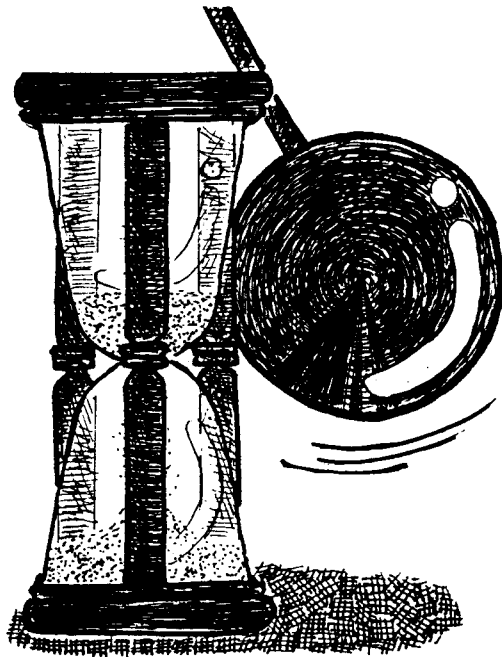
ここで、日本に舞台を移してみますと……。考えただけで頭が痛くなってきました。学歴社会の弊害だとか、政治の腐敗だとか、土地の暴騰だとか……。その他、経済摩擦、交通事故の多発、ゴミ問題、高齢化社会、農業問題エトセトラ。こういう問題は少ないとは言えないでしょう。高校生でさえこれだけ思いつくのだから、どこかの社会学者に言わせると全く憂うべき事態なのかもしれません。いや、別にしゃちほこばって考えなくてもいいんです。私達の身近なところにもたくさんあるのですから。例えば私達は新人類だの三無主義だのと言われています。たいていこんな言葉にはいい意味が含まれていないわけで、「大人だって——やんか。」と反発することになります。だいたい「子は親の鑑」ということですし……。とは言っても、確かに私達にも問題はあるのでしょう。同じこと？は大手前にも言えるような気がします。又、もっと身近に考えれば、個人の悩

みだって当事者にとっては充分に大きな問題です。

長々と羅列してしまいましたが、要は私達の回りは問題だらけなのです。普段は勉強のことや進路のこと、友人関係などの個人の問題だけを考えていればいいでしょう。しかし、たまには日本の、世界の、そして地球の問題について考えてみてはどうでしょう。そういう思いを含めて、私達スプリング編集委員会はこの企画をたてました。これを機にこのような問題について考えて下されば幸いです。



階ごとに男女便所がちがうので、慌てて便所に駆け込んだ女の子もいる。



スプリング の お話ししましょ。

大手前の縮図

〈スプリングのお話〉

あなたはスプリングについて何か知っていますか？もちろん、新入生の方はまるっきり知らないでしょうし、二、三年の方でも、編集にかかわったり、原稿を依頼されたり、そういうことがない限り、—スプリング？なにそれ？—とあまり関心がないといった感じではないでしょうか。スプリングが何なのかよくわからないまま、卒業していった方々がいるかも知れません。……そんなことを考えると、私たち編集委員は、ちょっと悲しい。

そこで、スプリングとはいったい何であるのか、大手前高校にとってどんなものなのかということを知ってもらいたくて、ちょっとページをわけてもらいました。

スプリングの作り方教えます。

その一 スプリングを作る人

スプリングは、毎年この時期に発行される自治会の機関誌です。大手前の生徒・先生方から寄せられた原稿をもとにして、先生方や自治会などの協力を得て、スプリング編集委員が雑誌としてまとめる「お仕事」をします。これを読めば、委員の仕事の概要がつかめ

席次って大きい方がいいんですよね？

ますので編集をやってみたい方は参考にしてください。やりたくない方も、仕事をやったような気分になれるのでどうぞ。

その二 編集委員になるには

さて、現在私たちは編集委員として、この原稿なんかを書いていくわけですが、編集委員になる方法は簡単です。後期の文化委員になり、そのなかで「スプリング編集委員」というのを募るので、それに立候補してください。なお編集委員になったら最後、抜けられませんのでご注意。（地獄の底までついて回る!?）

その三 編集委員会

十月の終わりの頃、あなたのもとに届く一枚のワラ半紙。これがあなたの学校生活を変えてしまいます。編集委員会の召集です。放課後はその日から編集委員会一色になります。出席するのは、帰宅部の方には辛いと思います。運動系クラブの方はまず不可能です。ですから、委員には文化系クラブの方が一番向いていると思います。

委員会ではまず一番初めに行われるのは、自分たちの作るスプリングの内容をどんなものにするか、つまりテーマや企画をひねり出すことです。今年は特にテーマを決めなかったので、スプリングのバックナンバーを読んで（これは好きな人には楽しい作業だと思います）参考にして、とりあえず企画をどんどん出していく方法をとりました。ただし企画をひねり出すときには、具体的なものを考えておかないと、後が大変です。中途半端なものを考えると、いざ実行に移そうとしてもなかなか細かいことも決まらず、最悪の場合、ボツになってしまいます。（経験者は語る）。逆に、しっかりしたい

い企画を持っていると、発言力も強くなりますし、委員会に出るのも苦にならなくなる……といいことづくめですので、委員になるときに自分のやりたいことを何か考えておくと非常に有利になります。私のように「魔がさして」委員になるのはやめといったほうがいいでしょう。

「委員会にはくれぐれも休んでくれるなよ」……帰宅部の私にしてみれば、実際これはきつい任務でした。しかし、委員には人並みの責任感というものが必要ですし、初めのうちは委員会全体で話を進めていくので、休まれると進行が遅れるわけです。（かく言う私もこの段階で二回休んだので、あまり大きなことは言えませんが）締切りに間に合わせるためには、仕事が早いのにこしたことはありません。

その四 企画の完成

企画は委員会でチェックされて、細部の変更や、一部の変更、まれに全部変更……（つまりボツにされたわけです）を経て、いよいよ実行に移されます。ここまでくれば、しめたもの。委員会もしばらく休みで、委員はそれぞれ二・三の企画班に分かれて、各自で行動するわけです。どこかへ出かけて取材する班、原稿を依頼する班、ひたすら原稿を書く班などいろいろあります。それぞれ、それなりにしんどいと思いますが、それは委員の宿命。慣れれば気持ちよくなります!!

私はそのころからようやく委員の自覚に目覚め、原稿書きに頑張ったのでした。

その五 再び、編集委員会

十一月下旬、完成した原稿を持ち寄って、委員会が再開されます。先生方の原稿はただでさえ遅れやすいので、委員は締切り厳守が大原則です。

でき上がった原稿は再度委員でチェックされます。ここで切られる場合もあるのです。企画班長、真つ青。(近年スプリングの質が落ちたと言われているので、チェックが厳しいのです)

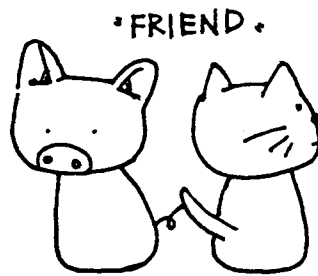
それと同時に、寄せられた原稿の選考や校正をします。もっとも原稿がなかなか集まらない、という場合もあったりして、一筋縄にはいきません。校正というのは、みなで原稿を読みまわす作業で誤字などをチェックしていきます。それが終われば、たぶんページ割をして終わりでしょう。(実は、今この原稿を書いている時点ではページ割に入っていないので、はつきりしたことは言えないんです)

その六 おわりに

初めに言ったように、スプリングは自治会の機関誌、と言うことになっていきます。だからといって、身構える必要は全くありません。大手前高校の生徒であればだれでも自治会員なのですし、一般公募の原稿はその気になれば誰が書いてもいいのです。名前を出すのが嫌なら、ペンネームも使えます。

「何かやってみたいけど、自治会役員はしんどそうでやる気がせえへんなあ……」と思っている方(私もそうです)。スプリングは、そんなあなたのためにあります。編集委員会になるのもよし、原稿を書くのもよし。「四十字一言」でひっかきまわすという手もあります。スプリングは、あなたにも作れます。

過去をふり返って



昭和三十六年、大手前高校自治会によって一冊の機関誌が発刊された。題名は一般生徒から募集され、「スプリング」と名付けられた。創刊号の編集後記にはこうある。

「この雑誌がその題目「スプリング」の通りに、「春」のように生き生きとした、「泉」のごとく新鮮で、「躍動」のように力強いものとなることを願う」

このスプリングは、当時、高津高校にあった文化系クラブ活動の発表の雑誌を手本にし、クラブ活動と自治会活動の紹介を中心に編集され、販売された。今は無料となっているが、当初のものと同じようにクラブや自治会の紹介を主体としている。しかし、その内容

は少し変わってきている。ではここで、過去のものを見てみよう。

まず、クラブ活動については、最近のスプリングは、各クラブの普段の活動内容の紹介と、新入部員の勧誘を目的としたものが多い。しかし、発刊当初のスプリングには、文化系クラブの研究発表も掲載されている。また、今でも私達高校生にとって大きな課題の一つである「クラブ活動と勉強の両立」をとりあげた座談会も催されている。これを読んでいると、先輩達が強い意志をもって前向きにこの問題を解決しようと努力していたことがうかがわれる。

次に、自治会活動のことについては、昔のスプリングも最近のものと同じように「座談会」が催されている。その座談会の一つに、校長先生と一緒に「学習の意義」について話をしているものがある。そこには、生徒の自主的な学習態度を期待しながらも、有名大学に十分合格できるような学力をつけさせようと必死になっていた学校の姿勢と、その下で一生懸命勉強しながらも、自治会活動やクラブ活動を中心とした友人との交流によって、人間形成を目指している生徒の意識がはつきりと表れている。今、私達はその当時よりも厳しい「受験戦争」の中にいる。そして、先生方の学力をつけさせようとする姿勢も昔と変わっていない。そんな状況の中で私達の日頃の態度はどうであらうか。私達はむやみに反抗するか、流されるままに何も考えずに勉強だけをしているかのどちらかである。こういう私達こそ本当に学習の意義を考えなければいけない。

もう一つ、スプリングの大きな柱に、先生、生徒からの投稿がある。先生からの投稿は今も昔も、体験を通じた「人生の教訓」のようなものが多い。生徒の投稿は初期の頃は、学校の姿勢に反感を持ち、今のままの高校生活でいいのか、何故勉強するのかなどの疑問

を投げかけているものや、(スプリングの発刊が安保条約改訂の前年ということもあって)時代を反映した安保や政治などの社会的問題も多い。最近もこういった内容の投稿はあるが、初期の頃に比べて問題意識は浅く、文体も柔らかい。また、最近の投稿には、恋愛を取り扱った詩や小説なども多い。

今までのスプリングをずっと読んでいると、評論家の先生方がよく言われるような「無気力化現象」というものが、どんどん大手前生の間で進行していることがわかる。スプリングの最初の願いを果たすためには、私達全員が真剣に自分自身を見つめて、この状況を打開しなければならぬ。そして私達自身が生き生きと、新鮮に、かつ力強く生きていくことによって、スプリングとともに大きく羽ばたいていけるのではないだろうか。

修学旅行

修学旅行の舞台裏

山藤 恵

あの楽しかった修学旅行の五日間。私たちが楽しむことができたのも修学旅行委員の皆さんの半年近くにも及ぶ企画・準備のおかげであることを忘れてはなりません。もし、あなたが修学旅行というものをただの楽しみだと考えているのなら、それは大きな間違いです。——平和とは何か？——を考え、友情を深めることができるのは修学旅行委員の力ではないでしょうか。そんな修学旅行委員さんに修学旅行全般に渡る苦心談などの原稿を依頼しました。心よく引き受けて下さった修学旅行委員の山藤さんには誌面を拝借して感謝いたします。なお、この文章をお読みになって「自分も修学旅行委員になってみよう」と思われる一、二年生の方がおられましたら幸いに存じます。



修学旅行委員になった頃、「なんで、あたしがならなあかんのよ」と、いつも思っていた。けれど最終的には、修学旅行委員になったからこそ、修学旅行の思い出が、特別によくあったのだと思う。

どういう点で、『特別』だったのか。ごく当り前のことだが、修学旅行に行くという実感が、ひしひしと感じられたことだ。五月末からの委員会活動を通じて、一つ一つ説明を受け、長崎市内研修の資料作成、グループ分け、キャンプファイヤーの企画などをしてきて、修学旅行像みたいなのが持てた。

資料作成は、最初の仕事であり、また一番苦労したことでもあって、修学旅行といえば、これがまず思い浮かぶ。自分たちで調べて、そしてそれを文章にしていこうという面倒な仕事だった。昨年の資料を見ていると「すごいわ」の一言に尽きてしまい、そんなことが私にできるのだろうか、と不安に思った。そうしているうちに、期末考査も終り、夏休みになってしまった。何度か、図書館に通って本を読み原稿を作成しようとしても、上手くいかなかった。

私が調べたことはキリシタンのことで、かなり抽象的で微妙なところが多かったのになかなかまとまらず、二学期になってからも、最終締切に間に合うかどうかという状態であった。「もうあかん」というぎりぎりの日に、担当の広田大助先生が、キリシタンのことを調べることになっていた私たちに、先生が図書室で調べられたことを話して下さった。伝来のことをはじめいろんなことについて、驚くほど詳しく、いつの間にかこれだけのことを調べられたのだろうと

感心した。先生が以前からキシタンについてよく知っておられたみたいだったので、「なんで、そんなに知っておられるのですか」と聞いたとき、「生徒にさせることは自分でもする」と言われていたことを思い出し、夏休みなのにこんなにも調べて下さっていたのかと、先生を尊敬せずにはいられなかった。

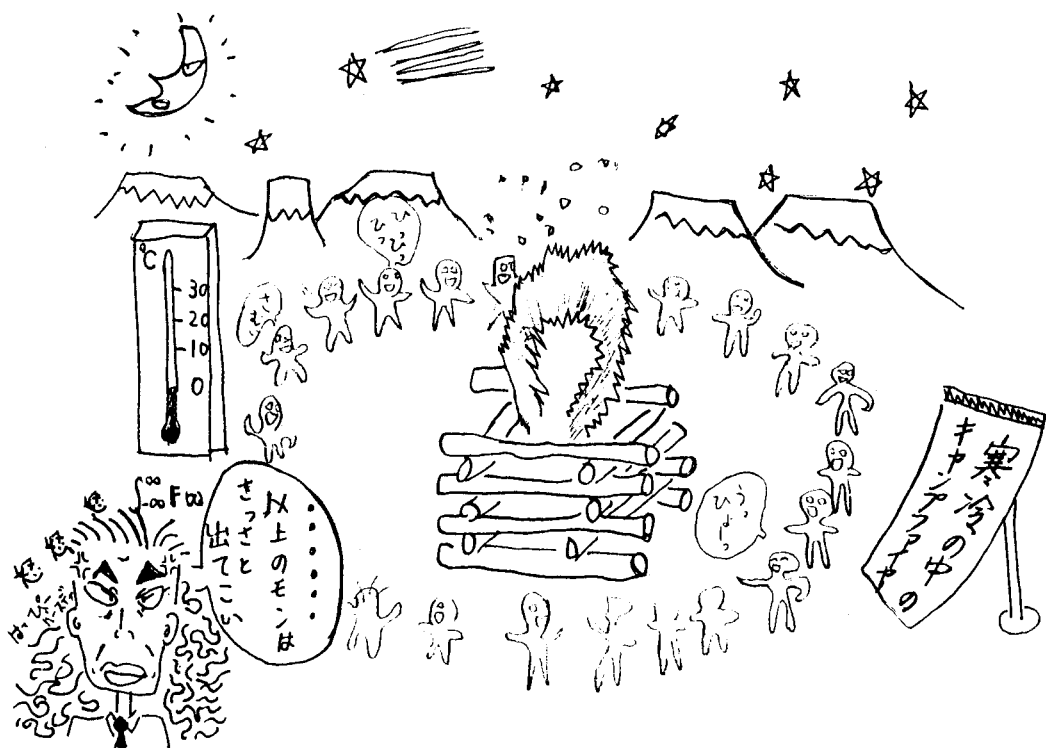
この広田先生の詳しいキシタンのお話のおかげで、原稿ができあがったといっても過言ではない。と同時に、今まで私は何を調べていたのだろうと、自分を恥ずかしく思った。それなりに努力はしたと思っても、やはりそれを、きちんと最後までやりとげなくては意味がない。

自分たちの手で……というよりも先生からの手助けでできた資料作成だったが、旅行中、キシタンに関係する所に来たとき、初めて来た所ではないような親しみが持てた。また、長崎市内研修についても、事前に模造紙に描かれた地図に名所の写真を貼ったり、その名所にまつわる話を聞いたり、ビデオや交通手段、所要時間のプリントを見たりして、クラスの人たちに説明した。その分だけ、私はこの研修は、より有意義に過ごせたと思う。こういう点で、修学旅行委員でよかったと思ったが、私たちの説明で、クラスのみんなはどこまでわかってくれただろう。ただ聞くだけの人もいたかもしれないし、私たちの説明不足もあっただろう。しかも説明をかけ足でしていたのに時間がなくなり、「あとはプリントをよく読んでコースを決めて下さい」としか言えなかった。説明に不満を持った人、本当にすみません。でも、プリントや資料をよく読んだら、「ああ、そうか」と、わかるころはあったはずだと思う。

市内研修の集合場所だった国際文化会館の見学は、頭のなかでは

わかっていった戦争の恐ろしさ、恐さを、より一層深めさせた。その前日の晩、被爆者の方による講演があり、目の前で家族や友達を失ってしまったこと、被爆による後遺症を持ちながらの活動のことをうかがった。被爆者は日本人ばかりではなく、日本に強制的に連れてこられた朝鮮人などの方たちにも及んでいることもわかった。講演中はみんな静かだった。講演の後、質問や意見を言おうとしても、何を言えいいのかなかなかわからなかった。講演会が終わって、語り部さんを送りにロビーに出たとき、質問した人が追いかけてきて「頑張ってください」と声をかけた。私も本当に「頑張ってください」と言うべきだと思った。平和の尊さ、戦争の残酷さを実感されてきた方が、何もよくわかっていない私たちに語って下さったのだから。語り部さんが、思っていることを正しく伝えようと頑張っておられるように、私たちも今まで以上に広い視野で、平和の尊さ、戦争の残酷さについて考え、深めていく努力をしなければならないと思う。

三日目のキャンプファイヤーは、みんなに楽しんでもらえたのだろうか。これは、A班では、男子修学旅行委員、司会者、音響や照明などに関わった人たちの努力の集大成だった。委員会としての仕事だったが、それよりも有志の人たちで企画、進化したと言った方がいいぐらいだった。男子修学旅行委員だけで、何度も話し合っていたので、私たちは何が計画されていたのか、知らなかった。中間考査の最終日、修学旅行説明会の後、委員会でキャンプファイヤーの進行表をもらい、初めから通して詳しい説明を受けた。「こんな詳しくなっていたなんて……」と、驚きと感心とで、男子修学旅行委員がすごく偉く見えた。



キャンプファイヤーのなかにB計画、つまりお誕生日を祝おうという計画があった。(小野先生にお怒りを演じていただき、旅行中に誕生日を迎える生徒を呼びだした。泣きだした女の子、ゴメンナサイ。)A班では、小野先生の迫真の演技があり、強く心に残ったことだろう。フォークダンスの後、急に小野先生のお怒りがあり、何が起こったかとみんながざわめきだしたときに、先生の「お誕生日おめでとう」という意外なお言葉。それを聞いたみんなが、「なーんや」とか「ほっ」と一息つきながらも誕生日を迎えた人たちを祝うのを見ていたら、「成功したな」ととてもうれしい気分になった。私は、キャンプファイヤーに関しては、全ての企画に参加したわけではなかったが、フォークダンス講習会や、スタンツの練習をしてきただけあって、本当に充実感があった。

修学旅行を通じて、切に感じたことは、自分の思うことをみんなに正しく伝えることの難しさだった。ただ伝える人が一方的に伝えるだけではだめだし、それを受け取る人の関心も大切だと思う。そのどちらが欠けても上手くいかないものだと思う。

九州の細道

〈修学旅行回想記〉

紀 貫 之

旅立ち

試験も終わり、寒さがじわじわ身にしみる十月の下旬。今日はかねてからの楽しみであった修学旅行の出発日である。朝一番の電車に駆け込んで新大阪に出る。みんな旅への期待でいっぱいだ。ところで笑顔を隠せない私、新大阪までの電車の中でどういう風に見られたのだろう。

青と白二色の車新幹線

大阪を離れて遥か北九州

私にもこんな歌が詠める。心はすでに博多に到着している。

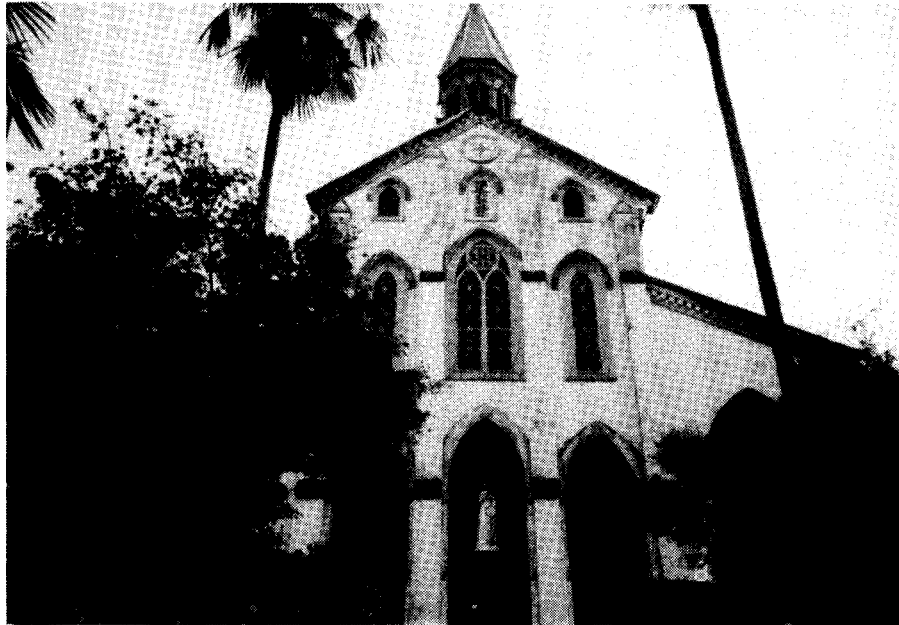
博多の駅

新幹線を降りると、ここが博多である。私の心は天にも届いた。男たちはガイドの美しさに目を惹かれる。まったくいつの世も男というものは、しかしあのガイド、私より奇麗である。でも私もいつかはあのように。まだ十六の乙女である私は。

男どもガイドにひかれ博多駅

私より奇麗なガイドに嫉妬する

前途多難の修学旅行になりそうである。



↑大浦天主堂

大浦天主堂

キリスト教というものの一面を見ることができると大浦天主堂である。一瞬戸惑いながらもマリア像を見る。周りには熱心な信者がたくさんいる。私には少し難しすぎるのかな。

先生シリーズ③ とっても、素晴らしい天気ですね！（ある日の朝礼）

マリアへの思いを込めてキリシタン
マリア像に手を合わせてここを立ち去った。

グラバー園

少し丘に登って私はさわやかな緑に包まれる。グラバーという紳士が築いた庭園。振り返れば長崎港が見下ろせる。庭園の緑と海の青に酔っている私、初めて感動した旅の一場面である。

彼方には青く広がる長崎港

グラバーの思いはいつも緑色

私の歌もこの美しい風景を表すことができない。もう一度ここに
来てグラバー園に挑戦したい。

長崎の市内を歩く

今日は、いよいよお目当ての子といっしょに行動できる市内研修である。ずっと歩いて眼鏡橋でいっしょに写真を撮った。彼もちょっと照れくさそうにピースなんかしている。この写真、今も私の定期入れの中。

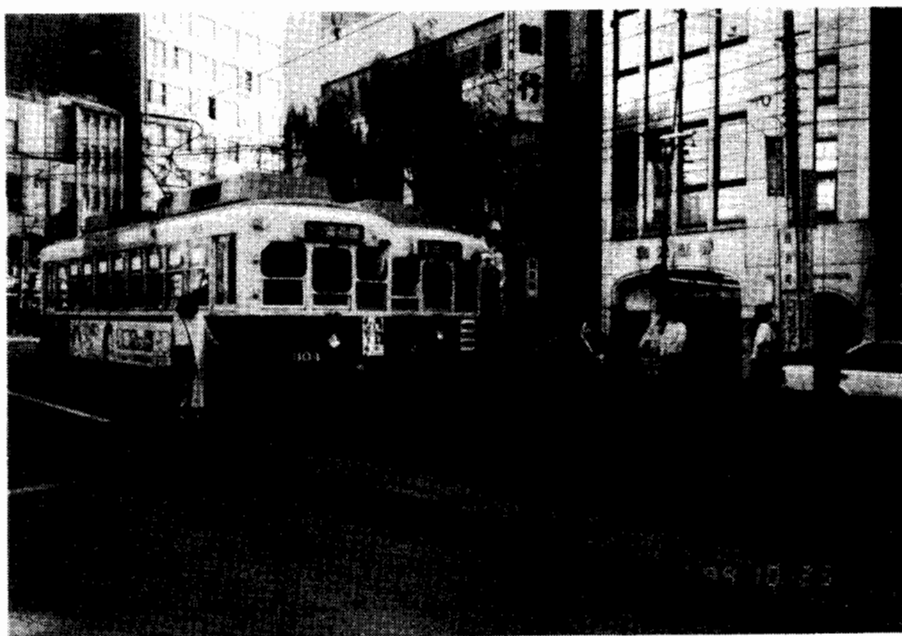
思い出は彼といっしょの絵の中に

好きですと言えた長崎眼鏡橋

なんてことを書いてみたかったただけなのだ。残念。

平和公園

明暗の両面がある長崎の暗なる場所である。私のような人間も人と人の争いの結果の恐ろしさが痛い程感じられた。原爆を落した人間、原爆を落させるまで抵抗した人間、誰が悪いといっても始まら



↑長崎の市電

ない。これから私たちが平和を築き上げなければならないのだ。

平和への思いを込めて平和像

原爆の恐怖を消せよ平和像

もう永久に戦争が起らないことを願って私は平和公園を後にして

立ち去った。

水前寺公園

この庭園はとても整備されていて、見る人の目を休める。庭園の周りを一周すると土産物屋もある。早速ザボン漬けを一袋買う。お土産だというのに一つ口に入れる。南国の香りが広がった。

中池に泳ぐ鯉はにしきなりけり
初めて字余りの歌を詠む

有明の海を渡る

初めて船に乗った。また酔ったりもした。旅行の疲れが出てきたのかもしれない。

旅疲れ舟で渡るか有明海

潮風に髪を吹かれて熊本に

介抱してくれたのも彼であった。

草千里

一歩歩くと灰が舞う草千里である。火山活動が激しいせいか、いつもより灰が余計に積もっているようだ。何もないこの斜面を思いつき駆け降りる。

駆け下りて灰が飛び舞う草千里

黒髪もつられて舞うか風の丘

撮った写真は前髪がまくれあがっていた。恥ずかしいよ。

久住の山に登る

久住山は大阪では見ることでできない険しい山である。私のようなかわいい乙女が登るなんて、ちょっぴり辛い。石はゴロゴロ、硫黄はプンプン。でも、頂上からの眺めはほんとにすばらしい。あーちゃんとフィルムが入っていたらなあ。

久住より見える下界の広大さ

フィルムなしその光景は胸の中

最後まで山登りをあきらめないでよかった。

別府の港

いよいよこの九州を別れる。ちょっぴり悲しい気分。もっとここにじっとしていたい。最後に別府温泉の素を買う。おじいさんの腰痛も治るだろう。

寂しさは別れの港別府港

暗がりに汽笛響く別府港

甲板から九州の明かりが見えなくなった。

大阪に着く

神戸の港に着いた後、少々バスにのる。もう目を開けておく程の体力はない。大手前高校の校舎が見えた。やっと大阪に帰ってきたのです。でも、とても短い五日間だったわ。

惜しいけどここに打ちます終止符を

ずっと、修学旅行の思い出は私の頭の中から消えることはないだろう。

今はただ、眠たいだけです。

旅 程 表

A班〔1～8組〕

1	10/22 (日)	ひかり 191号 新大阪——博多——九州自動車道——大浦天主堂 8:14 11:38 12:00 13:20 13:40 15:30 17:20
2	10/23 (月)	長崎班別 長崎……自主行動……国際文化会館……爆心地・平和公園 8:00 13:00 15:00 17:00
3	10/24 (火)	雲仙温泉……地獄めぐり——島原城——島原港——三角港——宇土・イブイン 8:00 8:30 9:30 10:00 11:00 12:00 (昼) 13:00 ——阿蘇(草千里)——瀬の本高原(泊) 15:00 15:40 16:00
4	10/25 (水)	瀬の本高原——牧の戸峠……久住山登山……長者原駐車場——九重ハイランドホテル 7:45 8:00 (弁) 14:15 14:25 15:00 ——別府さくらドライブイン(夕)——別府港——船中泊 17:00 18:30 18:40 19:20
5	10/26 (木)	さんふらわー 2 ——大阪南港——学校 (弁) 8:20 8:50 9:50
4 日 目 雨 天 時		瀬の本高原——別府アフリカンサファリ——別府豪華船オリアナ号——さくらドライブイン 9:30 11:05 (弁) 13:20 14:00 16:20 16:40

B班〔9～16組〕

1	10/22 (日)	ひかり 191号 新大阪——博多——金立SA——国際文化会館 8:14 11:38 12:00 13:20 13:40 15:30 17:10 17:20
2	10/23 (月)	長崎班別 長崎……自主行動……異人館……大浦天主堂 8:00 13:00 15:00 17:00
3	10/24 (火)	11～16組 7:40 8:05 9:10 10:30 14:30 15:00 16:30 島原——多比良——長洲——水前寺公園——阿蘇(草千里)——九重高原(泊) 8:00(島原城) 8:50 9:55 11:15 13:00 14:30 15:00 16:30 9～10組 (昼)
4	10/25 (水)	九重高原——長者原駐車場……久住山登山……牧の戸峠——九重ハイランドホテル 7:50 8:00 (弁) 14:00 14:15 15:10 ——別府ドライブイン(夕)——大分港——船中泊 16:30 17:50 18:20 19:00
5	10/26 (木)	ダイヤモンドフェリー ——神戸港(六甲アイランド)——学校 (弁) 7:00 7:30 8:30
4 日 目 雨 天 時		九重高原——別府アフリカンサファリ——別府豪華船オリアナ号——別府ドライブイン 9:30 10:45 (弁) 13:00 13:40 16:00 16:20

J R ————— バス ————— 船 ~~~~~ 徒歩……………

クラブ紹介・クラブ物語

Ⅱアンケート内容Ⅱ

1 部員数・活動日は？

2 活動内容は？

3 クラブ名物は何ですか？

4 クラブのモットーは？

※以下の表は各クラブの個性を十分に再現するために、編集段階では、ほとんど回答には手が加えられていませんのであしからず。

※表は基本的にあいいうえお順になっています。

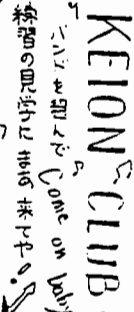
誌面の都合上、一部のクラブ物語を掲載できなかったことをお詫び致します。

スプリング恒例となりつつあるクラブ・アンケートです。新入生の皆さんには入部の参考になるよう、又、クラブの方々は自分のクラブを最大にアピールできるページとなるようにしました。今回はアンケートの他に“クラブ広告”と新企画の“クラブ物語”も載せています。

“クラブ物語”は、フィクションも交えて日頃の活動を物語風に書いてもらいました。いずれも力作ぞろい、クラブの性格もでてくるので(?)楽しく読んで頂けると思います。全クラブの物語を掲載できなかったのが残念でしたが……。

このクラブ紹介が入部の手引きや、他のクラブをもっと知る機会になればと願っています。

映画研究部			E・S・S		
④	②	①	④	②	①
もと部長の先輩を大切にしよう。	8ミリビデオで映画を製作中だが…	10数名。活動は週一回ぐらいただが臨機応変に減ったり増えたりする。	英語を親しむ、楽しむ、好きになる。存在感のあるクラブにするのは君だ	セサミストリートの本、ゲーム…	新三年生3人、活動日は火曜日と木曜日。くわしくは顧問の紋野先生まで
	③			③	休みを使って外人ハントにいきます
映研おいと 一度はおいで アサ 					

新 聞 部			書 道 部			写 真 部			音楽部 コーラス班			音楽部 軽音班			演 劇 部		
④	②	①	④	②	①	④	②	①	④	②	①	④	②	①	④	②	①
みんなが楽しめたことになる新聞をつくらう。	記事を書く。他に他校訪問など、	5人(男2人、女3人)新聞発行の直前に何回か。	“自由”ただそれだけです。	自分の書きたいものを書くことです	先生、生徒あわせて6人。月曜と金曜が練習日。	個人を拘束しないクラブであること。部員は元気であればいい。	撮影会、フィルム・映画紙の現像等	現在、部員は8名、理科棟四階物理実験室にて、毎週木曜日、活動しています	空をみがいて明日をつくって夢を売る。	放課後、音楽室に来て歌を歌います	男女30人、月々木 年に数回の発表会。関西合唱コンクールにて銀賞獲得	楽しく軽音明るく軽音まじめに軽音青春軽音	バンド毎に血のにじむような?練習	部員20名 4バンド 毎週金、土曜日活動	長期計画、短期集中	基礎トレーニングと劇の練習。	女子15名 火、水、金の週三回で発表前は毎日。
	③ たまにしかないという活動日。		③ 練習後のあつゝい一杯。			③ 暗い暗室、くさい酢酸、変な部員	③ さすらいのギタリスト○○○○		③	③ 何といっても年二回のLIVE!					③ 50回ジャンプ		
マイナーなクラブだからあなた1人で変わります。 新入部員募集中心 一新聞部			 この世にも知らない人みでん 書き手へ! by shiro			 こんなやつとりにいぎ			 コーラス班			 KEION CLUB Let's start it (Come on baby). 練習の思ひは 来ちゃあ。			 君の青春を舞台にかつてみないか? ☆		

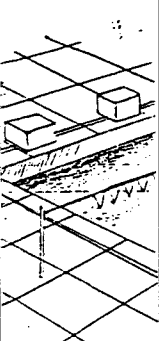
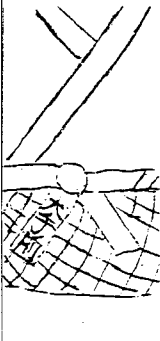
質問内容Q 1. 部員数、活動日は？

Q 2. 活動内容は？

Q 3. クラブの名物は何ですか？

Q 4. クラブのモットーは？

理化学研究部			文 芸 部			美 術 部			地理歴史研究部			生 物 部			吹奏楽部		
④	②	①	④	②	①	④	②	①	④	②	①	④	②	①	④	②	①
「宇宙の果てから電子まで」をモットーに上下関係のないクラブを。			恋愛詩厳禁！今の自分を研究しよう。			男子1人、女子17人、月・火・水・金の週休三日制、行事前には増日			みんなで楽しく遊び：もとい楽しく地理・歴史の研究をしましょ！			幽霊部員を含めて正部員13人、仮入部6人。部員の来た日が活動日。			部員はよーけおって、練習は月・火・水・木…えーっとなんしか毎日。		
化学実験、流星観測、電子工作 他			年五回の部誌発行、文化祭等への研究			a r t に関係のあることなら何でも			主に地理と歴史に関する調査、研究			昆虫、園芸、植物、淡水魚、採集会有			みんな集まってガサガサやってる。		
③ 文系クラブにはめずらしい合宿 他			③ 言葉を超えるコミュニケーション。			③ お茶会・むしやむしやばくばく！			③ もう卒業なさったF先輩（すみません）			③ 人間タヌキ、かけもち部員の多さ。			③ 変な部長とあぶない指揮者。		

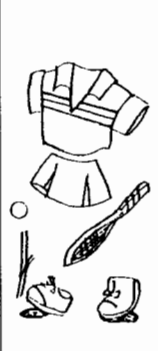
ソフトボール部			創作ダンス部			水 泳 部			柔 道 部			サッカー部			剣 道 部					
④	②	①	④	②	①	④	②	①	④	②	①	④	②	①	④	②	①			
緩慢なプレーをしない			二年7人 一年10人 毎日（日曜日をのぞく）			自分を捨てること 私は蝶 あなたは鳥 えっ勉強？なんのことかしら。			練習中はいつでもどこでも大きな声で			柔よく剛を制す！			サッカーを楽しみ プレーを真剣に			清潔第一！ 臭いなんか吹き飛ばせ！		
ソフトボールの練習 その他			一年9人 二年6人 三年8人 毎日			体作りや柔軟 創作が主			夏は泳ぎ冬は陸トレ。			主に柔道。筋力トレーニングも少々			四日 play で二日 run			男子21人 女子15人、マネージャー3人、活動日は月々土で日祝はありません		
③ 恐怖の近距離ノック			③ みんな同じ場所にできるあざ			③ とべとべ応援セッセッセ			③ 有段者を製造します。			③ 学年に関係なく、とても仲がよい。			③ 夏の楽しい合宿			③ 夏の楽しい合宿		
来たれ ソフトボール部 入れば？かまうづるぞク																				

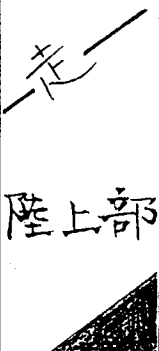
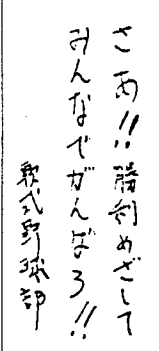
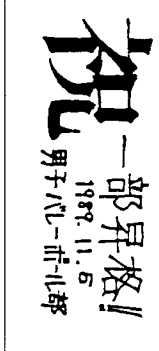
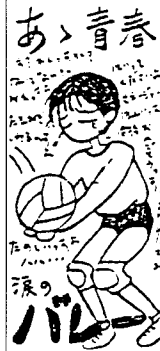
質問内容Q1. 部員数、活動日は？

Q2. 活動内容は？

Q3. クラブの名物は何ですか？

Q4. クラブのモットーは？

男子バスケットボール部			女子バスケットボール部			軟式テニス部			硬式テニス部			登山部			卓球部		
④	②	①	④	②	①	④	②	①	④	②	①	④	②	①	④	②	①
文武両道	バスケットボールに関するあらゆる事	部員数26名、マネージャー4名、活動日 毎日	清く正しく美しく?	バスケットボールに必要なこと	二年10人 一年10人 毎日	清く正しく元気よく、ボールと親しみ、お友達となること。	乱打(打ち合い)、基本練習、試合	男子9人と女子10人で活動日は月曜から土曜までの週五日間。	一球入魂	声を出して、体力づくりが中心。	男子12名、女子3名。日曜日以外の毎日。	地球が相手だかかってこい!(スプリング登場三周年)	基礎練をしつつ、遊ぶことを忘れない	男子8人 女子3人で月々土まで毎日練習?をし、年間登山回数は八回です。	一に卓球、二に卓球、三、四がなくて五に遊び?	卓球です。トレーニングもします。	男子7人 女子3人 月々土(日・祝日はその月によって指示)
	③	部費の徴収		③	大阪城梅林ダッシュ		③	この世にない男子と女子の合同練習	③	学校コートでの声出し		③	キャンプファイヤーで芸能会。		③	卓球部なのになぜか明るい部員達。	
																	

陸上競技部			ラグビー部			軟式野球部			硬式野球部			男子バレーボール部			女子バレーボール部		
④	②	①	④	②	①	④	②	①	④	②	①	④	②	①	④	②	①
精神の向上	走りあるのみ(遊びもあるよ)	活動日…月・土 部員数…男45人 女24人	部員36人 日曜日を除く毎日	短時間で中身の濃い練習を行っている	“自主性”をモットーに一人一人がやる気をだして全員で勝利を勝ちとる。	自分達の手によってつくられる全員野球	実践練習中心に	新三年生15人、二年生16人 マネージャー2人 月・土 日曜日(試合の時)	練習にも、勉強にも、一生懸命がんばること。	一日おきにグラウンドで練習をする。	21名(うちマネージャー2名) ほとんど毎日	弱体全日本の再建を担い(?) 明日の勝利へ全員で「すわぁーいこう!」	体育館で効率よく充実した楽しい練習	部員は新三年14人、二年9人の23人で休みは…	とにかく明るくて、元気にハッスルすること、かな?	バレーボールでぶれいすることです	二年12人 一年10人 計22人で毎日やっています。
	③	(無回答)		③	FWはロックプッシュ BKはカウント		③	みんな楽しく仲良くやること		③	坊主頭と、元気いっぱい大きな声		③	勝利の胸上げと名物男 “おやじ”		③	入ってからの楽しさ
																	

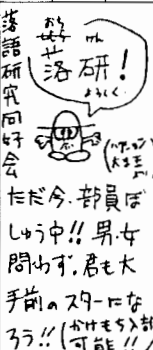
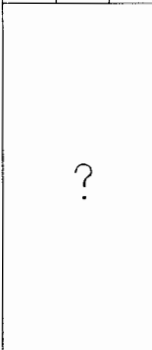
質問内容 Q 1. 部員数、活動日は?

Q 2. 活動内容は?

Q 3. クラブの名物は何ですか?

Q 4. クラブのモットーは?

無意味——L. H. R. でソフトボールをしたときのボールカウント

落語研究同好会			漫画研究同好会			フォーク・ギター同好会			将棋同好会			園芸同好会		
④	②	①	④	②	①	④	②	①	④	②	①	④	②	①
火の用心。マッチ一本火事のもと。クラブ対抗リレーで陸上部をブッチする。	みんなの前で落語して笑わす！	男子2人。女子5人。発表の三日前ぐらいから活動。運動クラブとのかけもち可	みんな仲良く楽しく活動し、同好会員を増やし、部になるまで続ける！	親睦を深め部誌を作りイラストを描く	幽霊部員も合わせれば18名！ 毎週火・木曜活動日	ポップス・ニューミュージック・ロック、どんなジャンルでもお手のもの	好きな曲を、気ままに、歌い奏でる	只今、会員数9名、まだまだ増える見込みあり。活動日・水金の週二回	礼と節を守り、努力の精神を養い、誠の道を進み、男を磨いて人格を完成する	リーグ戦、段級位取得、雑談など	15人 毎週火・木曜日の放課後に活動しています。	早く入らないと しまちやうおじさんに しまわれちゃうよ byぼのぼの	みんなで楽しく畑を耕す	42人(男子1人) 月二〜三回 かけもち・幽霊部員可 新入生大歓迎
	③ 落語舞台セット。変身セットなど他		③ 忘れた頃現れる複雑怪奇なあみだくじ				③ 自分の歌に、自分で酔える		③ 高校将棋名人戦大阪府大会団体第九位			③ 園芸って なんだっけ なんだっけ		
														

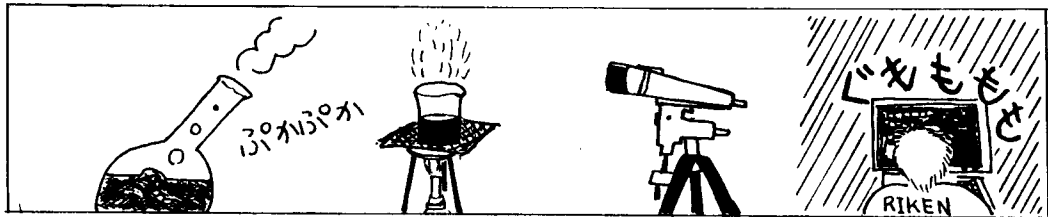
御協力、どうもありがとうございました

大手前で一番あやしげな場所

理化学研究部

私は大手前の一年生。クラブには入っていない。ある日の夕方、化学の質問の帰り、ある部屋からだならぬオーラを感じた。なんだこの力は。私はその部屋の中へ吸い込まれていった。気がつくときあやしげな、ざしきわらしのような男の前に座っていた。いきなりクラブの説明を始めた。そうか。私はすべてを悟ったときボー然とした。こ、これが理研か……。うわさには聞いていたが、とても恐ろしいものを持ったクラブだ。ここに引きずり込まれて、理研にどっぷりつかかった者に、まともな奴はいない。自分はまともだと思えば思うほど、どつぼにはまってゆくという。ここには危険だ。うっ、体が動かない。意識が薄れてゆく中で不気味な笑い声を聞いた。気がついたとき、私は入部申込用紙を握ったまま家に居た。そこには、すでに保護者印が押してあった…。

次の日、もうあの部屋には近づくまいと心に決めていた。しかし食堂に行った時、あの部屋にいたメガネをかけたスポーツがりの男と目が合った。私は逃げた。必死に。ほかほかのカツ玉を捨てて。奴が追いかけてくる！こっちはだめだ。とっさに階段を上った。なんとか逃げ切ったと思っただけ。落ちて落ちてまわりを見た。しまった！罠だ！ここはあの部屋の前だ。後からはその男が来る。追いつめられた。



奴はこう言った。「その手に持っているのは何ですか？」とっさに私は手に持っていたものを渡した。それは、昨日もらった入部申込用紙であった。私は理研に入ってしまったらしかった。

ひらきなおった。そう、私はひらきなおったのである。クラブに入ったからには、活動をしようというわけである。放課後、私は化学実験室にある部屋へと足を向けた。やはりこの部屋からは、ただならぬオーラとあやしげな雰囲気が出てくる。勇気を出して、中へと足を踏み入れた。そこではパソコンが「サッポロ一番」の曲を奏で、側では雑談をしながらあやしげな実験が行われていた。私はパソコンの所を見学することにした。そこでは、「セイロガン」や「ミルキー」などの曲が鳴っていた。いったいなんだ、これも、私はちよっと、ここからはなれることにした。するともう5時になっている。クラブに来ていると時間が経つのが速い。あっという間に私の理研での初めの一日は終わってしまった。

次の日も、また次の日もクラブに行っているうちに、クラスの友人に変な扱いをされるようになっていたのだが、それも気にならなくなってしまうほど私は理研にどっぷりはまっていた。なんだかんだいっているうちに夏休みになり、合宿へ行ってこのクラブの本当の姿を見てしまった私は、もう理研がやみつぎになっていた。もう理研をやめられなくなってしまうていた。

二学期もまた毎日、あやしげに活動をしていた。そして

C君：「リレーよりおまえの方が大事なんだぞ！おまえがいきなきや、おれたちはどうなるんだよ！」

A君：「………すまん。」

班長：「もう、いいじゃないか。A、コンクールでは、

今日の分もがんばってくれたまえ。みんな、御苦労だった。」

そう言い残して去って行く班長の背中には、無念さを無理に隠そうとする努力の跡が見られた。だが、それは、決して嫌味なものではなく、さわやかな姿であった。

こういう熱い絆があったからこそ、関西合唱コンクールで、銀賞に輝いたのである。コーラスとは、マイナーな部分を持ち合っていることは否定できない。だが、一つの歌、音にみんなの心が集まってく……これほど素晴らしいものはない。確かに、堅苦しい、取りつかれたようなイメージがあるし、現にそういうサタンのような人もいるかもしれない。しかし、我がコーラス班は、そんなイメージをぶちこわすような人間の集まりである（例外もいるが）。例えば、泥に喜んで体操服のまま飛び込んだ人、コンクール前日に問題行動を起こす人、数十人の女子にデートを申し込んで全て断われた人。女のうわさの絶えない人、数えればきりが無い。とにかく、笑いの絶えない、変なことに関しては、つわものぞろいだ。歌の上手下手より、歌への情熱をほくらは求めている！



VOLLEYBALL

男子排球部物語

男子バレーボール部

櫻木がレシーブしたボールは、谷口に正確にトスされて、弧を描きながらネットに平行に向かう。同時に助走をきった俺は、相手チームの二枚のブロックを軽くみながら、そのボールを力まかせに打ち放った。

「おおおおうりやあつ」

俺のパワーアタックは、鈍い音と共に二枚ブロックを弾きとばし、相手コートにつきささった。燃えあがった心を誰もとめられやしない。拳を軽く固めた。

ここは四条畷高校二部予選会場。天王寺、茨木東、四条畷、大手前の四校が一部を指して闘っている。四条畷と大手前は共に二勝ずつあげており、この試合に勝てば憧れの一部昇格が現実となるのだ。決して負けることはできない。一セット目は大手前が前半から抜け出て取ることができた。しかし二セット目は四条畷も後がないから必死にボールを拾って返し苦戦している。

相手のサーブが俺に向かってくる。素速く落点に身構えてサーブレシーブ、快い振動が腕を貫きボールは谷口へと向かう。同時に井上がネットに走り寄る。ネット際でジャンプしたのと同時に谷口のクイックトスがふうわりと宙に浮く。次の瞬間、ドォーン……という音が相手コートを貫き、打たれたボールは高く弾んでいる。四条畷のレシー

バーもさすがに目を丸くした様子だ。さらに清水のアタックが決まり流れはこちらにあった。しかし、相手もこちらのミスから勢いづき、点を重ねて大手前と並んでしまった。ヤバイ、雰囲気が悪くなっている。ヤバイ、ヤバイとみんな思いながら点を重ねられる。

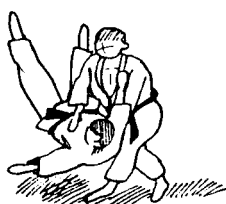
ふと夏休みのことを思い出した。夏休みの練習は暑さとの闘いだ。少なくて四時間、多くて八時間、熱気のこもった体育館で跳ねたり、走ったり、すべったりする。じっとしていても汗がにじみ出る8月、30分もすればTシャツは汗ですっかり濡れてしまう。時間とともにだんだんきつくなってくる。のどもかわいてくる。でもここで腰をおとして座りこまなかったのは少しでもゲームに勝てる力をつけようと思ったからだ。その夏休みの最大の目標、府立高校大会は予選を勝ち抜いたものの、本選では守口市民体育館の雰囲気のにまれ、ベスト32で散ってしまった。くやしかった。そのくやしさをこの試合でも又味わうのか。とあきらめかけていた。そういう雰囲気の中、谷口はツーアタックを決めてくれた。

「このセツとろうぜ！」

谷口の声が会場に響いた。みんなの目が変わった。前衛にあがった濱頭の速攻、ブロックがおもしろいようにきまる。足を痛めて調子の悪かった櫻木のスパイクも決まった。もう押せ押せムードだ。

「OK! OK!」と両手をあげながら高塚先生も興奮気味だ。14点をとった後、主審の笛の後、櫻木の打ったサーブ

道



柔

にレシーブが乱れる。——チャンスだ——アタックフォーメーションに移る。しかしあせっていた四条畷のアタッカーのかえしの球はネットにつきささった。「ピー」試合終了の笛。みんな喜びではちきれそうだ。高塚先生と握手を交わした後、バレーをやっていたよかったと実感した。ただ少し不満なのは俺のアタックが決勝点にならないことだった。

題して "THE・YAWARA"

柔道部

トリヤー……ヨイショ……ファイト……と小競技場の奥の方から、叫び声が響いてくる。(だが、剣道部ではない。)そうです。あの偉大なる大手前高校柔道部であります。まあ、今日もいつものようにマンネリ化したvery楽しい(?)練習が続いています。さてその中を覗いてみますと……やっています。やっています。オッあれは、A先輩とB先輩が、乱取りをしています。お二人は、いつ見ても様になってます。オー流石です。また華麗に「一本」をお取りになりました。他のメンバーは?というと、その隣りで寝技をしています。(アッコレコレ、そこのお方。下で休んで

る場合じゃないでしょ！」気づいたようです。また始めました。ところで、そろそろ本題に入りませう。…ある放課後、この日も例外でなく練習は続けられていました。試合前ということもあって、部員全員が一丸となって、それぞれの目標に向かって、頑張っていました。来る日も来る日も、体力づくりの基礎練から、立ち技・寝技を何とか自分のものに習得できるように…と。こんなに練習して絶対勝たなければならぬ理由がありました。それは、「自分の目標」というもののほかに、三年生の最後の試合だったからです。だから何としてでも、この試合に勝って、中央大会に行くという志があったのです。そして何もかもが、順調に、運んでいたのです。

「これなら勝てる」と誰もが思いました。ところが、何とも不運なことに、試合に出場するはずであった部員が、大怪我をしてしまいました。これは我がクラブにとって大事件でもありました。みんなは、口にごそ出しませんでしたが、心の中では、悔しきで一杯だったはずです。しかし、このことから、ますます全員の気持ちが燃えさかり、意気投合したのです。

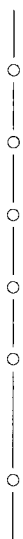
さて、いよいよ試合当日になりました。会場では既に打ち込みや投げ込みをしている学校が沢山ありました。そこは、「戦場」と化していました。しかし、我が校も気合いでは負けていません。

そして、第一試合が始まりました。何と地区大会でベスト8に入る強敵との対戦でした。結果は、少差ではありま



したが勝って第二回戦です。第一試合で強敵に勝って波に乗り始めた我が校は第二試合・第三試合と勝ち進み、いよいよシードされているK高校とあたったのです。流石にK高校は、他の高校と比べものにならない程、強いものでした。しかし、こちらも気合いと波に乗っていることから、接戦になっていました。もしかしたら勝てるかも…と思わせる場面も、多々ありましたが、やはり相手は大きすぎる壁でした。今までの力もここまでか、と思わせたのもつかの間。どうでしょう。この猛攻撃は！ 少しずつだけれど、この大きな壁を打ち砕き始めました。まるで「ベルリンの壁」のように。そして次の瞬間、我が校は、中央大会への切符を手にしたのでした。…（これはあくまでも、フィクションであることをお忘れなく！）

さて、どうでしょう。この見事なまでのスポ根柔道物語は…。今までの印象とは、少し違った見方ができたのでは？ もしこれで柔道というスポーツに少しでも興味を持てた人、その人は既に柔道部への道が開かれています。



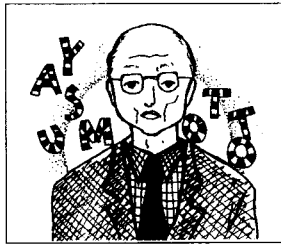
初企画の「クラブ物語」、皆さん楽しんで頂けましたか？ これらのクラブの素顔を、少しでも垣間見て頂けたことと思います。もっと知りたい方は入部、又は見学して、本性を探って楽しんで下さい(笑)。

先生紹介

紹介内容……①生年月日②前任校・担当教科③チャームポイント

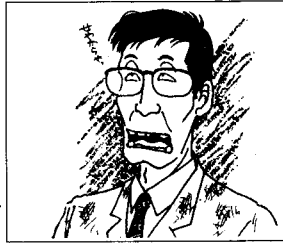
- ④趣味⑤教師になられたきっかけ
- ⑥大手前に来られてからの失敗談など
- ⑦大手前について思うこと

安本 毅先生



- ①昭和十三年六月十二日②府立旭高校・英語③年令の割に熱情的になれることかな。
- ④水泳、ダイビング、タイ国文化
- ⑤父母が教師であったこと、教育に関係した仕事があった。
- ⑥眼鏡の調整不足で、時々失敗があります。
- ⑦生徒のみなさんの表情が明るく、何かしら内面からの力を表現していると思います。これは生徒の一人一人が学習活動や学校生活に対してひたむきな姿勢を持って取組んでいるからだと思います。明るさ・一途さ・ひたむきさ、これらは最も大切な高校生の資質だと確信しています。大手前高校生という立場を正しく自覚し、それぞれの生徒諸君がその自覚にふさわしい責任をもって、どこまでも大手前高校生としての生き方を、在校生も、卒業生も、徹底していただきたいと願っています。

横田 耕二先生



- ①昭和二十五年七月二日（金閣寺炎上の日）②府立守口北高校・物理③私の全てです。自明のことです。愚問ですね。
- ④全てにとは言えませんが浅く広く。テニス、スキー、将棋 etc.
- ⑤「初心忘るべからず」等と世間では良く言いますが、忘れるからこそ新たな見方ができ、世界も開けることもある。……これは忘れてしまったことへの言い訳です。⑥あろうはずがありません。
- ⑦色々なタイプの生徒がいるのはどの学校でも同じで、一概には言いにくいのですが、一般的には勉強も部活動もほどほどにやっている生徒が多いと思います。しかし、それに比べて精神面では少し問題があると思います。目先の利害損得に動かされたり、感謝の心をもたない生徒が散見されます。科学・技術と運動競技記録の進歩はあっても、精神文化の進歩がない人類全体の動きと軌を一にしているのでしょうか？

中川 欽吾先生



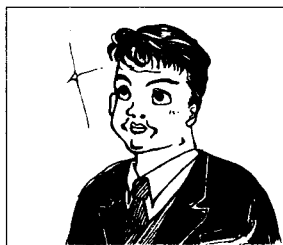
①昭和二十六年十一月十一日②住吉高校
数学③誰か見付けて下さい。④写真
⑤機械相手の仕事より、人間相手の仕事の方が性に合っていると思います、後は消去法で。
⑥内緒。⑦学校生活は、勉強は当然の事、文化面、スポーツ、学校行事等、色々な事に力を注ぎ充実したものにしなければなりません、やはりすべて勉強をきっちりした上での事。そんな当り前の事が本当に当り前に通っている学校だと思います。

根来 理典先生



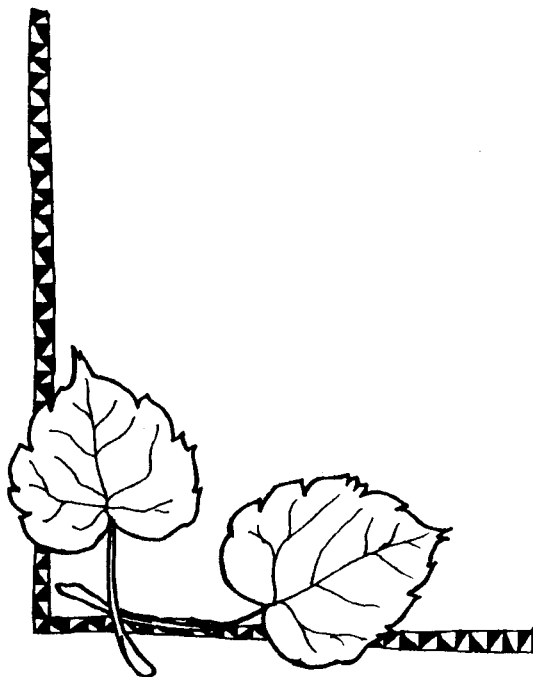
①昭和二十九年十一月二十四日②府立阪南高校・保健体育③蘇る野生④何でも趣味にしてみようこと。⑤高校三年生の時、出身校の先生を見ていて、自分のしたいことをする時間や機会を得るのに最適の職業だと考えた。⑥満員電車での通勤は初めてだったので、この激しさはトレーニングに良いと思って積極的に参加していたら、周囲から白い目で見られたこと。⑦世界の大阪、そして新府庁の建設。この環境の中で21世紀の高校をイメージして発展して欲しい。

吉澤 久良先生



①昭和三十年十一月十二日②長野高校・国語③明るさ④読書⑤人ときあう仕事があったこと。一つの歯車としてではなくさしかえのきかない、個性を持った一個人であることを実感できる仕事があったから。⑥たぶん山ほどあるだろうけれど、自分では気がついていない。

⑦覇気がない。まじめだけではもの足りない。もっと好奇心と冒険心を持ってもいいのではないか。ただ、いろんな可能性を持っている。そんな生徒も多くいて、楽しみにしている。



いはいはく…

旅の喜び

社会科 桜井 洋

私が高校生の時、素晴らしい授業をする古典の先生がいた。授業を聞いていると、その先生が教材である古典の世界にひたきっていることがじかに伝わってくるのである。そして、その先生の感動をいつのまにか共有してしまう。そんなことがしょっちゅうであった。その先生がこんなことを言われた。「みなさん、大学へ入ったらおおいに旅をしましょう。大学というところは一年間の半分ぐらいは休みです。旅ほど楽しいものはありませんよ。私は学生時代にはずいぶん旅をしました。今では一年に二回ぐらいしか旅ができないうのがつらいです。」旅がどうして楽しいのか、どんなところが楽しいのか、その先生は言われなかったが、尊敬する先生の言われることなので私は無条件で信じることにした。

大学に入学したあと、私は大学院に進学することを当初は考えていたにもかかわらず、混声合唱団と「昼休みスポーツ同好会」の二つのクラブに入り、アルバイトをし、旅行をするというむちやをやった。長期休暇に入るとクラブ活動の合間をぬって、というよりもそれをサボりながら私は旅をした。そのころの日本は高度経済成長期の終りごろで、公害問題や都市問題が激化しながらも消費生活

水準はかなり向上しつつあった。学生も「苦学生」らしき者は非常に少なかった。学生の楽しみも「酒を飲み、議論をする」ことに集中していた時代は終りをづけ、実にさまざまなものに広がりはじめていた。旅行もそのうちのひとつで、旅をする若者が増えていた。とはいっても、今の大学生に比べると授業料こそ安かったが、アルバイトの賃金も安く親の援助も少なかったのでまだ貧しく、海外旅行をする者はほとんどいなかった。なによりも一ドル≡三六〇円の時代である。学生達はリュックを背負い、ジーンズ姿で国内のユースホステルを泊まり歩いた。もっと金の無い者は寝袋で駅に寝た。手には国鉄の周遊券がにぎられていた。学生割引はもう五割ではなく二割になっていたが、国鉄運賃は飛行機に比べて今よりずいぶん安かった。リュックを背負うと列車のなかでは前向きに歩けず、横向きに歩いた。我々は「カニ族」と呼ばれた。

私は四年間に百数十泊の旅をしたが、旅をするうちに旅の楽しみがどこにあるのかが、だんだんとわかってきた。それはまず第一に広い意味での自然とのふれあいにある。思えば深いものをいくつかひろいだしてみよう。北海道の利尻島の夜間登山……利尻島はコニーデ型の利尻山が海からつきでた島である。途中で下を見下ろすと、海岸添いの道路の街灯がまるでダイヤをつなぎあわせたブレスレットのようにチラチラと光っていた。私はその時「本物の宝石よりも美しい」と、本物の宝石を手にしたことも無いくせに感動してしまった。明け方近く頂上につき、まぶしい朝日のなかでユースの仲間と記念写真を取り、すぐ下山。その日のうちにユースで自転車借りて名古屋の大学生と二人で島を一周した。よく晴れた海や山の姿は、昨夜見たものと同じものとは思えないほどまぶしく輝いて

見えた。礼文島でのハイキング……利尻島の向かいにある島である。木があまり茂っていない短い草ばかりの島で、エキゾチックな雰囲気であった。バス停にあった店で飲んだ「最北端牛乳」というブランドのビン入り牛乳がホモゲナイズされていず、クリームが浮かんでいたのも感激だった。「本物」を飲んだような気がしたのである。沖縄県西表島の密林横断……ハブには襲われなかったが蛭は大量に出てきて我々の足首にまとわりついた。とは言っても同行者全員に平等にまとわりつくのではなく、特定の人物が集中的にやられるのである。サンダルばきで無事な者もいるのに、厚手の靴下の上から血を吸われるものもある。「蛭も食物に好き嫌いがあるのか!」と変なことに感心したものだ。なお、私は無事だったほうのひとりである。秋田県男鹿半島でのサイクリング……岬のユースで自転車借り、八郎潟の干拓地までやってきた。干拓地は広い道路が南北に走っていたが舗装されていず、でこぼこがひどくて走りづらかった。稲が植えられべきところには背の高い雑草がいきおいよく茂っており、異様な風景だった。生産調整のため、水田化が途中で放棄されていたのである。八幡平の山歩き……ひとりでなだらかな傾斜をてくてく歩きながら「アスピーテ」を体で感じていた。いい気分だったが、途中から雨が降りだしポンチョ（登山用の雨具。リュックまですっぽりと覆える）をかぶった。たちまち体の熱がポンチョにこもって、汗がどんどんでてきた。日の暮れた後でユースについたが、そのときには全身が雨にぬれたようになっていた。

考えてみれば、ユース旅行の「制服」というべきリュックスタイルは歩くためのものなのである。なぜ歩くのか。自然とふれあうた

めである。「ユースホステルの歌」というのがあって、ユースで朝の時間によく流されているのだが、それは「山にひびくこだまの声よ、谷にせせらぐ小川の音よ」と自然を歌いこんでいる。六時ないし六時半起床という他の宿泊施設ではあまり考えられない規則も「歩くため」のものだったのである。

旅のもうひとつの楽しみは、人との出会いにある。何の利害関係もない旅の好きな人間どうしがユースでは顔をあわせる。旅の情報交換からはじまって、話題は多方面にわたり、友情が生まれる。ときには恋が芽生える（こともあるらしい）。ユースホステルの建物はその点非常によく考えた構造になっている。公営のユースが典型的なのだが、寝るところはたいがい「かいこだな」である。つまり二段ベッドで一部屋に八人つめこまれるのである。それに対して、食堂としても利用されるホールは天井も高くゆったりと広くつくっている。こうなると宿泊者（ホステラーという）は、よほど疲れている場合以外は、消灯までの時間を自分のせまいベッドのうえで過ごす、などということはない。ほとんどの者がホールへ出てきて談笑することになる。脱線になるが、「もしも私が、家をたてたら」（昔の流行り歌にこんな歌詞のものがあった）ユースホステルのような家がいい。広い、少なくとも二十畳はあるようなホール（居間）がほしい。あとは、台所と風呂場と便所と書庫を兼ねた物置とユースホステルのようなせまいベッドルームがあればいい。「子供部屋」はいらない。「書斎」もいらない。居間の大きなテーブルの上で皆が勉強したり仕事をしたりすればよい。そういう家が家族のふれあいを生み出すのではないだろうか。話をもとにもどそう。旅仲間との交流以外にも、人との出会い（ふれあい）はある。旅先

での、現地の人との出会いである。とりわけ外国では言葉が不自由なためか、いっそう人との出会いが印象深いものになる。私の初めての外国旅行は、一ドルが二四〇円ぐらいに「高く」なったときだった。私はそのときに教職についていたのだが、二部学生という資格で大阪市立大学とサンフランシスコ州立大学との学生交流に参加させていただき、四十日間主にサンフランシスコで滞在した。そのときにホームステイさせていただいた家の老夫婦には、ずいぶんお世話になった。六年前に大手前の社会科の先生方と台湾へ行ったときには、大川先生のお友達にいろいろお世話になった。そこまでのものでなくとも、印象にのこる出会いはいろいろある。昨年の春、私は家族と韓国を旅行した。民俗村（日本の明治村のような所）の見学を終えて定期バスを待っていると、酒に酔った老人が韓国語で話しかけてきた。残念ながらNHKの「ハングル講座」を二か月で落ちこぼれた私にはまったく意味がわからない。困っていると、近くにいた若い女性が通訳してくれた。聞くと彼女は大学で日本語を習っているのだそうだ。老人の言うことには、彼は日本にいたことがあるのだそうだ。韓国へもどってきたのは一九四五年だという。老人は一杯気分できげんよさそうにしやべり続けた。とつぜん通訳をしてくれていた女性が困ったような顔つきになり、通訳しにくくなった。老人がときどき「海軍」「工場」という日本語をつかう。老人の連れらしき老人や老婆が、我々家族の方を見やりながら、その老人に対して非難するような口調でなにか言っている。私は「その方は、日本に強制連行されて海軍の工場で働かされていたのですか。」ときこうとしたが、なぜか言葉が出なかった。

旅の楽しみの三つ目は、異なる文化にふれることにある。文化と

いうのもあいまいな言葉だが、人間の生き方のことと考えてもよいと思う。旅をすれば必ずなにか発見がある。私はサンフランシスコに滞在したときに、アメリカの豊かさについて誤解をしていたことに気が付いた。私はそれまでアメリカは「物質文明」の国であり、浪費の国だとももっていた。しかし、すくなくとも日本よりは「精神文化」を大切にしており、「個人主義」の国と言われているが、富の社会的部分が豊かなのである。有名なゴールデンゲイトパークをはじめとして、サンフランシスコには森林のような公園がいくつもあり、しかもそれは自然林を残したのではなくて、もともと木はえてなかったところに植林してつくりだしたという。その公園のひとつで、無料のミュージカルが上演されていた。募金箱が置いてあり、「あなたの寄付が上演をささえている」と書いてあった。私が見たのは、有名なウェストサイド・ストーリーだったが、こういう催しが定期的におこなわれているそうである。水族館は日本では最近できた須磨のものくらい立派だったし、プラネタリウムも歴史博物館もお金をかけてつくってあった。それに対して個人消費の面では衣も食も、日本人より豊かだとは思えなかった。肉をよく食べるのは、野菜の調理法をあまり知らないことと米のおいしさをしらないことが原因ではないかと思った。住宅はもちろん「まとも」だったが、庶民の住宅はヨーロッパでは社会資本と考えられることが多いそうだから、個人消費の比較対象からははずしたほうがいいかもしれない。アメリカで浪費だと思ったのは、多くの人が大きすぎる車にのっていたこと、（また脱線だが、日本の自動車税の区分によればセドリックなどは小型車になるそうだが、これはアメリカの区分をまねたものではないかと私は思っている）広い自動車道路が整

備されながらしばしば渋滞していたことくらいである。その車にいても運転マナーは日本よりはるかに良く、私が横断歩道に向かって立ち止まると、必ず停まってくれた。これと正反對だったのは台湾で、車が歩行車を追い散らして進んでいた。二十年ほど前の日本もあれに近かったような気がする。昨年韓国へ行ったとき、ガイドブックには「韓国は治安はいいので強盗にあつて命を落とすことはまれだが、車のマナーが悪いので交通事故には気を付けよう」と書いてあったが、実際には日本と大差なかった。オリンピックのときに政府がキャンペーンをしたのだろうか。それともガイドブックが書かれた時から数年のうちに豊かになって心にゆとりができたのだろうか。……自動車といえば、シベリアを旅行したとき、ハバロフスクやイルクーツクのメインストリートで車道より歩道が広いのには驚いた。そのことを言ってもある人は写真を見るまで信じなかった。ある人は「車が少ないからだろう」といった。しかし日本でまだ車が少なかったとき、歩道もまた少なかった。せまい道を車と人が一緒に使っていた。

最後に私の新婚旅行のことを書いておこう。行き先はサイパン島で、目的は珊瑚礁で熱帯魚と遊ぶことだった。アクアラングをかついで潜った珊瑚の海の中で、日本の一式陸攻（戦闘機）が沈んでいてそこが魚のすみかになっていた。その近くに残された米軍の戦車と、海岸に残された日本軍の戦車を見て、私は日本がアメリカに敗れた理由のひとつを実感した。そして貧弱な日本の戦車でさえ「これだけあれば乗用車が十台はできる」くらいの鉄を使っており、「戦争がいかに金のかかるものか」ということも実感した。また、現地のチャモロの人達は、ガイドブックに書いてあったとおり

親切だった。石油危機でガソリンが売られてないため、レンタカーも利用できず、てくてく歩いている私達を海辺まで連れていってくれたり、スコールにあいかけた私達を家に招き入れてくれた。彼らはたいいてい「すこし大きめの小屋」という感じの家に住んでおり、みんな車を持っていた。不思議なことに島のマーケットのどこにも新鮮な魚は売ってなかった。その代わりアメリカ製の魚の缶詰がならんでいた。農業もあまりおこなわれている様子 wasn't なかった。聞くと、土地は大部分米軍が占領したまま返還されていないのだそうだと、原住民たちは観光事業に雇われている者以外は、大部分が公務員をしているという。つまり、アメリカの援助で生活をしているのである。この島をアメリカが軍事基地として利用するために、独立できないように「金しぼり」にしているのである。このようなことも書物で読むより現地の一から聞くほうが印象が深くなる。

いろいろと、とりとめのないことを書いてしまった。これでも書きたいことのほんの一部しか書いていない。文章にまとまりがないのは、それくらい旅の魅力は多彩なものだというように理解していただきたい。若者よ、旅に出よう！

大切にしたいもの

理科 半井 庸子

みなさんには「大切にしたいもの」がありますか。幼い頃は、駄菓子屋で買ってつってもらった細かいものであったり、少し大きくなると将来の目標であったりするかもしれませんが、今の私の最も大切にしたいものは、「他の人とかかわり」と「楽しむ心」です。一見何の関係も無いように思える二つの項目ですが、この二つがどちらも、毎日の生活を楽しく生き生きとしたものにしてくれる潤滑油となつて、私を支えてくれています。

いたずらざかり、食べざかり、そしてすぐにじゃれ合いとも喧嘩ともつかないものを始める息子達を家に抱え、昼間は仕事、日曜日は少年野球の応援などという生活を続けていると、うまく走っている間はいいのですが、一度脱線でもしようものなら、どうやって復旧したらいいのか、私には皆目見当もつきません。方法は只一つ、とにかく脱線を避け、まがりなりにもレールの上におさまるようにしておくこと。そしてその為に、先程の二つの潤滑油が私にとって是不可欠なものとなっています。

十代の頃の私は、もちろんいつもそうだったわけではないのですが、幾分突っ張った性格の持ち主で、自分は一人で何でもやっていけると思うことがありました。高校時代のクラブ活動についても、人からなにかを強制されるのが嫌いだったり、たった一つしか年の合わない先輩に対して敬語を使い、一つ年下の後輩には敬語を使わせるのが、どうしても不自然に思えてなじめなかったりして、結局

どのクラブにも所属しませんでした。また、大学では同じ学科に女子が二人、学部全体でも七人だけで、こうなることは、受験するときからだいたひ予測できたのですが、たとえ女子がたった一人のクラスになつても、私は一人でやっていけると思っていました。

でも、人というのは、「生かされている」ものなのですね。まわりによつて「生かされている」、一人ではとても生きられない。多分、十代の頃までの私は、何も自分から働きかけなくても、自然に周りから保護されていて、それがあまりにも自然だったので、「生かされている」事には気付かず、自分は一人で生きて行けると、過信していたのだと思います。ところがだんだん、自分の思っていることは少し違うんじゃないかと感じるようになりました。まず、放課後クラブ活動をしている友達を見ると、とても羨ましくなるのです。こちらは、何にも束縛されず自由に放課後を過ごせる、そう思つて自分で選んだ無所属だったはずなのに、クラスの枠を越えて、それぞれのクラブで結ばれている友達の様子を間近に見て、人は一人でいるより複数で絆を持っている方が、楽しく、また力強くなれるのではと、思いました。そして、自分では嫌だったクラブ内でのルールや、時間の束縛も、そのクラブを存続させるためには無くしてはならないものであり、また、将来社会に出て、もっともっと広い人間関係の中でやって行く為のとても良い練習になっているのではと、思うようになりました。クラブについては、卒業後も何かに入っていれば良かったと思つたものです。

大学についても、自分のしたい事を専攻する為には、たとえ女子が一人きりのクラスとなつてしまつても、やっていけると思つて志願し入学しましたが、ここでもまた、人は「生かされている」人

だということを痛感しました。高校時代の私はどちらかというと恥ずかしがり屋で、男子とは必要なこと以外は話さないという生徒でしたので、大学に入っても急に性格を変える事などできず、一年生の頃は、朝学校に行ってから夕方帰るまで、クラスメートとは一言も口をきく機会のない日もありました。一人でも大学生活はやっていけると思ってた大学でしたが、一人というのは、少しも楽しくなく、そして進歩も少ないという事をつくづく感じました。私とは逆に、他の学部と他の学科に、男子が一人であとは全員女子という所もあったのですが、この人もいろいろな事を感じられたことと思います。

結局どんな人も、一人では生きられるはずがなく、皆が互いに絡み合って、助け合っているのが、私たちの住む世界。私にしても、今まで辛い時や悲しい時に、どれだけ他の人から助けられてきたか数え切れません。これからも、ほんの身近な所から、ずうっと広いところまで「他の人とのかわり」を大切にしていきたいと思っています。その為にも外国語や文化、歴史などをもっと勉強したいと思っています。いる今日この頃です。

もう一つ、私にとって無くすことのできない大切なものが「楽しむ心」です。言い換えれば「遊び心」、「面白いと思う心」、「積極的に自分からすすんでやって行こうと思う心」です。私たちはたいてい、いつでも自分からすすんでやりたい事と、義務としてしなくてはならない事を、どちらも、いくつかつ抱えて生活しています。自分からすすんでしたい事というのは、楽しくて、能率をあげて、どんどんしてしまえるものなのですが、義務のほうには嫌いなものも含まれ、嫌いだ、イヤだと思いがちになると、能率は悪いし、き

ちんとしたものはできないし、おまけに自分も疲れるので散々な目に会うことがあります。こういう義務を、どうせしなくてはならないのですから、「楽しむ心」を持ちながらやってみなければいいなあ、いつも思います。中学の頃の私は、化学が大好きで、将来は化学の方面に進みたいなどと考えていたのですが、高校に入ると、なんだか自信がなくなると、化学が嫌いになり、嫌いだと思うと勉強しなくなる、しなくなるとわからなくなる、わからなくなるとますます嫌いになるという悪循環に陥り、化学との関係が最悪になったこともあります。嫌いになるっていうのが一番よくないですね。化学に限らず、何でも自分から楽しい、好きだと思いうようにしていると、本当に不思議なのですが、そのうち無理に思い込まなくても、楽しんで調子よくそれをこなしている自分に気が驚くことがあります。どうせしなくてはならない事なら楽しく、そして一度しかない一生ならばこれも楽しく生きていきたいものですから、なるべく上手に自分の「楽しむ心」をひきだすこつを会得したいものです。

脳生理学の立場から見ても「楽しむ心」の大切さは証明できるようです。楽しいと感じると、脳内にドーパミンというホルモンが分泌されます。このドーパミンが、勉強のような抽象的なものを考える部位である前頭葉に働きかけ、やる気や、意欲をわかせるのです。授業中にも生徒のドーパミンをたくさん出すことができれば、その授業は成功したといえるのかもしれませんが、勉強にしても何にしても、楽しみながらすることをつかめればそれが一番効率的だといえるのですから、これは嬉しいことですよ。最も楽しんだ人が最も勉強しているなんて、とても素晴らしいと思いませんか。何ごとでも少しでも楽しく感じるようにいつでもここがけ、自身でも工夫し

て「楽しむ心」を持って能率よく効率的にやっていきたいものです。これからも「他の人とかかわり」と、「楽しむ心」を大切にしていって、毎日をこちよく過ごしていけたらと思っています。

最後に皆さんに、理科を楽しみながら考えていただくクイズを三つだします。何人かでいろいろと楽しみながら考えて答えをだしてみてください。

(一) 二つのガラス瓶にそれぞれ、食塩水と水道水が等量ずつ入っています。なめたりせずに見分けるには、どうすればよいでしょうか。

(二) 次の三つのロウソクの炎は、一体どういう状況の時にできるものでしょうか。



(三) 同じ形、同じ大きさの二つのコップを図①と②のような重ね方をした場合について、上のコップを持ち上げると、下のコップも上のコップにくっついたまま同時に持ち上げる事ができます。どういう方法が考えられますか。

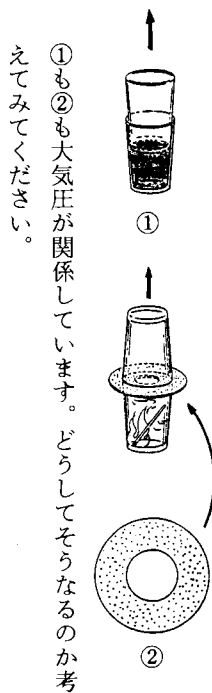


答え……答えは一例です。ほかの方法も考えてみてください。

(一) 冷凍庫に入れて凍らせてみてください。凝固点降下の実験になります。または、瓶を振って、泡のでき方や消え方を観察してみてください。

(一) ①ふつうのロウソクの炎です。②無重力状態で、燃焼の為の条件、酸素、高温、燃料（ここではロウソク）がそろえばできるであろうと予想されるロウソクの炎です。③いろいろな方法で細長くした時の炎です。空気不足になるとか、温度を下げるとか、炎の上端を減圧にするなどの方法が考えられます。

(二) ①コップに半分程水を入れ、この中にもう一つのからのコップを上から浮かすようにしてさしこみます。間に空気が入らないように注意しながら、余分の水を押し出します。こうしてから、上のコップを持ち上げると、下のコップもついて上がってきます。②二つのコップの間に、湿らせたドーナツ状の吸水紙（ろ過やペーパータオル等）数枚をはさみこみます。内部に発火したマッチを素早く入れて再度コップを重ね、火が消えても暫く二つのコップを押さえつけたままにしておきます。内部の温度が下がった頃に上のコップを持ち上げると下のコップもついて上がってきます。



①も②も大気圧が関係しています。どうしてそうなるのか考えてみてください。

さくら・めいる

英語科 岸 田 尚 子

小学校へ入学した日、桜の花が満開だった。着物を着た母親達が「きれいですなア。」と桜の花に見とれながら口々に言っていたのを、特に「そうだ」とも思わず聞いていたのを憶えている。親に連れられて吉野山へ花見に行った時も、大人達の浮かれぶりとは無縁なところで「大勢の人やなア。」と思っていた。中学の時も、大手前へ入学した時も桜の花が咲いていた。

大学へ入った時、同じ大手前の卒業生でありながら高校時代は話をしたことなかった中田雪子と同じクラスになった。物静かで控え目な彼女に自分にはないやさしさと芯の強さを感じ、彼女も又自分とは異質の私をおもしろく思ったのだろうか、雪子と私は急速に親しくなっていた。時々美術館や万葉の地を訪れたりしていた私達が春休みには山陰地方を旅行しようということで時刻表やガイドブックも買って二人で綿密に計画をねった。当時学生の間では安くて安全ということで人気のあったユースホステルの会員になり、それぞれのホステルに葉書を出して宿泊の予約をした。全部のホステルからOKの返事を貰ったところで雪子と私はそれぞれの家へ行き、二人で旅行することの許可を得ようとした。まず雪子が私の家へ来て二人とも責任をもった行動をとるから行かせて欲しいと頼み承諾を得た。今度は私が雪子の家へ行く番だった。京阪電車の中で彼女は「少しづつ言うてあるねんけどな、おじいちゃんもおばあちゃんもなかなかわかってくれへんねんわ。何しろ年いってやるやろ、

しゃあないとこあるねん。」と自分に言い聞かせるように話した。守口の駅で下りてしばらく歩くと畑が広がり、十分も行かないうちに彼女の家に着いた。大きな農家だった。広い土間を上った所でピカピカ光っている黒いピアノが何か不釣合な印象を与えた。「よう来とくれやしたな。いつも雪子がお世話になってま。」と頭の手拭いを取りながら雪子のおばあさんが顔を出した。「おばあちゃん、今、私がせんならんことない？」と雪子は大きな声でゆっくり尋ねる。「あらへん、ワテちょっと外へ行ってくるわ。ツリモトさん、ゆっくりしとくなはれや。」一年いってやるやろ。耳遠いねん」と彼女は弁解するように言った。「毎日テレビ見るのんが仕事で、何時になつたらどの番組見るかちゃんとノートにつけてやるねんよ。そのテーブルの上にあるからそれ見て。私今お茶入れるわ。」と彼女は流しの方へ下りていった。ノートには鉛筆でテレビの番組名と時間、チャンネルが書いてあるということだったがよく読めなかった。「ねえ、『ぴかとおしやでくいる』て何やの？」「ああ、それわからんやろなア。『ピカソおしやれクイズ』やねん。おじいちゃんもおばあちゃんも読む時はちゃんと読んでやるねんよ。」私はおじいちゃん達のノートを読んで涙が出るほど笑いころげた。「年いってやるかな、しゃあないねん」と彼女は何度も繰り返した。雪子は幼い時に母親を失った為母方の祖父母にひきとられて育てられたのだった。八十を越えていた彼女の祖父母はいつも家事に追いまわされている孫娘を不憫に思い少しでも慰めになればとピアノを買ったそうだった。「私ピアノなんてよう弾かんのにねえ。」お茶を入れたがら彼女は涙ぐんだ。「雪子、ちょっとタキはんとこへ行ってきてんか」「はい、今すぐ行くわ。辻本さんちょっと待っててな。」彼女が出かけた

後、それ迄彼女が坐っていた座布団におばあさんが腰を下ろした。

「ツリ・モトさん、いつも仲良うしてもらてありがとうございます。」

あんさんのこと雪子から毎日聞いてますねんで。ほんまにおおきに。あの子はやさしい子やから若い娘やいうのに遊びにも行かんと毎日学校がすんだらとんで帰って来て家のことしてくれますねん。可哀想に。嫁に行ったら嫌でもせんならんことを中学の時も、高校の時もずーっとしてきて、他人様みたいに浮かれることのあらへん子です。どうか今度の旅行、よろしゅう頼みます。」私がいつ話そうかと思っていた旅行のことをおばあさんの方から言い出された。

雪の山陰路を学校の監督からも、親の庇護からも離れて十日余り旅した後、当時はやりのハーフサイズカメラで撮った写真を持って雪子の家を訪れた。もう春休みも終りかけていた。雪子はつかいにしかけたとかで広い家にはおばあさんが一人留守番をしていた。私がひろげて見せる写真の一枚一枚に「これが鳥取の砂丘だったか？」とか「へえー、大きな岩でんな」と大声で言ったり、笑ったりしながら半時間ほど過ごした。帰ってきた雪子と私が二階へ上り、写真を交換し整理し終えそろそろ帰らねばと言うと、彼女は大声で「おばあちゃん、私、辻本さんを駅迄送っていつてくるわ。帰りに何か買物してどうか？」と下へ向って叫んだ。「雪子、ちょっとツリ・モトさんに待ってもらうてんか」と答えておばあさんが外へ出て行く音がした。ほんの二、三分でおばあさんが再び土間に現われた。小さくしぼんだ体に、大きな桜の枝を腕一杯に抱えて私の前に立った。「ツリ・モトさん、あんさんに持って帰ってもらおう思うておじいさんに切ってもらいましたんや。荷物になりますやろけどなア。」おばあさんの胸に抱かれた桜は小学校の運動場で見た桜とも、吉野山

で見た一面の桜とも違っていた。凜として美しく、優しかった。「ごめんな、悪いけどもろて帰ったって。年いってるからなア、かんにんな。」雪子は駅迄歩く間しきりに謝まった。夕方の少し混み始めた電車の中で、大きな桜を抱えた私は皆の視線を感じながら、それでも私の為に切って下さった桜の花が嬉しく、誇らしかった。

それからどうするか私の桜に対する思いは変わったように思う。春になると一人で家の近所の桜並木を歩きに行ったり、大阪城の桜を見に行ったりするようになった。満開の桜の花を、それも目の高さで間近に見ると、どんな時にも年老いた祖母を思いやった雪子と、そんな孫を不憫に思いながらも頼りにし、愛していたおばあさんの優しさが思い出される。

ひびく

保健体育科 庭野孝夫

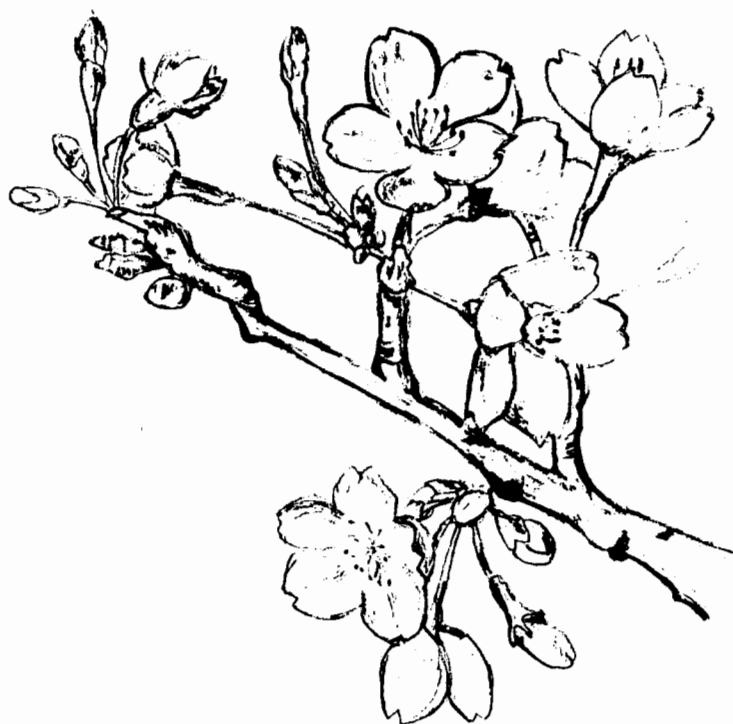
平成二年、一九九〇年を迎え、おめでとうございます。さて「一年の計は元旦にあり」と申します。一年三百六十五日、「この一年自分はどうに生きようか」という志なくして新年のスタートは切れません。道元禅師はそのことを「初発心」と言われました。すなわち志が正しくないと、どんなに努力してもしても全て無駄になってしまうというお訓えです。最初の一步を間違えると、とんでもない方向へ行ってしまうという意味です。心身を潔めて、今年一年美しく清く生きようではありませんか。

時代も二十一世紀へあと十年、「二十一世紀」と名のつくものをあちこちで耳にします。また、「世紀末現象」といわれる、現代の異常な一面も見られます。いずれにしても、この十年のさまざまな面における変化は、おおよそ想像のつかないような気がします。我々は、十年一昔といいますが、今日の十年は、以前の何倍もの意味を持っているような気がします。

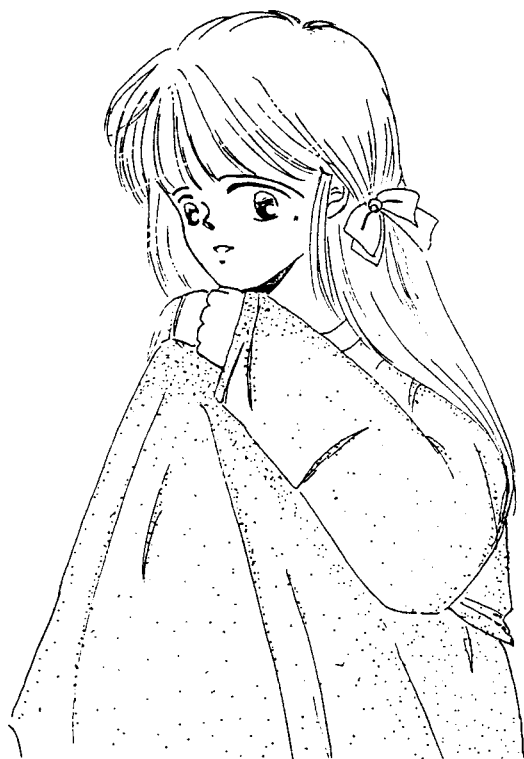
国際社会も、東西陣営の凍りついた対立は、春の日射しに溶け始め、その雪解けの水は、ベルリンの壁を破って流れ始めています。あと「十年」後に向け諸君は、国際感覚を身に付けて欲しいものです。

その為にも「初発心」の気持を常に持続し、世界に尽くせる日本人、国際人に成長することを期待します。

※編集部注 庭野先生には一九九〇年一月に原稿を依頼しました。



読み物



伝統の敗北

コンスタンティノポリスの陥落

大手前純情派

大帝国の、長い歴史に支えられた偉大な伝統も、新しい勢いには全く歯がたたなかった。

一四五三年、歴史用語で「ビザンティン帝国」と呼ばれたローマ帝国は、五月二十九日にコンスタンティノポリスの陥落をもって、その長い歴史に終止符をうった。(実は分家にあたるトレビゾンド帝国が一四六一年まで生き延びるが、ここでは触れない) オクタビアヌスが元首を名乗ってから約千五百年、建国からざっと二千二百年という、まさに、「永遠の帝国」であった。

だから、コンスタンティノポリスの陥落を聞いた西ヨーロッパの人々が信じようとしなかったとしても不思議ではない。さらに、ローマ帝国は彼らにとって全ての源であった。コンスタンティノポリスの正教会とは仲が悪かったローマ教会も、陥落寸前にギリシャ正教との合同を決め、コンスタンティノポリス救援に向かおうとしている。(実際は決議直後にコンスタンティノポリスが占領され、実現はしていない) さらにローマ帝国を滅ぼしたオスマン＝トルコの皇帝マホメット二世が死んだときには、花火を打ち上げ、盛大な祭りを行っている。

滅亡の危機に頻してからも、なかなかローマ帝国は滅びなかった。十二世紀以降はいつ滅亡してもおかしくなかった。なのに滅びなかった。このことが、西ヨーロッパの人々に、一層「永遠の帝国」の意識を高めたのかもしれない。だから、衝撃はあまりにも大き

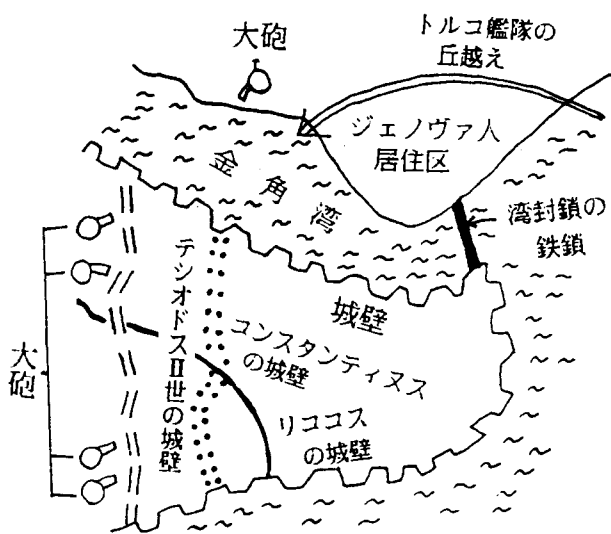
かった。叙事詩が盛んに書かれたのも、そのためであろう。

ここで、大まかにコンスタンティノポリス攻略を、塩野七生安史の『コンスタンティノープルの陥落』に従って少し書いておく。

四月十二日にオスマン＝トルコの大砲が火をふき、戦闘は始まった。従来の不落の城壁に加え、海上からの攻撃に備え金角湾を封鎖し守りを固めるローマ帝国側に対し、世界初の実用化に踏み切った大砲を備え、二十万近くの大军を擁するオスマン＝トルコ軍。このぶつかりあいは、砲撃をあげて城壁を崩し、そしてその崩れたところを修理するということの繰り返しであった。戦いの展開はまず海戦であった。四月二十日の海戦で、四隻のローマ帝国船に二百隻以上のトルコ艦隊が戦いを挑み、なんとローマ側が勝ったのだった。しかし二十二日、なんとトルコ船が人力で丘越えを敢行、金角湾入りに成功する。二十八日にはローマ側の夜襲が敵に漏れ失敗した。五月七日にはトルコの二度目の総攻撃（一度目は失敗）が行われたが、トルコ軍は多数の死者を出し失敗、三度目が十一日に行われたがこれも失敗する。しかし、ローマ側の死者は多く、総勢が少ない分ダメージは大きかった。さらに十六日にはトルコ側が地雷を使った作戦に出るがローマ側の逆探知が成功、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五日にも同じ作戦はローマの逆探知により防がれた。しかしこの間にも大砲は鳴りやまず、十八日には移動式の塔も登場した。そして二十九日、第四回の総攻撃が行われ、ついにコンスタンティノポリスは陥落する。ヴェネツィアの援軍が着いたのは五日後のこと。しかし、本当はこの援軍は二十日にコンスタンティノポリスに着くように命令されていたのである。これが命令通り到着し、連合軍がトルコと戦っているうちに、ローマ教皇の差し向けた援軍

が来ていたら……としてはいけない想像をしてしまう。

当時の市民はよく知っていた、帝国は道路一つ整備する力もないことを。まして水道の整備など不可能だった。仲間のほとんどがこの都市を出てしまった。確かに人口百万、水道完備の頃とは領土も格段に違っているし、何よりも勢いが違っていた。彼らは、ローマ帝国が減じることを感じとっていたに違いない。それを嘆く気持ちもあったかもしれない。いや、あつたに違いないだろうが、彼らは宗教を持っていた。それはローマ帝国と一体のものであった。だから、彼らローマはたとえ滅びてもそれは形のうえのことであつて、彼らが正教を捨てない限り、心の中ではローマは永遠に存在すると確信していたのだろう。ローマ＝正教なのである。だからコンスタ



「伝統の敗北」参考地図

ンティノポリスが異教徒に押しつぶされたとき、人々は聖ソフィア大聖堂に集い、抵抗もせずに縄でつながれていたという。

ときの皇帝コンスタンティヌス十一世(『コンスタンティノール千年(渡辺金一)』では「コンスタンティヌス十二世」となっている)はどう思っただろうか。二千二百年以上も存在し続けた国が自分の代で絶えてしまうかも知れない。皇帝といえども、政治的利害を越えて純粹に国を、そして国を支える国民を(この国では帝国とはいいいながら、かなり大部分を直接民主政で運営してきたところがある)守りたいと思ったであろう。そして、文化程度の高い誇り高きローマ文化を、異教の、しかも文化程度の低いトルコ帝国から守るために必死に抵抗を試み、兵を集めていった。この場面が『コンスタンティノールの陥落』にはよく書かれている。皇帝は、側近のフランゼスに極秘に戦力調査を命ずる。——フランゼスは腹心の部下を使って、夜も眠れないほどの困難な仕事を、短期日の間に、しかも秘密裡に完成した。そして、その一覧表を持って皇宮に行き、皇帝に提出したのである。皇帝はひととおり読み終わった後、深い苦悩と悲哀に満ちた眼差しをフランゼスに向けたまま、しばらくは言葉もないようだった。栄光に輝く東ローマ帝国の首都コンスタンティノールで、戦闘可能な体力と戦闘可能な武器と武器を持つ成年男子の数がなんと四千七百七十三人でしかなかったからである。

百万人の人口を抱え、世界初の都市問題を引き起こしたときえいわれたこの都市で、ローマ帝国の伝統を脈々と受け継ぎ、発展させてきた誇り高きこの国家で、兵士になれる市民が五千人にも満たなかったのである。従来の常識からすると信じられない。いや、衰えたということを考え合わせても、思いも及ばない数字であった。つ

い何年前までは少なくとも十万人はいるといわれていたのである。それに対するトルコ軍が二十万。帝国の雇った庸兵を加えても七千対二十万。「深い苦悩と悲哀に満ちた眼差し」を皇帝が側近に向けたとしても不思議ではないだろう。滅亡とは、その時点の常識からすると信じられないことが次々と起こることであり、従って、従来の常識では手が打てないような事態にまで至ってしまうことなのである。コンスタンティヌス十一世はこの時、おそらくこのことははっきりと悟ったのであり、そしてこの「勢い」は、誰にも止められないことを感じてとっていたのだろう。二千二百年という長い長い歴史が育んできた「伝統」も、この滅亡への「勢い」にも、オスマン||トルコがもつ「勢い」にも全く歯が立たなかったのである。「伝統」は必死に守り抜く兵士たちを奮い立たせこそすれ、「勢い」をもつオスマン||トルコの兵士たちには何の脅威も与えなかったのである。相手に脅威を与えるには、一発の大砲の方がはるかに効果的だったのだ。また、「伝統」は崩れゆく常識に何の助言も与えはしなかった。ただ「伝統」自らが常識が取り除かれて、中身の無いものになってゆくのを黙って見過ごすはかなかったのである。

かくして、二千二百年の「伝統」が「勢い」の前に倒れ、代わって新しい「伝統」が築かれていったのであった。この「伝統」が「勢い」の後に後退につぐ後退を迫られるようになるのが、それから四百年後のことである。

追記 「直接民主政で帝国が運営されていた」とあるが、世界史のテストでこのまま書くと、誤りになるので、(まだ詳細が分からないため)教科書通り「東方的専制君主政」と書くことに。

To the world for grown-ups

月貴 ゆな

ある日 夢を見た：

鏡の向こうに泣いている少女の姿を：

ある日声を聞いた：

しゃくりあげる声を：救いを求める叫びを：

何もできないで 何もつかめないで

何もわからずにいる自分の姿だった：

いつから人は大人になるんだろう：

何もわからずに その世界にはいる 心を無にして：

そうなりたくない だから叫んでいたんだ！！

ある日 鏡を見た：

澄んだ瞳を ほほえんでいる瞳を：

すぎとおる 無限広がる宇宙^{そら}のように

自由にとぶ 鳥のように：

夢を忘れないで 生きていきたい：



埴輪からの大脱走

豊田 豊

頭が大きくて、二等身、いやドラえもんじゃなくて、そう宇宙人です。まあ、よく来ること。地球も立派な観光地になりました。(地球饅頭でも売って儲けよう)

まあ、それにしても宇宙人のスタイルは不気味ですね。「あのう、花月の新喜劇は何処ですか。」と突然尋ねられたら、ショック死です。

しかし、私はこう思うのです。

「私たちも遠い未来、あのような姿になるのでは。」理由はあります。彼らの科学力は非常に水準が高い。地球人が頑張つて、火星に有人飛行ができるかどうかのに、彼らはまるでローソンに買物に行くかのように、遠い星からやって来るのです。彼らの乗り物は円盤です。高速で飛行し、小回りも利くなどすばらしい乗り物です。一見地球上の乗り物と縁がないように思えますが、磁気の反発力を利用してリニアモーターカーはどうでしょう。人類は内燃機関から電機科学機関へと技術革新によって発展させてきました。これからの技術の発展は続くはず。そして私たちも宇宙人さんのような円盤をつくりあげて、バンザイした時、あのような姿になっていると思うのです。現に私たちの頭は原始人のと比べると大きくなったではありませんか。ライト兄弟が飛んだ空を、ごく普通にジェット機が飛ぶまで、長い年月がかかったように、人類が円盤に乗るまでは又、長い年月が必要です。そう、長い年月が必要なので

す。(逆に、宇宙人さんも昔乗っていたと推測できる。セスナ機に) “人類は二十一世紀までに滅びるのじゃあ。” ノストラダムスというおじさんが言い残した予言です。私はこう思うのです。“あたるのでは。” 理由はあります。人口の増えすぎ、森林開発、CO₂による地球の温暖化、酸性雨、オゾン層破壊による諸問題等。そう、人類はすでに自爆ボタンを押したのです、数多くの。さあ、どうする。

答えは簡単です。自爆装置のコードを切るのです。人類全員が事態を理解し協力す……。ダメです。人類は終わりです。ああ、円盤に乗りたかったなあ。

私は人類が自然破壊をすると同時に、人間そのものを破壊していると思うのです。目先の利益を追うことに一生懸命な人達が、協力なんてしてくれないと思います。それに最近のなんやかんや言っても現段階に満足して前に進もうとしない人達。自爆装置を止めてやろうと思っている人はいるのでしょうか。特に日本。おもわず悲観的になってしまいましたが、よく考えると、宇宙人さんも私たちと同じような危機に直面したはず。同じような危機に直面したはず。

彼らと同じ宇宙の住民である私達が、笑いながら滅びてよいのでしょうか。私たちも高等生物です。宇宙人さんにできて私達にできないことはないと思うのです。それには、やはり技術(社会的・経済的・政治的・精神的を含む)革新です。技術を発展させて上手におのおのの自爆装置を解体していくのです。(自動車の無煙化↓電気自動車↓公害を緩和)

現段階、日本は技術の発展のスピードでは世界一です。人類を救うのは日本です。いちちはやく問題を解決するためには、日本が努力

しなければなりません。

そうです。世界の人々が事態を理解したうえで協力し、私達日本人が前向きな技術で道を切り開いていくのです。

とは言っても日本人は金の亡者です。そう地球にとって魔物的存在であり、現在のところ人類の敵と見なされても仕方のない動物の集団です。

日本人の特徴は“礼儀正しく、感情を表にせず、落ち着いた民族”です。外国ではこう思われていますが、どうでしょう実際は。

“形式的に人と接し感情を表さず、中身の無いブライドの高い民族”と言うのが本当ではないでしょうか。大人は怪訝な顔つきで、子どもは口をぽかんと開けたまま、アスファルトの上を流れていく。毎日が会社・学校と家との往復で……。憂鬱ですね。

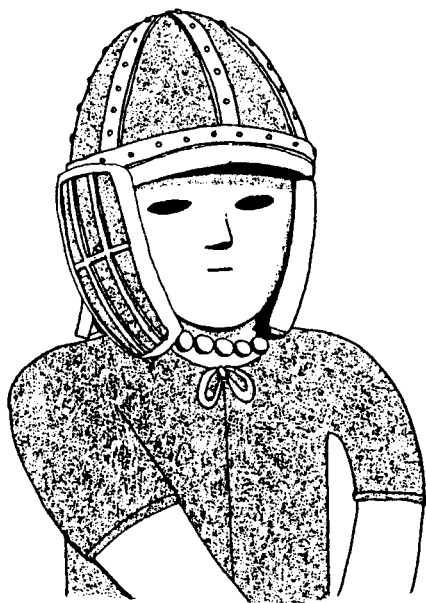
それも右へならえで落ち着く人形のような集団、GW・夏休み、行く所は皆一緒、交通渋滞で苦しみ目的地でくるしむ。それでもこりずに毎年行く人たちもいる。

そもそも、日本人は非常に流されやすい。明治初期、戦後と日本の文化を捨ててまで向こうの文化を取り入れようとした。それも善し悪しの識別もせずに。これが“外国、ありがたや”につながったのでしょうか。

向こうは大陸の文化、それをちっぽけな島国日本に押し込むなんて無理なのです。

紳士のスポーツだったゴルフがブームです。自然を破壊してどこが紳士なのでしょう。昔は高貴なスポーツでしたが、地球の人口と森林面積のアンバランスな現在では決して高貴ではないのです。結論として、人類の成長は終わったのではないのです。これから

も積み上げるべきなのです。周りを見て安心するのではなく、むしろ不満を持って解決していくべきなのです。解決するといっても地球全体、人類全体を一つの答えで救うのは不可能ですし、時の流れによって変化する常識に対応していかなければならない人類は始まってたった二百万年。これからの歴史は続くのですから、私達はやらなければなりません。



魚

希遊

岩^{がけ}崖にたつ私を
海から見上げている魚

私の名も知らず

私の過去を知らず

ただ

私を見つめている一匹の魚

魚は風という名を知らず

ただ風をきくだけ

魚は月という名を知らず

ただ月にぬれるだけ

魚は空という名を知らず

ただ空の蒼を目に映すだけ

魚は愛という名を知らず

ただ一緒に生きていくだけ

魚は生という名を知らず

ただ波に揺れるだけ

魚は死という名を知らず

ただ波に浮かぶだけ

深い海の底で

時間^{とき}をもて遊びながら

人という名を知らず

ただ

人について考えるだけ

人は無知だと

そうね

魚がいいわ

次に

この幼い生命^{いのち}が
宿る肉体^{からだ}は――

白く泡立つ渦に

私が降り立つときも

あの魚は見ているのだろうか

もし

海が私を受け入れてくれたなら
私を仲間にして欲しい

小さなファンタジー

トランペット吹きの日

日はとつぷりと暮れて

校舎の間の陰鬱な空はどこまでも深かった

そんな空を見て彼女が言った

こんな色は

絵の具では絶対に出来ないと思わない？

夏の終わりに

大きな河に向かって座っていた

ただぼーっとして

ゆっくり流れる河を

そこに広がる一面の草を

ながめていた

そこには

目が覚めたばかりの頭のような

幻想的な美しさがあった

こんな気分は

絵の具では絶対に出来ないんだなあ

そんなことを考えながら

日当りのいい土手に

ゴロンと横になった

目がさめると

そこには広い空があった

世界は優しく僕を包んでいた

そこには存在するすべてのものが輝いていた

今日は彼女に会える

という気持ちだけが僕を支配していた
でも

会ってみると

何も言えなかった

昼下がりの教室

そのまどろんだ空気の中に

僕と

そして彼女がいた

いつしか

彼女が指名されて詩を読んでいるそこへ

柔らかな風が吹いてきて

すべてが

幻想のように

窓のそとへ

そして

どこまでも青い空へ吸い込まれていった

CRAFT

大内 佳代

私は不思議な物を拾った。

一九九九年TOKYO都市。私は壊れたエレベーターを尻目に、百二階まで階段を上がっていく途中だった。

三十八階から次の階までの間に、それは膝を抱えて座っていた。色白の額に青い金属シールを付けている少年型アンドロイド。

「何……してるの？」

少年が私に訊く。私は肩で息をしながら言った。

「家まで上がるの」

「ふーん」

結局、少年は私を背負って階段を上り始めた。

「ねえ」わたしは少年に訊く。「何してたの、あそこで」

少年は汗もかかずに六十九階を過ぎた。

「主人を探していたんだ」

「主人？——いなくなっちゃったの？」

「違う。見捨てられたんだ」

しばらく私達は黙っていた。

「ねえ。私が主人になってあげようか」

不意に少年の足が止まる。

「僕は……高いよ」

「どど、どれくらい」

私は預金高を考えた。

「そうだね。まずお金じゃ無理な物だよ」

「ええっ——宝石とか、芸術品？それとも惑星？」

「どんな物よりも高いものだよ」

私は少し後悔した。しかし、同時に私は彼が好きになっていた。

「分からない？降参？教えて欲しい？」

「うん」私は半分泣きながら言った。少年は私を、背中から降ろした。百二階だった。

「愛」だよ。僕に、誰よりもたくさんの「愛」をくれる？」

「……うん」

それから、私——少女型バイオロイド——と少年型アンドロイドは手をつないで家に帰った。

人類が減ってしまった、この地球^{ほし}で。



トワイライトゾーン

四次元からの使者

この世には、科学では説明のつかない不可解な現象が多くある。時間と空間を超えた一つの不可解な現象、これには人の心に大きく作用するものがあるのを忘れてはならない。

ある日、平凡な教師生活を送っていた彼、Aは京橋駅前で大柄な男に声をかけられた。

「兄さん、あんたは今の生活に満足してへんやろ？」

Aも、これは事実なので

「まあね。僕の授業は誰もまともに聞いてくれへん。」

「先生やってますんか。そやったらストレスも多いでしょう。これ買うてくれまへん。」

と、大柄な男はポケットから何やら黒い箱を取り出した。『悩みの種』変な名前が白抜き文字で書かれている。

「毎日、これに水をやりまんねん、花が咲くようになったらこいつに悩みを言うたったら心が晴れ晴れしてきまっせ。」

「くだらないものを売ってやがる——」

「おっちゃん、これいくらやねん？」

「五十円でよろしいでっせ。」

なぜか買ってしまった。五十円くらいなら損をしてもいいのだから。

Aは普段から儉約を心がけているというのに。

Aは独り住まいのアパートに帰ると、早速、『悩みの種』に水を

やった。

二週間もすると、その『悩みの種』は花を咲かせた。Aはその花を見ているにつれて、

「この花になら悩みを打ち明けられる
という気持ちになった。」

僕の給料もっと上がらんかなあ
早く嫁さんもらいたいなあ

僕の授業を生徒が真面目に聞いてくれへんかなあ
——もう一回B国へ行きたいなあ——

Aはこんなことを心に思った。その時、Aの耳に花が返事してくれたように聞こえた。

翌日、月曜日である。今日は朝礼がある。生徒に遅刻するなど言っておいて自分が遅刻しては仕方がない。いつもより二本も早い各駅停車の電車に乗る。急行電車などは停まらないのだ。

朝礼が終わり生徒が教室へ戻る。教師も職員室へ戻る。一時間目は授業はないのでのんびりとAがコーヒーを飲んでみると、

「A先生、来月から我々の給料たるものが、一律、一万五千円も上がるのを知っていますか。嬉しいことですね。さすが教育委員会だ。」

と、C先生が目細めて言う。

「へえ、そんなことがあるんですか。」

冷静を装ってAは言うが、内心は大喜びなのである。

二時間目は一番騒々しいと評判のD組の授業である。D組の教室に入る。

「休みはおらんか？」

「はい。」

授業を進める。が、今日は静かである。

「なんで、今日は静かやねん？」

と授業の途中で聞いてみた。

「そなん、当たり前やん。」

言われてみればそうであるが、どうも気にいらぬ。

———そういえば『悩みの種』のおかげかなあ———

その日の授業も終わり、アパートに帰る。結婚紹介センターから手紙が着ていた。

『ご希望の女性が見つかりました。』

もう一通あった。

『B国三泊四日の旅に当選しました。』

これは某テレビ局のクイズ番組に送ったものだ。まさか当たるとは思ってもみなかった。

———一応、全部の悩みが解消したことになるんかなあ———

その時である。電話が鳴り出した。

「もしもし、Aです。」

「いやあ、そろそろ悩みが解消したころやと思って電話しました。

京橋でお会いしたものですよ。」

「ああ、あの五十円の。」

お金のことが先に出るなんていうのがAらしい。

『『悩みの種』のことですが、あんたも悩みが解消したら、『悩みの種』になりませ。そないなったら、五十円で売らせてもらいまっさ。あと二十四時間人間の生活を楽しみなさい。』

電話は切れた。

———あんな種にはなりたくない———

———そうだ、どうせ、嘘に違いない———

段々、意識が薄れてくる。

———もう『種』になってしまったのか？———

———まだ、B国には行っていないんだ———

———嫁さんもらっていないんだ———

Aはすでに『悩みの種』となっていた。男はそれをつまんで、黒い箱に入れた。白抜き文字で『悩みの種』と書かれているあの箱に。

今日も京橋で大柄な男が

「兄さん、あんたは今の生活に満足してへんやろ？」



大手前の自然

真柴 知康

何気なく過ごしている校内に、たくさんの自然があることを死んでいますか。興味の無いことかもしれませんが、休み時間、放課後に少し散歩でもして下さい。たくさん植物に出会えるでしょう。この大手前高校は、小さな自然観察園なのです。

本館とクラブ更衣室の間に、大王松、蘇鉄、イチヨウ、藤、ドクダミ、紅葉、などが生えています。蘇鉄の葉は鋭く、雌株はたくさん赤い実がなります。又、ドクダミと共に薬草として有名です。イチヨウは、工事現場に生えているメタセコイアと同様に生きた化石と呼ばれています。そして、蘇鉄の下が校内唯一のシダ植物の棲息地です。

池の中では、睡蓮が美しい花を咲かせます。オオカナダモが生い茂り、魚が泳いでいます。水中微生物が、目に見えない世界で自由な生活を営んでいます。

グラウンドには、椿、シュロ、ミカンが生えています。ミカンは、冬においしそうな実をつけます。端には、タンポポ、オオバコなど多種の雑草が生えています。

別館裏には、ユキノシタ、イチジク、ヒマラヤスギ、夾竹桃、柿などが生えています。この辺りが雑草などを含めると、一番植物の種類が豊富な所です。柿の木には、たくさん養虫がついています。秋には実をつけるので、渋柿ながら鳥が集まってきました。この柿で干柿を作っている人もいます。

校内では、五十四種の植物が確認されています。全体では、七八十程度存在すると思います。

大阪城が近いので昆虫や鳥もたくさんいます。教室大に喰う昆虫がよく入ってきます。雨の日には、鳥が校舎内で雨宿りをします。見たことはありませんが、ネズミも住んでいます。

特別天然記念物のミミズもいます。といっても飼育です。カモノハシ、フニ、ムサビなどもあります。しかし、ほとんどの飼育が古いので汚れが目立ちます。そして、当校にはもっと素晴らしいものがあります。生徒にとっては、最も興味のある観察対象は教師なのです。

前述の自然とは別に、自然破壊によって消えていった生物も知っておいて下さい。校舎の改築工事で多くの生命が失われました。その例を三つほど書かせて下さい。

本館の工事により一般生徒の立ち入りが禁止された日の前日に、二羽のヒヨドリが孵化しました。このヒナ鳥達は確実に死んでいくでしょう。又、校舎の一面に美しい花を咲かせた藤も切られてしまいました。別館裏のヘビイチゴの群落が、工事のため完全に破壊されました。ヘビイチゴに関しては、瓦礫をかぶせたことが原因なので保護することは可能でした。

ほんの少しの自然に対する気配りがあれば、多くの生命が救われるのです。しかし、その気配りのないところが現代人の心かもしれません。新校舎が完成しても、生き物達の受難が終わることはないでしょう。しかし、全ての自然が失われるわけではありません。私は、残された自然と仲良く暮らそうではありませんか。

The 編集後記!

— または、編集委員、真実の叫び... —

顧問の先生方

県先生 黒田先生
雪矢先生 広田(大助)先生
竹中先生
吉澤先生

・ ありがとう
ございました。

2-11 長澤 秋徳

とっても
ねむたい
あ〜ねむい



部長さん

副部長さん

2-8 中嶋 弥恵子



役立たずの私を
支えてくださったみなさんに
最大級の感謝をこめて...

私の平常考査をかえして〜

2-12 山田 文乃



お元気
ですか?



1-10 古川 敏之

帰り道。
電車でロニー、
負持ちほ...
「勘弁してよ」



2-7 久保田 昌裕

たぬいむ
いす
まねえ!!



1-4 宮原 彩

「みんなで楽しむ
SPRING!」

になってたら
うれしいな...



1-5 白山 貴之

各クラブの皆様
御協力ありがとう
ございました。

現回の授業にて



1-5 橋本 一恵



こんなにも
たいへんだとは
思わなかつた。

2-16 石川 清子



みなさま
ありがとうございました。

1-8 大内 佳代

「CRAFT」巻頭言の
イラストと文は
私の作品♡
(読んでね、見てね)



2-4 岡和田 仁美



さいきんとってもよく
ねむれるんです
(平均8時間寝てるの)
とにかくできたん
ですなー。

1-6 大塚 剛史

読んでくださって
ありがとう♡



2-5 青山 貴子



去年のスプリング(春)
に、弟が生まれ
ました。



三十周年に寄せて

——区切りとしての三十——

朝、始まりを告げる本鈴。大手前高校の始業時間は八時三十分。そしてこの後、四時限目まで、授業終了の時刻は「何時三十分」ということになる。敢えてバチ当たりなことを言えば、授業終了のチャイムが鳴る「三十分」が待ちどおしい。(特にお腹がへってきたときなど) 気になる時刻は三十分なのである。そしてそんなことを考えていると、テストのときに何分の一かの確率で欠点というバチが本当に当たる。欠点は三十点未満。学校生活での三十という区切りはこんな感じで現れる。

さて、話は一気に紀元前の中国にとんでいく。

「世」という漢字がある。この字は辞書によると、十を三つ合わせてできたものだという。つまりこの字に当初は「三十、三十年、長い時間の流れ」という意味があったのである。後に転じて「世の中」という意味を表すことにもこの字が使われるようになった。世間、世界、世論など、今では後者の意味を含んだ「世」を使った言葉が、私達の生活の中で数多く用いられている。その分、「世」の持つ本来の「三十、三十年」という意味は現在ではもう見られなくなったようだ。しかし、世代、世紀などというように、時代の流れの中での区切られた一定の期間という意味を含んだ言葉は残っている。

ところで、どうして「三十年」なのだろう。二十年や二十五年ではだめなのか。そこでさらに辞書で詳しく調べると、へ父の後を継

いで家長になり、その地位を子に譲るまでの間」という記述があり、それがおよそ三十年間なのだそう。なるほど、自分の子を跡継ぎとして育てるには、十年や二十年では無理なのだろう。

三十年という時間は、一つのものを創り出し、そしてそれがある一つのカタチを確立していくために要する時間と言えないこともない。「吾十有五にして学に志す。三十にして立つ……」『論語』の中の有名な一節である。これは孔子が自らの生涯をふり返って言った言葉で、三十歳にして独立した立場に立てるようになったということだ。孔子にとっても三十は一つの区切りであったのだ。

今年でスプリングは三十号。スプリングも一つの区切りを迎える。しかし、果たしてこの三十年間にスプリングは何かを確立したのだろうか。これはいずれわかるであろう。何年か先には……。

スプリングが今後も永く続くことを願いつつ、とりあえず私は筆を置く。

……編集委員より……

今までスプリング30号を読んで下さった皆さん、そして発刊に際し、多大なご協力をいただいた先生方・生徒の皆さん、どうもありがとうございました。また一部原稿を掲載できなかった方、本当にすみません。この場をかりて、深くお礼とお詫びを申し上げます。

色々な事がありました。が、ようやくここまでこぎつけたスプリング30号。私達の感慨もひとしおです。名残りはつきませんが、ページがせまってきました。最後は編集委員一同で、締めくくりたいと思います。では——

私達のスプリングは永遠に不滅です!!